

明治国際医療大学 救急救命学科

講義概要

[2021]

救急救命学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
医学概論	後期	1	1
基礎ゼミ	前期	1	2
救急処置実習 A - I	通年	1	4
都市型救助実習	後期	1	2
ウォーターレスキュー実習	前期	2	1
スポーツ医学応用	後期	2	2
スポーツ医学基礎	前期	2	2
マウンテンレスキュー実習	後期	2	2
外科学概論	後期	2	1
救急医学概論	後期	2	2
救急処置概論	後期	2	2
救急処置実習 A - II	通年	2	4
疾病救急医学 III	後期	2	2
人体構造学 III	後期	2	2
病理学	後期	2	2
附属病院実習	後期	2	1
スポーツボランティア	後期	3	1
外傷救急医学 I	後期	3	2
環境障害と中毒	後期	3	1
救急医学各論	前期	3	2
救急処置各論	前期	3	2
救急処置実習 A - III	通年	3	4
救急処置実習 B (病院内実習)	後期	3	4
救急処置実習 C (救急車同乗実習)	前期	3	2
救急処置実習 D (海外実習)	前期	3	1
疾病救急医学 IV	後期	3	1
疾病救急医学 V	後期	3	2
生活習慣病とその予防	後期	3	1
東洋医学診断学・治療学	前期	3	2
外傷救急医学 II	前期	4	2
疾病救急医学 II	後期	4	2
疾病救急医学 VI	後期	4	1
合計単位数			62
省令で定める基準単位数			13

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本学の「建学の精神」「教学の理念」「沿革」「教育目標」を理解し、明治国際医療大学の学生として求められる学修態度と姿勢を明確にする。また、現代医療の課題を踏まえて看護学部、鍼灸学部、保健医療学部の教育概要を理解し、明治国際医療大学の求める医療人像について理解を深める。また、救急救命士が、知るべき研究内容や専門領域における基礎知識や特徴などを教授し、医療人となるための動機付けを行なう。</p>
授業計画	<p>第1回 「建学の精神」及び「教学の理念」について 【到達目標】 本学の建学の精神および教学の理念を理解する。</p> <p>第2回 救急救命士とは何か 【到達目標】 救急救命士の成り立ちを理解し、救急救命士の国家資格について理解を深める。資格の活用方法について習得する。</p> <p>第3回 鍼灸学科のカリキュラム（伊藤） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。多職種連携について理解を深める。</p> <p>第4回 柔道整復学科（岡田） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。多職種連携について理解を深める。</p> <p>第5回 看護学科のカリキュラム（桂） 【到達目標】 教育概要と目指す医療人像を理解する。多職種連携について理解を深める。</p> <p>第6回 現代医療における病院の役割について 【到達目標】 チーム医療、統合医療における救急救命士の係わりについて理解する。</p> <p>第7回 救急の沿革について 【到達目標】 病院前救急医療体制について理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で出題されたテーマや内容などについて自分で調べ、復習を1時間程度行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	<p>提出するレポート及び出席時間等を総合的に評価する（レポート70%、平常点30%）。</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：樋口 敏宏 研究室：病院1階MRセンター メールアドレス：higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名：伊藤 和憲 研究室：病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス：k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：林 知也 研究室：8号館4階教授室 メールアドレス：tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：苗村 建慈 研究室：病院2階教授室 メールアドレス：k_namura@meiji-u.ac.jp</p>

	<p>オフィスアワー：月曜日 16:30-17:00</p> <p>担当教員名 : 矢野 忠 研究室 : 1号館2階</p> <p>担当教員名 : 市川 哲 研究室 : 1号館2階</p>
備考	<p>樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。</p> <p>伊藤和憲：附属鍼灸センターでの臨床経験をもとに授業をすすめる。</p> <p>苗村建慈：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3, ○-2</p>

備考	日本におけるライフセービング活動の第一人者として、病院前における救護活動の発展と人命救助活動に従事している。その経験を基に授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3, ○-5

講義科目名称： 心理学

授業コード： 2E102

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 岳			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
日下 貴弘			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	コミュニケーション論について理解し、合わせて情報伝達という観点で自身のコミュニケーションについて考察し、読み書き話すという活用の力を身に付けられるようになる。そのうえで、医療におけるコミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）について理解を深めることができるようになる。また、情報リテラシーを身に付け、情報について自分自身で取捨選択しできるようになる。		
授業計画	第1講	<p>「ヘルスコミュニケーション」について</p> <p>[到達目標] コミュニケーション論を学ぶ理由を理解できる</p> <p>[授業形態] 可能なら、受講前に教科書に目を通しておいてください。目次だけでも結構です。終了後に講義内容に沿ってプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第2講	<p>コミュニケーション論の基本について</p> <p>[到達目標] コミュニケーション論の概略について理解できる</p> <p>[授業形態] 受講前に教科書のunit 1、unit 2を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第3講	<p>ことばをつかわないコミュニケーションについて</p> <p>[到達目標] コミュニケーションにおけることばの持つ意味を理解できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 3、4を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第4講	<p>コミュニケーションにおける理解と誤解について</p> <p>[到達目標] 何をどのように伝えればよいのか、適切な情報伝達について説明できる 会話の際に誤解を招かない表現を選択できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 5、6を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第5講	<p>コミュニケーションと文字について</p> <p>[到達目標] コミュニケーションにおける文字の役割を理解できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 7を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第6講	<p>映像のコミュニケーションについて</p> <p>[到達目標] コミュニケーションにおける映像の効果を理解できる 「印象操作」「演出」について具体的に説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 8、9を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第7講	<p>社会関係とコミュニケーションについて</p> <p>[到達目標] 社会、組織におけるコミュニケーションの技法について理解できる発言の「意図」について推測できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 10、11、12を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	
	第8講	<p>説得について</p> <p>[到達目標] 「説得」の技法を理解できる。欺瞞を指摘できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 13を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>	

	<p>第9講 「うわさ」の拡散と「流行」の普及について [到達目標] 「うわさ」の拡散や「流行」の普及について、具体例を挙げてその影響とともに説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit14、15を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第10講 「世論」と「メディア」について [到達目標] メディアの影響力について具体例を挙げて説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit16、17、18を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第11講 企業・スポーツとコミュニケーションの関わりについて [到達目標] マーケティングコミュニケーションについて実例を挙げて説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit19、20、21を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第12講 バーチャル空間とコミュニケーションについて [到達目標] バーチャル空間における情報リテラシーの有無、強弱について、その影響を指摘できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit22を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第13講 情報社会、災害とコミュニケーションについて [到達目標] 災害時のコミュニケーションとパニックの関係について説明することができる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit23、24を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第14講 ヘルスコミュニケーションについて [到達目標] ヘルスコミュニケーションの概略について理解できる</p> <p>[備考] 受講前に今までの受講内容について復習しておいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は教科書にそって進め、スライドを使って解説します。予習として教科書の指定unitを熟読し、よくわからない部分を把握しておいてください。また、授業では教科書に登場しない用語や事例も挙げて説明しますので、必ず筆記用具とノートを持って受講してください。
教科書	『コミュニケーション論をつかむ』（辻 大介・是永 論・関谷直也、有斐閣、2014年、本体2,000円+税）
参考書	なし
成績評価	①評価方法 : レポート70%、平常点30% ②評価基準 : レポートは内容を理解し、課題に対して十分に考察して、自分の考えを説明できているか否かで判定します。(出席していないと書けない課題が提示されます) 平常点は受講態度、出席の有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 日下貴弘 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了前後 (Classroomへのコメント)
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
日下 貴弘			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	読書を通して読解力を身につけることで、文章が書かれた意図やその影響について考察し、コミュニケーションにおける影響について把握することができるようになる。あわせて、文章構造を理解することで論文等、文章を書く準備や書き方を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 読解力とは [到達目標] リテラシーと読書の大切さを自覚し、読解力を身につける重要性を理解できる。小説など文章の構造を理解できる。</p> <p>第2講 [備考] 夏目漱石「坊ちゃん」、新美南吉「ごん狐」 著者の意図について [到達目標] 評論を通して「読み方」「読まれ方」が複数あることを理解し、考えながら読み、書くことの重要性が理解できる。</p> <p>第3講 [備考] ミゲル・デ・セルバンテス「ドン・キホーテ」、アントン・チェーホフ「桜の園」 テーマについて 1 [到達目標] 作品のテーマについての学習を通じて、文章の主題（言いたいこと）を説明することができるようになる。</p> <p>第4講 [備考] テーマについて 2 [到達目標] 作品のテーマについての学習を通じて、文章を要約することができるようになる。</p> <p>第5講 [備考] 表現するということ [到達目標] 文章表現を通じて概念を言葉で説明することの意味を理解し、言葉の使い方を身につけることができる。</p> <p>第6講 [備考] 論説文の構造 1 [到達目標] 論説文を読み解くことで、その構造を理解し、論理的に表現する方法を身につけることができる。</p> <p>第7講 [備考] 論説文の構造 2 [到達目標] 論説文の学習を通じて、論理的に記述することができるようになる。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業教材は基本的に青空文庫を活用しますので、可能なら、取り上げる作品を青空文庫にて事前に読んでおいてください。授業はスライドを使用し、朗読と合わせて解説を進めます。なお、国語辞典と筆記用具、ノートは必携です。
教科書	基本的に「青空文庫」を活用し、スライドでお見せしますので、とくに購入の必要はありません。
参考書	特になし
成績評価	①評価方法：課題評点70%、平常点30% ②評価基準：課題はその理解度、表現力を考慮して判定します。 平常点は受講態度、出席の有無、ジョウホウリテラシーの有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名：日下 貴弘 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス： オフィスアワー：ClassRoomのコメントで対応
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンライン、Meet）	GoogleClassroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本授業では、歴史的・哲学的に伝統医学を学んでいきます。そして、皆さんの医療・医学に関する見識を深めることが、本授業の目的です。
授業計画	<p>1回目 イン트로、健康維持増進と伝統医学 【到達目標】健康維持増進と伝統医学の関連を考察できる。 【備考】アンケートや小テストなども織り交ぜながら授業を進めていきます。</p> <p>2回目 伝統医学の話① 【到達目標】伝統医学の種類について解釈できる。 【備考】アンケートや小テストなども織り交ぜながら授業を進めていきます。</p> <p>3回目 伝統医学の話② 【到達目標】哲学的視点から伝統医学を考察できる。 【備考】アンケートや小テストなども織り交ぜながら授業を進めていきます。</p> <p>4回目 伝統医学の話③ 【到達目標】構造的視点から伝統医学を考察できる。 【備考】アンケートや小テストなども織り交ぜながら授業を進めていきます。</p> <p>5回目 中間まとめ 【到達目標】伝統医学の特徴を解釈することができる。 【備考】中間まとめをとおして、伝統医学の理解を深めていきます。Googleフォームを活用して実施します。</p> <p>6回目 東洋医学と薬膳 【到達目標】薬膳の特徴を解釈することができる。 【備考】アンケートや小テストなども織り交ぜながら授業を進めていきます。</p> <p>7回目 本授業の振り返りとまとめ 【到達目標】本授業で取り上げた内容を列挙できる。 【備考】Googleフォームで振り返り（試験）を行います。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の課題は、GoogleClassroomへUPします。 ・課題内容に応じて、グループまたは個人で取り組み、GoogleClassroomへ提出してください（初回の授業で説明します）。 ・本授業における時間外学習は、週4時間となります。
教科書	プリントを配布（GoogleClassroomへUp）
参考書	津谷喜一郎・長澤道行著『医療にみる伝統と近代』明石書店、2018年
成績評価	<p>【評価方法・基準】</p> <p>①授業中の態度（私語や迷惑行為などの不適切な態度で、1回マイナス5点：減点法）</p> <p>②最終課題点（100点満点）</p> <p>⇒①+②で評価します。</p> <p>※課題などへのコメント（評価）は、GoogleClassroomにUpします（全体or個別）。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：河井 正隆</p> <p>研究室：学修支援センター別室（3号館）</p> <p>メールアドレス：m_kawai@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：水曜日、午後5時30分～午後7時</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、GoogleClassroomでお伝えします。
	本授業では、ノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
樋口 敏宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	初年次教育の一環であり、学生間、学生-教員間のコミュニケーションを密接にすることでスムーズな大学教育への導入を図る。具体的には、医療に関する未知の世界に関心を持ち、大学で主体的に学ぶ意欲を高め、姿勢を整えること、「読み」「書き」「考える」能力を鍛え、基本的な学修作法を身につけることをめざす。また、救急救命士になるための心構えを明確にする。		
授業計画	第1講	救急救命学科の教育方針について（担当：樋口敏宏） 【授業概要】 救急救命学科の教育方針について概説する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内でディスカッションを行う） 【備考】 （予習）講義内容について事前自主学習を行う。 （復習）講義で学習した内容についてレポートにまとめる。	
	第2講	救急救命士になるために必要な大学教育について（担当：田中秀治） 【授業概要】 大学教育のうち、医学教育の重要性について概説する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内でディスカッションを行う） 【備考】 （予習）講義内容について事前自主学習を行う。 （復習）講義で学習した内容についてレポートにまとめる。	
	第3講	ホームルーム① 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内でディスカッションを行う） 【備考】 （予習）講義内容について事前自主学習を行う。 （復習）講義で学習した内容についてレポートにまとめる。	
	第4講	ホームルーム② 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内でディスカッションを行う） 【備考】 （予習）講義内容について事前自主学習を行う。（30分） （復習）講義で学習した内容についてレポートにまとめる。（30分）	
	第5講	ホームルーム③ 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内でディスカッションを行う） 【備考】 （予習）講義内容について事前自主学習を行う。（30分） （復習）講義で学習した内容についてレポートにまとめる。（30分）	
	第6講	ホームルーム④ 【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内でディスカッションを行う） 【備考】 （予習）講義内容について事前自主学習を行う。（30分） （復習）講義で学習した内容についてレポートにまとめる。（30分）	

	第7講	<p>ホームルーム⑤</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第8講	<p>ホームルーム⑥</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第9講	<p>ホームルーム⑦</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第10講	<p>ホームルーム⑧</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第11講	<p>ホームルーム⑨</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第12講	<p>ホームルーム⑩</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第13講	<p>ホームルーム⑪</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>
	第14講	<p>ホームルーム⑫</p> <p>【授業概要】 提示された課題について、グループディスカッションを行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内でディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 (予習)講義内容について事前自主学習を行う。(30分) (復習)講義で学習した内容についてレポートにまとめる。(30分)</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	必要に応じて適宜指示
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	出席状況と授業態度、レポート提出等により総合的に評価する(課題提出:70% 平常点30%) 本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1~4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : 病院1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00 担当教員名 : 田中 秀治 研究室 : 6号館1階講師室 メールアドレス : hidetana@kokushikan.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	樋口敏宏: 本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。 田中秀治: 救命救急センターで医師としての臨床経験に基づき授業をすすめる。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎-4, ○-3, ○-5

講義科目名称： キャリアデザイン

授業コード： 2E107

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
山谷 真			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： 生活と環境

授業コード： 2E108

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ レポート作成等	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	なし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名：前中 一晃（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-2・4		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンライン、 双方向性）	GoogleClassroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学でどのように学ぶのか、またそのために必要なスキルとは何かを学んでいきます。そして、授業の全体を通して、皆さんが学びに対するスキルの獲得や学びへの真摯な態度を培うことが、この授業の目的です。
授業計画	<p>第1講 大学ってどんなところ！？</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で求められる力や態度を具体的に述べることができる。 ・高校と大学との違いを述べるができる。 ・自らの学びの姿勢を見つめることができる。 <p>※課題1：高校と大学の違いをレポートする。</p> <p>第2講 1. 大学の昔と今、そして未来 2. 考える、てどういうこと？①</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（学）明治東洋医学院の歴史を知り、自らの位置を関連づけることができる。 ・学びのスキルや思考方法を活用できる。 <p>第3講 1. 考える、てどういうこと？② 2. 学習スタイルを知ろう！</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びのスキル、思考方法が活用できる。 ・自らの学習スタイルを知り、自らの学びの姿勢を対象化できる。 <p>第4講 Active Learning①：ディプロマ・ポリシーとICEループリック 1</p> <p>【到達目標】</p> <p>ディプロマ・ポリシーとICEループリックの作成を通して、自身の学びの姿勢が確認できる。</p> <p>※課題1：提出</p> <p>第5講 Active Learning②：ディプロマ・ポリシーとICEループリック 2</p> <p>【到達目標】</p> <p>ディプロマ・ポリシーとICEループリックの作成を通して、自身の学びの姿勢が確認できる。</p> <p>※課題2：提出</p> <p>第6講 Active Learning③：図式化に挑戦！</p> <p>【到達目標】</p> <p>選択した科目の重要ポイントを図式化により整理できる。</p> <p>※課題3：図式化の成果物を提出</p> <p>第7講 本授業の振り返りとまとめ</p> <p>【到達目標】</p> <p>本授業で学んだ内容を振り返り、授業の目的と今の自分を省察することができる。</p> <p>※レポート作成：提出</p> <p>第8講</p> <p>第9講</p> <p>第10講</p> <p>第11講</p> <p>第12講</p> <p>第13講</p> <p>第14講</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の課題は、GoogleClassroomへUPします。 ・課題内容に応じて、グループまたは個人で取り組み、GoogleClassroomへ提出してください（初回の授業で説明します）。 ・本授業における時間外学習は、週4時間となります。
教科書	授業テーマ毎に応じた、自作資料を配布します。
参考書	必要により、授業テーマ毎に資料として配布します。
成績評価	<p>【評価方法・基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業内容を踏まえた課題：100点満点。 ・60点以上を合格とする。

	※課題などへのコメント（評価）は、授業内で提示します（全体or個別）。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 河井 正隆 研究室 : 学修支援センター別室（3号館） メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、午後5時30分～午後7時
備考	本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。
	本授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎－2、○－3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、GoogleClassroomでお伝えします。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	中間試験そして総括 到達目標： ・第6回までの講義内容を総合的に理解できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	いろいろエネルギー 到達目標： ・エネルギー保存の法則を説明できる。 ・モノのエネルギーが説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	試験及びまとめ	

	<p>到達目標：全体的な概要の説明ができる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。 第14回 総括 到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し説明することができる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習(130分)と講義内容の復習(130分)を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	公務員試験 過去問 新クイックマスター 自然科学I (物理・化学・数学) 第7版. ISBN-10: 4844906437 改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本. 鈴木誠治 (著) ISBN-10: 404600777X
成績評価	2回の試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間. その他の時間はメールで予約を取って下さい。
備考	「◎-1」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：対面講義（ブレンド型）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【教育目標】 生物学について学ぶことは、自分自身をより深く理解することへとつながる。講義では、カラダの器官（臓器）の位置から始まり、カラダのなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織、器官、器官系へと順に学び、ヒトのからだのかたちやはたらきについて理解し、自分の言葉で説明できることを目指す。（解剖生理学への入門） ヒトのカラダの発生や遺伝の原理、人間が受精卵といった1個の細胞からどのようにして発生するのか、また子供はどのようにして親に似ているのかなど、生物の生きている不思議さと尊厳を学ぶ。医療人の一人として、ウイルスや微生物、植物、動物など生物界を通し、人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：胃、心臓ってどこにある？カラダの中の器官（臓器）がどこにあるのか知ろう。 [到達目標] ヒトのカラダの中の空間と器官（臓器）の位置関係が描ける。また器官の簡単なはたらきを説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 講義に必要な部分のプリントを配布する。講義前には各器官（心臓や腎臓、小腸など）がどこにあるか調べておくこと。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！次回講義までに必ず復習と予習をすること。次回の講義では、はじめの15分～30分で前回の講義内容をグループディスカッションして学修を深める（アクティブラーニング）。</p> <p>2回目 食物は口から入ってどこへ行く？食べ物はどう消化されるの？（消化器系と酵素） [到達目標] 口から肛門まで食べ物が通過する器官を説明できる。3大栄養素はどのように消化されるか説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 口腔、咽頭、食道、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、3大栄養素、タンパク質、糖質、脂質、消化酵素など。 講義前にWeb玉先生の指定された動画を見て、まとめノートを作成していることを前提として講義を進める（指定動画はGoogle Classroomで案内を行う）。そのため、講義までにWeb玉先生の指定動画内容を理解すること（予習：30分）。 講義中は各グループに分かれ、グループ内で各個人が必ず上記テーマ内容が説明できるように努める（アクティブラーニング）。わからない場合は徹底的に調べ、教員や友人にも聞き、まとめておき、講義後はそれを復習すること（復習：1時間）。 また、講義の終わりに講義内容の小テストを行い、どの程度理解できているか確認する。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。（3回目講義以降も同様）</p> <p>3回目 カラダをつくる物質は何からできているのか？ [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。三大栄養素のタンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 五大栄養素（タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル）と核酸、水など</p> <p>4回目 呼吸、なぜ酸素と二酸化炭素のガス交換が必要か？（呼吸器系） [到達目標] ガス交換としての呼吸器系（外呼吸と内呼吸）を説明ができる。さまざまな代謝系（代謝経路 マップ）の説明ができる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 呼吸器：鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺など</p> <p>5回目 酸素と栄養素を運搬する血液循環としての血管、心臓の循環器系とは？ [到達目標] 酸素・栄養素を運び、毛細血管で二酸化炭素と老廃物を交換する血液とポンプの役割としての心臓を通し循環器系を説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 循環器：心臓、動脈、静脈、生命の維持と活動に必要なエネルギーATP</p> <p>6回目 カラダの老廃物はどこへいく？（泌尿器系） [到達目標] カラダの中の老廃物はどこで作られ、どこへ運ばれるか説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 腎臓、尿管、膀胱、尿道、尿、アンモニア、尿素、尿酸など</p> <p>7回目 7回目 カラダをコントロールする神経系とは？ [到達目標] カラダを動かす運動神経、感覚を伝える感覚（知覚）神経、器官の働きをコントロールする自律神</p>

	<p>経を説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 中枢神経:脳、脊髄。末梢神経:脳神経、脊髄神経。体性神経、運動神経、感覚神経、自律神経など</p> <p>8回目 五感とは?(感覚器系) [到達目標] 見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れるなどの五感や感覚を説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>9回目 視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、触覚、感覚(表在感覚、内臓感覚、深部感覚)など 血液とカラダを守る免疫とは? [到達目標] 血液とカラダを守る免疫系を理解し説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 血液、血液の細胞、カラダを守る(免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など)、細胞性免疫、液性免疫</p> <p>10回目 ホメオスタシス(恒常性)とホルモン(内分泌系) [到達目標] 外部環境に対する体内環境の調節を説明できる。ホルモン(内分泌)調節について理解し説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>11回目 外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節(生体の化学成分はほぼ一定)、代謝、ホルモン(内分泌)。 11回目 命の誕生(生殖と発生)と性の決まるしくみ(生殖器) [到達目標] 生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>12回目 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞(精子、卵子、受精)減数分裂、染色体発生(受精卵の分化、胎児の発育・出生)。 遺伝子の働き(1) [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう①。 [備考] 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>13回目 13回目 遺伝子の働き(2) [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。オペロンを説明できる。 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう②。自分のDNAを見てみよう! [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 生命の設計図であるDNAを簡単な実験で見てみよう!(DNAはどれだけ集めれば目で見えるのか?)</p> <p>14回目 14回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>15回目 メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など 定期試験 各講義で行われた小テストをもとに定期テストを行う。(70%)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>講義は、講義前にWeb玉先生の指定された動画を見て、まとめノートを作成していることを前提として進める(Google Classroomで案内を行う)。そのため、講義までにWeb玉先生の指定動画内容を理解すること(予習:30分)。 講義中は各グループに分かれ、グループ内で各個人が必ず講義のテーマ内容が説明できるように努める(アクティブラーニング)。わからない場合は徹底的に調べ、教員や友人にも聞き、まとめておき、講義後はそれを復習すること(復習:1時間)。 また、講義の終わりに講義内容の小テストを行い、どの程度理解できているか確認する。 小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
教科書	(入学前教育として配布した教材) MOVE 人体のふしぎ [新訂版] 講談社編 2020年、2,200円(税込) + (講義時間ごとに補足プリントを配布)
参考書	『のほほん解剖生理学』玉先生 他(永岡書店)2016年、1,480円+税 高校教科書『生物』(教研出版)1,287円など 『生物用語集』吉田邦久 他共著(駿台文庫)1,250円+税 『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修(数件出版)1,130円+税 【もっと詳しく学びたい学生へ】 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳(丸善)15,000円+税
成績評価	第1回目から14回目までの講義内容に関連したヒトのからだの簡単な構造やはたらき、生命を構成する物質、染色体と遺伝子、遺伝などの基本知識を筆記試験で把握し、その理解度を評価する。 評価割合:小テスト30%、試験70%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 1号館2階 教授室または3号館 学修支援センター メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00

備考	①実務経験の有無：実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生物について講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2

講義科目名称： 物質の反応

授業コード： 2E112

英文科目名称： Chemical and material reactions (Basic Chemistry)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号、分子を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第3回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第4回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第5回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第6回 分子の間に働く力 到達目標：化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>第7回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第8回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第9回 溶液と濃度・コロイド 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第10回 化学反応 到達目標：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第11回 酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元 到達目標：酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>第12回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第13回 イオン化傾向・電池・電気分解 到達目標：イオン化傾向・電池・電気分解を説明できる。</p> <p>第14回 期末試験/無機・有機・高分子化合物 期末試験 到達目標：身近な化合物の性質を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習130分)
教科書	「化学の基礎—元素記号からおさらいする化学の基本—」 中川 徹夫著(化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
河合 裕子、梅田 雅宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とします。また、デジタルデータを正確に取り扱い、データの記録と解析をコンピュータを用いて達成できることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] オンラインストレージが利用できる 関数を使った計算を復習し、棒グラフを作成することができる キーボードショートカットを用いた操作を修得する [備考] 課題提出あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ① 度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題提出あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ② ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③ 散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など、必要に応じたグラフを選択して作成することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第7回 実験ノートとデジタルデータの取り扱い・試験 [到達目標] 実験で得たデータの安全な取り扱い方と実験ノートの意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 適した解析方法を選択して提示された数値データを正確に処理し、グラフ等を用いて視覚的にレポートを作成できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておきましょう（130分程度）。 ・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるように準備しておいて下さい。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めましょう（130分程度）。 ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておいて下さい。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

成績評価	評価割合は試験90%、課題10%とします。 試験は選択式および記述式の問題により、総合的にデータ処理能力の到達度を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-2, ○-1</p> <p>講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。 アクティブラーニング形式の授業は実施しない。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得することが大切である。この講義では、パターンプラクティスと音読を中心にして、中学校と高等学校の英語基礎の項目を習得し、4技能を身につけることを目指す。
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、this/that/these/those の使い方、リスニング、110字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞、what/whoの使い方、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞/命令文、itの使い方、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・where/when/whichの使い方、what time ~ /how/how old(tall) ~、リスニング、110字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在進行形/動名詞、過去形/過去進行形の使い方、リスニング、110字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・can/be able to/be going toの使い方、will/shallの使い方、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英文を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・must/may/の使い方、不定詞、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>8回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原級/比較級/最上級の使い方、受動態、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>9回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形、一般動詞のSVC/SV0+to(for)/SV00、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>10回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞+to/形式主語のit、SV0+to不定詞/SVOC、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>11回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の主格、目的格、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>12回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係副詞、知覚動詞/使役動詞、リスニング、170字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p> <p>13回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞修飾、過去分詞修飾、170字程度の簡単な英文音読と解釈 <p>[到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。</p>

	14回目 ・第1講～第13講までの復習、期末考査 [到達目標] 前半は考査に向けて勉強時間を設ける。後半は期末考査を行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	基本的にパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	高校で使用していた教科書・参考書
成績評価	「授業への参加度合い、積極性、提出物、各講義課題や小テスト等」30～50%、「中間考査と期末考査」50～70%を目安に考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	ディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得することが大切である。この講義では、パターンプラクティスと音読を中心にして、中学校と高等学校の英語基礎の項目を習得し、4技能を身につけることを目指す。
授業計画	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞、what/whoの使い方、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人称代名詞、what/whoの使い方、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞/命令文、itの使い方、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・where/when/whichの使い方、what time ~ /how/how old(tall) ~、リスニング、110字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在進行形/動名詞、過去形/過去進行形の使い方、リスニング、110字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・can/be able to/be going toの使い方、will/shallの使い方、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英文を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・must/may/の使い方、不定詞、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>8回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原級/比較級/最上級の使い方、受動態、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>9回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形、一般動詞のSVC/SV0+to(for)/SV00、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>10回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞+to/形式主語のit、SV0+to不定詞/SV0C、リスニング、140字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>11回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞の主格、目的格、リスニング、130字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>12回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係副詞、知覚動詞/使役動詞、リスニング、170字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>13回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞修飾、過去分詞修飾、170字程度の簡単な英文音読と解釈 [到達目標] 前半はパターンプラクティスで短い英文を練習し習得を目指す。後半は短い英語の文章を音読することで、内容把握できるようにする。それぞれの取り組みの最後に課題もしくは小テストを行う。 <p>14回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1講～第13講までの復習、期末考査

	[到達目標] 前半は考查に向けて勉強時間を設ける。後半は期末考查を行う。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	基本的にパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	高校で使用していた教科書・参考書
成績評価	「授業への参加度合い、積極性、提出物、各講義課題や小テスト等」30～50%、「中間考查と期末考查」50～70%を目安に考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習／遠隔	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得することが大切である。この講義では、医療現場や日常生活における様々なシチュエーションで必要となる会話表現と医療用語について学ぶ。
授業計画	<p>第1講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、時間の表現及び診療予約の英会話、リスニング [到達目標] 前半は時間の表現を学習する。後半は診療予約の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に時間の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第2講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業や仕事場の表現及び初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）、リスニング [到達目標] 前半は職業や仕事場の表現を学習する。後半は初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に職業や仕事場の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第3講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国及び初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）、リスニング [到達目標] 前半は国について学習する。後半は初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に世界の国や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第4講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道案内の表現及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半は道案内に使う表現について学習する。後半は道案内の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に道案内の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第5講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の館内案内の表現及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半は館内案内の表現について学習する。後半は館内案内の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に病院の館内案内の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第6講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者を適切な姿勢にさせる表現（採決や血圧測定等）及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半は患者を適切な姿勢にさせる表現について学習する。後半は患者を適切な姿勢にさせる表現の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に患者を適切な姿勢にさせる表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第7講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の駅や路線の表現、駅での乗り換えに関する英会話、リスニング [到達目標] 前半は鉄道の駅や路線の表現について学習する。後半は乗り換えに関する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に鉄道の駅や路線の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第8講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の部位確認、患者の症状を尋ね記録（内科中心）、リスニング [到達目標] 前半は身体の部位（内科中心）について学習する。後半は患者の症状を尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで連取を行う。最後に身体の部位や患者の症状を尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第9講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の部位確認、患者の症状を尋ね記録（外科中心）、リスニング [到達目標] 前半は身体の部位（外科中心）について学習する。後半は患者の症状を尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に身体の部位や患者の症状を尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第10講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストランでの注文の仕方及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半はレストランでの注文の仕方について学習する。後半はレストランでの注文の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後にレストランの注文の仕方とその英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第11講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家系図の確認、患者本人及び家族の既往歴等の確認、リスニング [到達目標] 前半は家系図について学習する。後半は患者本人及び家族の既往歴等を問う英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に家系図の表現や患者本人及び家族の既往歴等の確認する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第12講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状の発生時期や痛みの度合いを尋ね記録、リスニング [到達目標] 前半は症状の発生時期等の問い方を学習する。後半は症状の発症時期や痛みの度合いを尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に症状の発生時期や痛みの度合いを尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第13講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1講～第12講までの復習 [到達目標] しっかり復習し期末考査に備える。 <p>第14講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1講～第12講までの復習、期末考査 [到達目標] 前半は考査に向けて復習し、期末考査に備える。後半は期末考査を行う。
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいけば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。

教科書	English For Nurses Revised edition(看護系学生のための実践英語) 朝日出版 基本的に教科書とパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	教科書、高校で使用していた教科書や参考書
成績評価	「授業への参加度合い、積極性、提出物、各講義の課題や小テスト等」30～50%、「中間考査と期末考査」50～70%を目安に考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語を学ぶことである。発音が難しい、といわれている中国語の音声の仕組みを理解しつつ、身につける方法として；①シャドーイングの反復、リスニングと発音、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行的に練習し、身につける。②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ初級中国語の運用力を身につける。学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語とその表現法を日本語、英語と対照しつつ材料に採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つとする。</p>
授業計画	<p>1回目 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標] ①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」（p.74-75）に基づいて学ぶ。教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備（p11-16）を予習する。 [備考]補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>2回目 第1課「自己紹介」を学ぶ [到達目標]発音：単母音・声調・轻声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。 [備考]次回授業の準備：p.17-18「ドリル」を完成し、p.19-22を予習する。</p> <p>3回目 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p.20）の発音練習・書取を行う。 [備考]さらに、次回授業の準備：p.23-24「ドリル」を完成し、p.25-28を予習する。</p> <p>4回目 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。 [備考]さらに、発音：鼻母音と「新出語句」（p.26）の発音・書取を行う。</p> <p>5回目 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。 [備考]次回授業の準備：p.29-30「ドリル」を完成し、p.31-35を予習する。</p> <p>6回目 第4課「病室はどこですか」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。 [備考]さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p.33）の練習・書取を行う。</p> <p>7回目 第4課「病室はどこですか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。 [備考]次回授業の準備：p.36-37「ドリル」を完成し、p.38-41を予習する。</p> <p>8回目 第5課「具合はいかがですか」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。 [備考]さらに、発音：「新出語句（p.38）」「補足語句（p.40）」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>9回目 第5課「具合はいかがですか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。 [備考]次回授業の準備：p.42-43「ドリル」を完成し、p.44-46を予習する。</p> <p>10回目 第6課「心配ありません」の学習</p>

	<p>[到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考]さらに、発音：「新出語句 (p. 44)」「補足語句 (p. 46)」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>11回目 第6課「心配いりません」の復習 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>12回目 [備考]次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。 また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認、補正する。</p> <p>13回目 [備考]さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。 さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>14回目 [備考]また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。また前回ドリルの答え合わせを行う。 [備考]評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>①予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果がある。特にイントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果がある。</p> <p>②シャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高い。「ドリル」を完成することも定着するためには大切である。</p> <p>③ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来る。自分で時間の配分を考えながら、実行することを習慣にすると効果は高い。</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100 円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%) の成績を総合して評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ)</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
荻野 豊			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	フランス語の基本的な文法を学び、フランス語の語彙の拡大に努めるとともに、旅行などに必要な日常会話を練習する。また、フランスの歴史・文化に触れ国際的な視野をもった人格の形成をめざす。		
授業計画	第1講	冠詞と名詞 【到達目標】 (文法) 冠詞の役割と種類を理解する (会話) あいさつをする (トピック) シャンゼリゼ	
	第2講	形容詞 【到達目標】 (文法) 形容詞と名詞の結びつきを理解する (会話) お礼をする	
	第3講	人称代名詞 【到達目標】 (文法) 人称代名詞の種類を理解する (会話) お詫びをする (トピック) モンマルトル	
	第4講	所有形容詞 【到達目標】 (文法) 所有形容詞の種類を理解する (会話) 返事をする	
	第5講	直接目的語・間接目的語 【到達目標】 (文法) 直接目的語・間接目的語の違いを理解する (会話) 気持ちを表す (トピック) ムーランルージュ	
	第6講	動詞 (1) 「～する」 【到達目標】 (文法) 動詞の活用を理解する (小テスト) 第1講から第5講までの内容の理解度を確認する	
	第7講	動詞 (2) 「～である」「～を持つ」 【到達目標】 (文法) 動詞の活用を理解する (会話) 自分のことを伝える	
	第8講	否定文 【到達目標】 (文法) 否定文のつくり方を理解する (会話) たずねる (トピック) シテ・ユニヴェルシテール	
	第9講	疑問文 【到達目標】 (文法) 疑問文のつくり方を理解する (会話) 時間をきく	
	第10講	疑問詞 【到達目標】 (文法) 疑問詞の種類・用法を理解する (会話) いくらかをきく (トピック) クロワッサン	
	第11講	過去 【到達目標】 (文法) 過去の表現を理解する (小テスト) 第6講から第10講までの内容の理解度を確認する	
	第12講	単純未来 【到達目標】 (文法) 単純未来の表現を理解する (会話) 予定を伝える	
	第13講	受動態 【到達目標】 (文法) 受動態のつくり方を理解する (会話) 希望を伝える (トピック) ポルト・ディタリ	
	第14講	代名動詞 【到達目標】 (文法) 代名動詞の意味と用法を理解する (まとめ) 第1講から第14講までの要点をまとめる	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	繰り返しテキストを音読し、暗唱する。また授業内容を確認するために課題を課す。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する。これらの成果を確認するため小テストを行う。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価	出席回数・小テスト・期末テストなどから総合的に評価する。		

担当教員の基本情報	担当教員名 : 萩野 豊 研究室 : 非常勤講師控室 メールアドレス : og-yutaka@hotmail.co.jp オフィスアワー : 授業の前後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、梅田 雅宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを活用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るに当たり必要なコンピュータスキル(特にExcel)と犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標] 本学のコンピュータ利用方法を理解する コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考] 入学時ガイダンスでの配布物（パスワードが記載された用紙）を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標] 電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第3講	<p>必要に応じてUSBメモリーを持参すること（任意）</p> <p>学修の記録とポートフォリオ</p> <p>[到達目標] 学修記録の必要性を理解する Cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第4講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトが使える、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標] グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標] 引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第8講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考] 表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第9講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>IT情報リテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスなマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策 について知識を修得する [備考] 講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施 NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと 文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第10講</p> <p>第11講</p> <p>ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第12講</p> <p>デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第13講</p> <p>デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第14講</p> <p>プログラミングと論理的思考 [到達目標] プログラミングとは何かを理解する スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題提出あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(35分程度)。 必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(35分程度)。 第9講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック 2021年度版」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。 評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1, ○-2 講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 医療システムから出力されるデジタルデータの取り扱いを想定し、実際に取得したデータを使って表計算ソフトを利用した四則演算・データ解析・統計学の手法を活用したデータ処理を実践することで、データを正しく判断できる力を養います。また、医療情報の新しい展開として期待されるウェアラブルデバイスなどIoTの現状について、医療情報収集における課題やセキュリティ対策などを踏まえて調査し、今後のデータ活用のあり方を考えます。</p> <p>【到達目標】 ・医療情報システムから出力されるデータを正しく把握するための統計学の基礎知識を修得する。 ・医療システムについて理解し、診療情報を含めた医療情報の流れなどの仕組みを理解し、医療情報のあり方について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1講 統計学の概念 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第2講 統計手法の理解 [到達目標] パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 対応の有無について理解し、判別することができる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第3講 グラフを使った多様な表現方法とデータ処理 [到達目標] グラフで表現できる事項を理解する データの可視化において必要となる「正しいグラフの選択」ができる データ処理上の誤りを指摘することができる 複合グラフの読み取りができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第4講 実務における統計 [到達目標] 推計統計と記述統計の違いを理解する 統計が必要となる場面を想定し、どのような技術を身につける必要があるのか考察する データをグラフや表で表現することができる データに即した統計的表現を選択することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第5講 統計処理の実践 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと表および数値の読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる 独力でデータの統計処理を実施できる [備考] 講義後半の時間で到達度試験を実施する</p> <p>第6講 医療情報システムとデータベースの概念 [到達目標] 医療システムの仕組みを理解する 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] レポートあり</p> <p>第7講 IoT技術の医療へ新しい展開の理解 [到達目標] 医療用デバイスの意義と問題点について、情報を集めることができる 多岐にわたるデバイスから得られるデータがどのように収集され、活用されているのかを理解する [備考] レポートあり</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめましょう。(130分程度) ・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躓き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにして下さい。(130分程度) ・講義をやむを得ず欠席した場合は必ず欠席した講義内容を確認し、演習問題にチャレンジして下さい。 ・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	評価割合は試験80%、課題20%とします。 試験は選択式の問題を解答し、統計学的な判断力を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-2</p> <p>講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
皆藤 竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	本講義では、医療従事者に必要不可欠な医学概論について学び、特に医療の歴史・医療の概念・医の倫理・科学的思考の基礎について理解することを目的とする。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 【到達目標】 医学概論で学ぶことの意義について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第2講 医療の歴史・心肺蘇生法の歴史 【到達目標】 医療の歴史・心肺蘇生法の歴史について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第3講 医療および健康の概念 【到達目標】 医療および健康の概念について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第4講 生命倫理と医の倫理 【到達目標】 生命倫理と医の倫理について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第5講 傷病者の権利を守る立場 【到達目標】 傷病者の権利について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第6講 科学的思考の基礎 【到達目標】 科学的思考の基礎について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第7講 まとめ・期末筆記試験 【到達目標】 第1講～第6講までの内容を復習して、期末筆記試験を行い、理解を確認する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回の講義内容について予習（50分）を行い、講義終了後に講義内容の復習（50分）を行うこと。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト
参考書	特になし
成績評価	期末試験：50%，課題レポート：20%，毎授業のコミュニケーションカード：20%，授業態度10%
担当教員の基本情報	担当者：皆藤竜弥 研究室：6号館2階研究室 E-mail：t_kaito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後
備考	医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-2，○-4

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
柳 聖美			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士に必要な、傷病者への問診・情報収集の方法について学ぶ。救急救命処置を実施する際に行うインフォームドコンセントについても理解する事を目的とする。 また、病院や連携機関とのブラインドコミュニケーション方法を学ぶことで、実際の救急現場で傷病者対応や病院連絡を円滑に行えることを目的としている。そして、傷病者への第一印象が重要であるため非言語的コミュニケーションについて理解する事である。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・接遇とコミュニケーションの種類 【授業概要】 ・オリエンテーション ・医療コミュニケーション学の授業方針・概略の説明を行う。 ・傷病者に対する接遇の概要とコミュニケーションの種類を行う。</p> <p>【到達目標】 ・医療コミュニケーションの目的・構造が説明できる。 ・接遇の必要性が説明できる。 ・コミュニケーションの方法について、それぞれ説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：傷病者とのコミュニケーションの1つである「接遇」について参考文献を見て調べてくる。(30分) 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。(30分)</p> <p>第2講 成人傷病者とのコミュニケーション 【授業概要】 ・成人傷病者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p>【到達目標】 ・成人とのコミュニケーションが実施できる。 ・SAMPLER, OPQRSTについてそれぞれ説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：成人傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べてくる。(30分) 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。(30分)</p> <p>第3講 高齢傷病者とのコミュニケーション 【授業概要】 ・高齢傷病者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p>【到達目標】 ・高齢傷病者とのコミュニケーションが実施できる。 ・加齢による身体の変化について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：高齢傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べてくる。(30分) 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。(30分)</p> <p>第4講 小児傷病者とのコミュニケーション 【授業概要】 ・小児傷病者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p>【到達目標】 ・小児傷病者とのコミュニケーションが実施できる。 ・小児の病態・知的内容について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：小児傷病者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べてくる。(30分) 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。(30分)</p> <p>第5講 家族・関係者とのコミュニケーション</p>

	<p>【授業概要】 ・傷病者の家族・関係者とのコミュニケーションおよび、その際の情報収集に関して説明する。</p> <p>【到達目標】 ・傷病者の家族・関係者とのコミュニケーションが実施できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：傷病者の家族・関係者とのコミュニケーションについて参考文献を見て調べてくる。(30分) 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。(30分) 医師とのコミュニケーション・病院連絡要領</p> <p>【授業概要】 ・医師とのコミュニケーションおよび、その際の情報伝達に関して説明する。 ・病院連絡要領について説明する。</p> <p>【到達目標】 ・医師とのコミュニケーションが実施できる ・MISTが説明できる。 ・ブラインドコミュニケーションについて説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 予習：医師とのコミュニケーション・病院連絡要領について参考文献を見て調べてくる。(30分) 復習：授業内で行った内容をレポートにまとめる。(30分) まとめ</p> <p>【授業概要】 ・第1～6講で学習した内容の総復習を行う。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有:授業内容のディスカッション形式</p> <p>【備考】 復習：医療コミュニケーション学で学んだ内容についてレポート作成を行う。(30分)</p>
第6講	
第7講	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：授業で提示された課題について自身で調べ、考察する。(50分) 復習：授業で学習した内容についてレポートにまとめる。(50分)
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	なし
成績評価	<p>課題が全て提出されていることが成績評価の条件となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内での質疑応答(40%) ・課題の提出状況(60%) <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：柳 聖美 研究室：6号館2階研究室 メールアドレス：s_yanagi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	
	【この授業とディプロマポリシーとの関連】 ◎-5, ○-2, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久、林 知也			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「人体の構造と機能 I」は、人体をその構造や機能を基にいくつかの器官系に分けて形態学的・機能学的に理解しようというものである。救急救命士にとって人の命を守るためにも、医学領域としてはじめに身につけないといけない最も重要な医学基礎である。本教科では、人のカラダを器官系に分けて逐次解説し、得られた知識を基に分解された人体を自ら再び一個の人体として再構築する能力を養いその構造と機能を理解し、説明できることを最終目的とする。従って、各講義においては、各自が講義テーマにある器官系の構造と機能を説明できるようにすることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 人体を構成する各部の名称、体表からみた構造の特徴と名称、身体の機能を調節する末梢神経系の構造の特徴と働き、神経系を統括する中枢神経系の構造の特徴と働き、換気とガス交換を行う呼吸器系の構造の特徴としくみ、ガスや栄養素を全身に運搬する循環器系の構造的特徴としくみ等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>1回目 体表解剖：鳴瀬担当 体表解剖 [授業概要] 人体各部と体表からみた構造と名称について [到達目標] 人体各部と体表からみた構造と名称、人体の位置、方向、運動について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のため Google form で問題を解いておくこと。 体表からみる人体の構造 ①『救急救命士標準テキスト』p63-76を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>2回目 神経系（1）中枢神経系：鳴瀬担当 神経系（1）中枢神経系 [授業概要] 神経系の成り立ちから中枢神経（脳：大脳、間脳、小脳、脳幹、延髄と脊髄）の構造について [到達目標] 神経系の成り立ちから中枢神経（脳：大脳、間脳、小脳、脳幹、延髄と脊髄）、脳脊髄液、脳脊髄膜について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のため Google form で問題を解いておくこと。 神経系（1）中枢神経系 ①『救急救命士標準テキスト』p77-84を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>3回目 神経系（2）末梢神経系：鳴瀬担当 神経系（2）末梢神経系 [授業概要] 脳神経（1 2対）から脊髄神経（3 1対）の構造と伝道路、反射、自律神経について [到達目標] 脳神経（1 2対）から脊髄神経（3 1対）の構造と伝道路、反射、自律神経について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のため Google form で問題を解いておくこと。 神経系（2）末梢神経系 ①『救急救命士標準テキスト』p84-91を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>

4回目	<p>感覚器系：鳴瀬担当</p> <p>感覚器系 [授業概要] 感覚器の種類と構造について（視覚器、聴覚器、平衡感覚器、皮膚感覚器） [到達目標] 視覚器、聴覚器、平衡感覚器、皮膚感覚器について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。</p> <p>感覚器系 ①『救急救命士標準テキスト』p92-96、p155-158を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
5回目	<p>呼吸器系：鳴瀬担当</p> <p>呼吸器系 [授業概要] 呼吸器（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）の構造と呼吸筋について [到達目標] 呼吸器（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺）の構造と呼吸筋について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。</p> <p>呼吸器系 ①『救急救命士標準テキスト』p97-107を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
6回目	<p>循環器系（1）：鳴瀬担当</p> <p>循環器系（1） [授業概要] 循環器系（心臓）の構造について [到達目標] 循環器系の構成と役割、心臓の構造について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。</p> <p>循環器系（1） ①『救急救命士標準テキスト』p108-118を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
7回目	<p>循環器系（2）：鳴瀬担当</p> <p>循環器系（2） [授業概要] 動脈、静脈、毛細血管、リンパ管の構造と人体における主な血管の名称について [到達目標] 動脈、静脈、毛細血管、リンパ管の構造と人体における主な血管の名称について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。</p> <p>循環器系（2） ①『救急救命士標準テキスト』p108-118を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
8回目	<p>細胞・体液：林担当</p> <p>細胞・体液 [授業概要] 細胞の構造と機能、体液、物質移動について [到達目標] 細胞膜と細胞内小器官の機能、体液の区分と特徴、各物質移動の特徴について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 56-62）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
9回目	<p>神経系（1）：林担当</p>

	<p>神経系（１） [授業概要] 神経の基礎、反射について [到達目標] 静止膜電位、活動電位、興奮の伝導、シナプス伝達、反射の概要といくつかの反射の特徴について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 77-79, 90-91）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>10回目 神経系（２）：林担当 神経系（２） [授業概要] 自律神経の機能、中枢神経系の機能について [到達目標] 自律神経の特徴と機能、大脳、間脳、小脳、脳幹の機能について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 80-82, 87-90）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>11回目 呼吸器系（１）：林担当 呼吸器系（１） [授業概要] 換気と呼吸気量について [到達目標] 内呼吸と外呼吸、換気のしくみ、呼吸気量について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 98, 102-105）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>12回目 呼吸器系（２）：林担当 呼吸器系（２） [授業概要] 換気と呼吸気量について [到達目標] ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調節について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 98, 102-105）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>13回目 循環器系（１）：林担当 循環器系（１） [授業概要] 心臓の機能について [到達目標] 心臓の興奮とその伝播、心電図、心周期、心音、スターリングの心臓の法則、心拍出量について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 112-115）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>14回目 循環器系（２）：林担当 循環器系（２） [授業概要] 脈管系の機能と循環調節について [到達目標] 血管の機能的分類、血圧、リンパ系、神経系と内分泌系による循環調節について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 115-118）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>15回目 定期試験 各講義で行われた内容をもとに定期テストを行う。（100点満点）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>鳴瀬担当：講義では各グループに分かれ、個人個人が自分の言葉で重要事項を説明できるよう練習をしてもらう（アクティブラーニング）。よって、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、教科書やプリントを理解しておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>従って、授業時間外の学習として講義前までに該当する教科書あるいは参考資料によって予習を行い（予習：1時間程度）、Google formで各項目の確認問題を解いておく。授業後には配布したプリントやノートを見直し、不備な所を教科書、参考書をもとに訂正あるいは補充して復習しておくように努める（復習：1時間程度）。</p>
教科書	救急救命士標準テキスト 救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 2020年、19,800円（税込）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「カラダの地図帳 新版」 佐藤達夫監修 講談社 2013、4,400円（税込） ・「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集 メジカルビュー社 2014、6,050円（税込） （さらに深く勉強したい人のために） ・「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ、M.J. ティモンズ、M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳、西村書店、8,580円（税込） ・「標準生理学 第9版」 本間研一監修 医学書院 2019、13,200円（税込）

成績評価	第1回目から14回目までの講義内容に関連したヒトのからだの構造や機能についての理解度を定期試験によって評価する。 評価割合：試験100 %
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 1号館2階 教授室または3号館学修支援センター室へ メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00</p> <p>担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日放課後17:30-18:30</p>
備考	<p>① 鳴瀬：実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の構造について講義を行う。 林：実務経験あり。医科大学の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の機能について講義を行う。</p> <p>② この授業とディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久、林 知也			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 「人体の構造と機能Ⅱ」は、人体をその構造や機能を基にいくつかの器官系に分けて形態学的・機能学的に理解しようというものである。救急救命士にとって人の命を守るためにも、医学領域としてはじめに身につけないといけない最も重要な医学基礎である。本教科では、人のカラダを器官系に分けて逐次解説し、得られた知識を基に分解された人体を自ら再び一個の人体として再構築する能力を養いその構造を理解し、説明できることを最終目的とする。従って、各講義においては、各自が講義テーマにある器官系の構造と機能を説明できるようになることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化器系の構造と働き、体液の恒常性維持に必要な尿生成と排泄を行うための構造としくみ、種の保存に必要な生殖器系の構造としくみ、身体を動かす骨格筋や内臓臓器を動かす心筋と平滑筋の構造としくみ、生体機能を調節するためのホルモンを産生・分泌する内分泌系の構造と各ホルモンの働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働きと生体を防御する免疫系の働き等を説明できる。</p>
授業計画	<p>1回目 消化器系（1）：鳴瀬担当 消化器（1） [授業概要] 口腔から肛門までの消化管の構造について [到達目標] 口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸（虫垂を含む）、結腸、直腸）肛門の消化管について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 消化器系（1） ①『救急救命士標準テキスト』p119-128を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>2回目 消化器系（2）：鳴瀬担当 消化器（1） [授業概要] 肝臓、胆嚢、胆道系、膵臓、腹膜と腸間膜の構造について [到達目標] 肝臓、胆嚢、胆道系、膵臓、腹膜と腸間膜について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 消化器系（2） ①『救急救命士標準テキスト』p119-128を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>3回目 泌尿器系：鳴瀬担当 泌尿器系 [授業概要] 泌尿器系の腎臓から外尿道口までの尿路の構造について [到達目標] 腎臓の構造、ネフロン（糸球体、ボウマン嚢、尿細管）、尿管、膀胱、尿道について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 泌尿器系 ①『救急救命士標準テキスト』p129-131を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブ</p>

4回目	<p>ラーニング)。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>生殖器系：鳴瀬担当</p> <p>生殖器系 [授業概要] 男性生殖器と女性生殖器の構造について [到達目標] 男性生殖器（精巣、精管、精嚢、前立腺、尿道球腺、尿道、陰茎）、女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、膣、陰核などの外生殖器）について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。</p> <p>生殖器系 ①『救急救命士標準テキスト』p132-138を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
5回目	<p>筋・骨格系（運動器）：鳴瀬担当</p> <p>運動器系 [授業概要] 骨格筋、平滑筋、心筋の構造、全身の主な骨格筋と筋収縮について [到達目標] 骨格筋、平滑筋、心筋の構造および全身の主な骨格筋と筋収縮、骨の構造、全身の主な骨と関節について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。</p> <p>筋・骨格系（運動器）（1）筋学 ①『救急救命士標準テキスト』p151-158を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
6回目	<p>消化器系（1）：林担当</p> <p>消化器系（1） [授業概要] 咀嚼と嚥下、胃での消化について [到達目標] 咀嚼と嚥下の特徴、胃の蠕動運動と胃液の特徴、各消化酵素の働きについて説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 121-123）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。</p>
7回目	<p>消化器系（2）：林担当</p> <p>消化器系（2） [授業概要] 小腸での消化と吸収、大腸での吸収、排便反射、肝臓の機能について [到達目標] 胆汁の働き、小腸の吸収の特徴、大腸での吸収の特徴、排便反射の特徴、肝臓の機能について説明できる [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 124-128）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p>
8回目	<p>泌尿器系：林担当</p> <p>泌尿器系 [授業概要] 尿の生成、排尿、酸塩基平衡について [到達目標] ネフロンの特徴、濾過・再吸収・分泌の特徴、排尿反射、酸塩基平衡の調節のしくみ、酸塩基平衡の破綻について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 129-131）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p>
9回目	<p>生殖器系：林担当</p> <p>生殖器系 [授業概要] 男性生殖器と女性生殖器の機能について [到達目標] 精巣の働き、性周期の特徴について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 132-137）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p>

	<p>10回目 内分泌系（1）：林担当 内分泌系（1） [授業概要] 内分泌器官、ホルモンの総論、視床下部・下垂体からのホルモンについて [到達目標] 内分泌器官、ホルモンの定義、ホルモンの分類、負のフィードバック、視床下部ホルモン・下垂体前葉ホルモン・下垂体後葉ホルモンの働きについて説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 139-140）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>11回目 内分泌系（2）：林担当 内分泌系（2） [授業概要] 甲状腺・副甲状腺・副腎・膵臓・性腺からのホルモンについて [到達目標] 甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、膵臓ランゲルハンス島からのホルモン、精巣からのホルモン、卵巣からのホルモンの作用について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 140-142）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>12回目 血液・免疫系（1）：林担当 血液・免疫系（1） [授業概要] 血球、血漿、血液型について [到達目標] 血液の働き、血球の種類と働き、血漿成分の特徴、血液型の特徴について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 143-147）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>13回目 血液・免疫系（2）：林担当 血液・免疫系（2） [授業概要] 止血と凝固、免疫系について [到達目標] 血小板による止血、血液凝固反応、線維素溶解現象、免疫に関わる細胞の働き、液性免疫、細胞性免疫について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 147-150）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>14回目 生命の維持：林担当 生命の維持 [授業概要] 栄養・代謝とホメオスタシスについて [到達目標] 各栄養素の特徴、エネルギー代謝、ホメオスタシスを維持するための調節機能について説明できる。 [予習・復習] 事前に教科書の該当範囲（p. 159-162）を熟読すること。 授業後にGoogle formでの確認テストを受け、該当範囲に関する理解を深めること。 アクティブラーニングの有無：有 前回の確認テストに対するフィードバックを行う。</p> <p>15回目 定期試験 各講義で行われた内容をもとに定期テストを行う。（100点満点）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	鳴瀬担当：講義では各グループに分かれ、個人個人が自分の言葉で重要事項を説明できるよう練習をしてもらう（アクティブラーニング）。よって、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、教科書やプリントを理解しておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。 従って、授業時間外の学習として講義前までに該当する教科書あるいは参考資料によって予習を行い（予習：1時間程度）、Google formで各項目の確認問題を解いておく。授業後には配布したプリントやノートを見直し、不備な所を教科書、参考書をもとに訂正あるいは補充して復習しておくように努める（復習：1時間程度）。
教科書	救急救命士標準テキスト 救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 2020年、19,800円（税込）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「カラダの地図帳 新版」 佐藤達夫監修 講談社 2013、4,400円（税込） ・「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集 メジカルビュー社 2014、6,050円（税込） <p>（さらに深く勉強したい人のために）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ、M.J. ティモンズ、M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳、西村書店、8,580円（税込） ・「標準生理学 第9版」 本間研一監修 医学書院 2019、13,200円（税込）
成績評価	第1回目から14回目までの講義内容に関連したヒトのからだの構造や機能についての理解度を定期試験によって評価する。 評価割合：試験100 %
担当教員の基本情報	担当教員名：鳴瀬 善久 研究室：1号館2階 教室または3号館学修支援センター室へ

	メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00 担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日放課後17:30-18:30
備考	① 鳴瀬：実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の構造について講義を行う。 林：実務経験あり。医科大学の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の機能について講義を行う。 ② この授業とディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2

講義科目名称： 生化学

授業コード： 2E126

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
辻村 敦			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
高橋 司、北村 誠、皆藤 竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士の資格取得及び資格取得後に救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的として、わが国の救急医療体制の整備状況、災害医療体制、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療情報システム等について体系的に講義を行う。			
授業計画	第1講	ガイダンス・わが国の病院前救急医療体制 [到達目標] わが国における救急自動車による救急搬送の現状について、その概要を説明できる。 ドクターヘリおよびドクターカーによる病院前医療の適応、運用方法、現況について、それぞれ説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング無 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としてはわが国における病院前医療体制についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。		
	第2講	救急告示病院と周産期・精神科・小児の救急医療体制 [到達目標] 救急告示病院制度と初期・二次・三次救急医療機関の役割と要件について説明できる。 周産期、精神科、小児の救急医療体制について、それぞれ説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急告示病院制度と周産期・精神科・小児の救急医療体制についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。		
	第3講	救急医療情報センターと救急相談センター [到達目標] 救急医療情報センターと救急相談センターの役割について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント、小テストに対するフィードバック [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急医療情報センターと救急相談センターの役割についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。		
	第4講	災害の定義 [到達目標] 災害の定義を述べ、いくつかの分類を列挙できる。 最近、世界または国内で発生した主な災害をいくつかあげ、それぞれの概要について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては大規模災害についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。		
	第5講	災害医療体制 [到達目標] 災害医療に関する法律についてそれぞれ説明できる。 災害拠点病院・DMAT・緊急消防援助隊の役割と内容についてそれぞれ説明できる。 災害時の経時的医療ニーズの推移について説明できる。 災害対応における他機関との連携について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては大規模災害についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。		

第6講	<p>多数傷病者対応・特殊災害</p> <p>[到達目標] 多数傷病者発生時の具体的対応について説明できる。 CSCATTのそれぞれの内容と意味を説明できる。 特殊災害の種類とそれぞれの説明ができる。 ゾーニングが実施できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としては多数傷病者対応・特殊災害についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第7講	<p>トリアージ</p> <p>[到達目標] トリアージの概要について説明できる。 トリアージの種類と方法について説明・実施できる。 トリアージタグの内容・記載方法について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント、小テストに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としてはトリアージについてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第8講	<p>市民による一次救命処置</p> <p>[到達目標] 救命の連鎖について理解し、説明できる。 市民による一次救命処置について説明できる。 一次救命処置の市民教育について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としては救命の連鎖と市民による一次救命処置についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第9講	<p>メディカルコントロール体制</p> <p>[到達目標] メディカルコントロールについて説明できる。 オンライン(直接的)・オフライン(間接的)メディカルコントロールについて説明できる。 PDCAサイクルについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント、小テストに対するフィードバック</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としてはメディカルコントロールについてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第10講	<p>119番受信と通信体制</p> <p>[到達目標] 119番受信と通信体制について説明できる。 口頭指導の種類と方法についてそれぞれ説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としては119番受信と通信体制についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第11講	<p>救急隊の現場活動</p> <p>[到達目標] 現場活動について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としては現場活動についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第12講	<p>医療機関選定と搬送</p> <p>[到達目標] 医療機関選定と搬送について説明できる。 通信体制について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としては医療機関選定と搬送についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第13講	<p>救急救命処置録とウツタイン様式</p>

	<p>[到達目標] 救急救命処置録について説明できる。 ウツタイン様式について説明できる。 グラスゴー・ピッツバーグ脳機能・全身機能カテゴリーをそれぞれ説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としては救急活動の記録についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>総復習・筆記試験</p> <p>[到達目標] 第1～13回の救急医学概論の内容について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	各授業日までに指定された第10版救急救命士標準テキストを読み、自習すること。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	救急隊員標準テキスト(へるす出版) J P T E Cガイドブック(へるす出版)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>講義演習の3/5以上の出席とレポート全提出が定期試験受験の要件。 評価割合(筆記試験60%、レポート20%、小テスト20%)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_takahashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 北村 誠 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 皆藤 竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_kaito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	
	【この授業とディプロマポリシーとの関連】◎-1,○-2,○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
坪倉 寛明、木村 隆彦・諫山 憲司、上久保 敦、高橋 司、皆藤 竜弥、守岡 大吾、原 貴大、金子 優輝			
配当学科：救急救命学科	時間数：45時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	救急救助現場における安全管理を習得する。救急救命士と救助隊員が連携して活動ができるよう、ロープ及び各種救助用資器材の活用要領を習得する。また、自動車事故救出要領等、救急救命士として最低限必要とされる基礎的な救助救出要領を習得する。
授業計画	<p>第1～4講 基本動作 【到達目標】 個人動作、団体行動、意思伝達（合図・信号）要領を習得する。 部隊の編成要領、移動要領、点検要領、全員によるレンジャー行進等実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 訓練礼式実施後フィードバックする。 【備考】 （予習）基礎ゼミの授業で習得した規律訓練の内容を復習しておく。（所要時間30分） （復習）各基本動作のポイントを整理しておく。（所要時間30分）</p> <p>第5～8講 基本ロープ結索 【到達目標】 ロープによる結索法のうち（結節・結着・結合）について習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 結索実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）テキスト「救助訓練マニュアル」1～51ページを読み、疑問点をメモしておく。（所要時間30分） （復習）各基本結索のポイントを整理しておく。（所要時間30分）</p> <p>第9～12講 応用ロープ結索 【到達目標】 ロープによる結索法のうち身体結索について習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 結索実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）テキスト「救助訓練マニュアル」1～51ページを読み、疑問点をメモしておく。（所要時間30分） （復習）各応用結索のポイントを整理しておく。（所要時間30分）</p> <p>第13～16講 救助要領 【到達目標】 ロープブリッジの設定要領を実習する。 チロリアン渡過要領を実習する。 単梯子、三連梯子取扱い要領を実習する。 救助現場の応急処置要領について実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ロープブリッジの設定後フィードバックする。 【備考】 （予習）テキスト「救助訓練マニュアル」1～51・75～78・146～148ページを読み、疑問点をメモしておく。（所要時間30分） （復習）各基本動作のポイントを整理しておく。（所要時間30分）</p> <p>第17～18講 救助資機材の取り扱い要領Ⅰ 【到達目標】 油圧式救助器具の取り扱い要領を実習する。 空気式救助器具、空気呼吸器の取り扱い要領を実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 救助器具の取り扱い実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）テキスト「救助訓練マニュアル」79～90・149～160ページを読み、疑問点をメモしておく。（所要時間30分） （復習）各基本動作のポイントを整理しておく。（所要時間30分）</p> <p>第19～20講 救助資機材の取り扱い要領Ⅱ 【到達目標】 エンジンカッターの取り扱い要領を実習する。 チェーンソーの取り扱い要領を実習する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 救助器具の取り扱い実習後フィードバックする。 【備考】 （予習）テキスト「救助訓練マニュアル」79～90・149～160ページを読み、疑問点をメモしておく。（所要時間30分） （復習）各基本動作のポイントを整理しておく。（所要時間30分）</p> <p>第21 車両救助要領 【到達目標】 自己及び要救助者の確実な安全確保を実施し事故車両から救出できる。</p>

	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 救助器具の取り扱い実習後フィードバックする。</p> <p>【備考】 (予習) テキスト「ITLSアクセス」を読み、疑問点をメモしておく。(所要時間30分) (復習) 各基本動作のポイントを整理しておく。(所要時間30分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。 実習の参考書をもとに自主学習。
教科書	改訂3版 救助訓練マニュアル 東京法令出版 第2版 ITLSアクセス メディカ出版 改訂2版補訂版 JPTECガイドブック へるす出版 改訂10版 救急救命士標準テキスト へるす出版
参考書	改訂2版 図解 消防救助操法 東京法令出版 車両の壊し方 近代消防社 交通救助のテクニック イカロス出版
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>1、救急救命士としての規律、行動を理解し実行できる。 2、救急救助現場の安全管理の概念を理解できている。 3、ロープ結索及び各種救助用資器材の活用要領を習得できている。 4、基礎的な自動車事故救出要領を習得できている。 以上4点に着目し、その到達度等により成績を評価する。</p> <p>試験70% 救急救助現場の安全管理について理解しているか、レポートにより評価する。 平常点30% 授業への出席状況や取り組む姿勢、規律、行動を総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間</p> <p>担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間</p>
備考	<p>※ 天候や講義の進行上シラバスが変更になる事があります。</p> <p>坪倉寛明：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 高橋 司：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	4	必修
担当教員			
秋濱 裕之、諫山 憲司、高橋 司、柳 聖美、金子 優輝			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：講義・実習/ブレンド ディット型	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な応急手当、救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解するとともに、救急救命処置要領の習得及び災害現場や防災ボランティア現場において即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。 ・救急隊員標準課程の知識・技術の習得及び規律、礼儀が社会人として認められる教育を狙いとする。
授業計画	<p>第1～3講 オリエンテーション・資器材取り扱いについて 【到達目標】 資器材の取扱要領について習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）各資器材の特性、取り扱いについてレポートにまとめる（所要時間30分） （予習）救急救命士標準テキスト第10版を見て実習の使用資器材を確認する（所要時間30分）</p> <p>第4～6講 心肺蘇生法について 成人 【到達目標】 成人に対する心肺蘇生要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）心肺蘇生法についてレポートを書き提出すること（所要時間30分） （予習）第5版救急蘇生法の指針の参考書を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第7～9講 心肺蘇生法について 小児・乳児 【到達目標】 小児・乳児に対する心肺蘇生要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）心肺蘇生法についてレポートを書き提出すること（所要時間30分） （予習）第5版救急蘇生法の指針の参考書を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第10～12講 心肺蘇生法スキルチェック 【到達目標】 成人に対する心肺蘇生要領を習得すること。小児・乳児に対する心肺蘇生要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）心肺蘇生法のスキルを班で確認すること（所要時間30分） （予習）第5版救急蘇生法の指針の参考書を熟読してくること（所要時間30分）</p> <p>第13～15講 感染防御・環境観察・傷病者観察 【到達目標】 感染防御から傷病者接触までの一連の行動を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第16～18講 気道確保・異物除去要領 【到達目標】 用手による気道確保と異物除去要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第19～21講 ポケットマスク・BVMを使用した人工呼吸要領 【到達目標】 ポケットマスクとBVMを用いた人工呼吸要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第22～24講 傷病者観察要領 バイタル測定 【到達目標】 バイタル資器材を使用した観察要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第25～27講 止血・固定要領 【到達目標】 三角巾を用いた確実な止血処置及び梯状副子を用いた固定処置を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること（所要時間30分）</p> <p>第28～30講 ファーストレスポンス1 【到達目標】 救護資器材を使用したファーストエイド処置を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック）</p>

第31～33講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 第5版救急蘇生法の指針のファーストエイドの分野を熟読すること (所要時間30分) ファーストレスポnder2</p> <p>【到達目標】 救護資器材を使用したファーストエイド処置を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第34～36講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 第5版救急蘇生法の指針のファーストエイドの分野を熟読すること (所要時間30分) 全身固定要領について</p> <p>【到達目標】 バックボード・ネックカラーの取り扱い要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第37～39講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること (所要時間30分) 実技試験</p> <p>【到達目標】 第1講～39講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第40～42講	<p>【備考】 (復習) 第1講～39講までの授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 実技スキルを復習すること (所要時間30分) 再試験</p> <p>【到達目標】 第1講～39講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第43～45講	<p>【備考】 (復習) 第1講～39講までの授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 実技スキルを復習すること (所要時間30分) 心肺蘇生法スキルチェック</p> <p>【到達目標】 成人に対する心肺蘇生要領を習得すること。小児・乳児に対する心肺蘇生要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第46～48講	<p>【備考】 (復習) 心肺蘇生法のスキルを班で確認すること (所要時間30分) (予習) 第5版救急蘇生法の指針の参考書を熟読すること (所要時間30分) 気道確保要領・異物除去要領</p> <p>【到達目標】 経口・経鼻エアウェイを用いた気道確保要領を習得すること。吸引器・喉頭鏡・マギール鉗子を用いた気道異物除去要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第49～51講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること (所要時間30分) 隊活動要領</p> <p>【到達目標】 救急隊3名での活動要領を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第52～54講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること (所要時間30分) 傷病者搬送要領</p> <p>【到達目標】 体位管理・保温・搬送法・ストレッチャーが確実にできるように習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第55～57講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 救急救命士標準テキスト第10版を熟読すること (所要時間30分) JPTEC1</p> <p>【到達目標】 状況評価・初期評価・全身観察を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第58～60講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 改訂第2版補訂版JPTECガイドブックを熟読すること (所要時間30分) JPTEC2</p> <p>【到達目標】 全身観察・緊急処置・SMR・腹臥位ログロールを習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第61～63講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 改訂第2版補訂版JPTECガイドブックを熟読すること (所要時間30分) JPTEC3</p> <p>【到達目標】 ヘルメット離脱・病院連絡要領・詳細観察・継続観察を習得すること。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第64～66講	<p>【備考】 (復習) 授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 改訂第2版補訂版JPTECガイドブックを熟読すること (所要時間30分) JPTEC4</p> <p>【到達目標】 第58講～69講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】 アクティブラーニング有 (小テスト、隊活動ごとにフィードバック)</p>
第67～69講	<p>【備考】 (復習) 第58講～69講までの授業で習得したことをレポートにまとめること (所要時間30分) (予習) 実技スキルを復習すること (所要時間30分) JPTEC5</p> <p>【到達目標】 第58講～69講までの分野の実技を習得すること</p>

	<p>【授業形態】アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）第58講～69講までの授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）実技スキルを復習すること（所要時間30分）</p> <p>第70～72講 JPTEC スキルチェック</p> <p>【到達目標】第58講～69講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）第58講～69講までの授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）実技スキルを復習すること（所要時間30分）</p> <p>第73～75講 総合想定訓練</p> <p>【到達目標】第1講～72講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）第1講～75講までの授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間30分） （予習）実技スキルを復習すること（所要時間30分）</p> <p>第76～78講 総合想定訓練</p> <p>【到達目標】第1講～72講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）第1講～78講までの授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間90分） （予習）実技スキルを復習すること（所要時間90分）</p> <p>第79～81講 総合想定訓練</p> <p>【到達目標】第1講～78講までの分野の実技を習得すること 【授業形態】アクティブラーニング有（小テスト、隊活動ごとにフィードバック） 【備考】 （復習）第1講～78講までの授業で習得したことをレポートにまとめること（所要時間90分） （予習）実技スキルを復習すること（所要時間90分）</p> <p>第82～84講 まとめ・筆記試験</p> <p>【到達目標】第1講から第81講の内容の復習を行う。期末筆記試験にて理解の確認をする。 【授業形態】アクティブラーニング無 【備考】 （復習）間違えた問題に対し1枚のレポート用紙解説すること（所要時間90分） （予習）この実習の範囲の教科書・参考書を熟読し、小テストを見直すこと（所要時間90分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに指定された救急救命士標準テキスト第10版を読み、自習すること。レポート：毎授業ごとに課題提示するのでその課題についてレポートにまとめ、次回の授業の最初に提出すること。
教科書	改訂第5版 救急技術マニュアル 改訂第5版 救急隊員標準テキスト 改訂第5版 救急蘇生法の指針2015（市民用・解説編） 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック
参考書	特になし。
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>レポート等の提出物を全て提出していること、全てのスキルチェックに合格していることを評価の前提とする。</p> <p>平常点20%（授業態度）、レポート評価30%、授業内小テスト20%、筆記試験30%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：秋濱 裕之 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：h_akiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：諫山 憲司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：高橋 司 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：t_takahashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：柳 聖美 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：s_yanagi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p> <p>担当教員名：金子 優輝 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：y_kaneko@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業終了後1時間</p>
備考	秋濱裕之：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。

	諫山憲司：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
高橋司 木村隆彦 皆藤竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	プール、海における水難事故に対する、1) 危険予測・予防する能力、2) 自身の身を守る（セルフレスキュー）能力、3) バイスタンダーとしての最低限の救助方法（バイスタンダーレスキュー）を理解・習得する。さらに 海浜で起こる事故に際し、ライフセーバーを含めた関係機関の活動を理解する。また、本実習を通して、団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀を養い、救急救命士としての心構え、人格形成を行う。
授業計画	<p>第1講 プールにおける水難事故とその対応 [到達目標] 水難事故の知識、救助者の心構えを習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第2講 基本泳法の確認 [到達目標] クロール、平泳ぎ、背泳ぎを習得状況を確認する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第3講 セルフレスキュー [到達目標] 入水法、水中歩行、サバイバルフローティング、背浮き、立ち泳ぎ、スカーリング、エレメンタリーバグストロークを習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第4講 バイスタンダーレスキュー [到達目標] リーチングアシスト、スローイングアシストを習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第5講 着衣泳 [到達目標] 着衣状態での特性、落水時の対応、PFDを用いた保温法、PFDの脱着を習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第6講 脊椎損傷への対応 [到達目標] 水中での脊椎損傷への観察法、処置、搬送法を習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第7講 傷病者の搬送 [到達目標] 水中、陸上での傷病者の搬送法を取得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第8講 海浜での事故とその対応 [到達目標] 起床・海嘯、風の特徴など、海での救助に必要な知識を習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第9講 レスキューシグナル [到達目標] 海浜での指示を的確に行うためのシグナルの出し方、受け方を習得する。 （予習）教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。（所要時間60分） （復習）学習した内容をレポートにまとめること（所要時間60分） 【授業形態】アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）</p> <p>第10講 海浜での応急処置法 [到達目標] 海浜で発生頻度の高い傷病に対する処置法を習得する。</p>

第11講	<p>(予習) 教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。(所要時間60分) (復習) 学習した内容をレポートにまとめること(所要時間60分) 【授業形態】アクティブラーニング有(実技実習後フィードバックあり)</p> <p>レスキューチューブを用いた救助</p> <p>[到達目標] レスキューチューブを用いて溺者を救助する方法を習得する。</p>
第12講	<p>(予習) 教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。(所要時間60分) (復習) 学習した内容をレポートにまとめること(所要時間60分) 【授業形態】アクティブラーニング有(実技実習後フィードバックあり)</p> <p>レスキューボードを用いた救助</p> <p>[到達目標] レスキューボードを用いて溺者を救助する方法を習得する。</p>
第13講	<p>(予習) 教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。(所要時間60分) (復習) 学習した内容をレポートにまとめること(所要時間60分) 【授業形態】アクティブラーニング有(実技実習後フィードバックあり)</p> <p>IRB、カヤックでの救助</p> <p>[到達目標] IRB、カヤックを用いて溺者を救助する方法を習得する。</p>
第14講	<p>(予習) 教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。(所要時間60分) (復習) 学習した内容をレポートにまとめること(所要時間60分) 【授業形態】アクティブラーニング有(実技実習後フィードバックあり)</p> <p>総合シミュレーション</p> <p>[到達目標] 実習を通して学んだ知識・技術を用いたシミュレーション訓練を行う。</p>
第15講	<p>(予習) 教科書・参考書の該当ページを読んでおくこと。(所要時間60分) (復習) 学習した内容をレポートにまとめること(所要時間60分) 【授業形態】アクティブラーニング有(実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第1講～第14講のまとめ(評価含む)</p> <p>[到達目標] 知識、技術の習得状況の確認を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>本授業の受講条件を下記に定める。 基本泳法(クロール、平泳ぎ、背泳ぎ)を習得していること。 泳力の基準: 50メートル/40秒以内、400メートル/9分以内、潜行20メートル以上、立泳/5分以上</p> <p>教科書の内容を事前に理解しておくこと。授業をやむを得ない理由を除き、遅刻した場合は参加を認めない。</p>
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	サーフライフセービング教本 (日本ライフセービング協会 発行)
成績評価	筆記試験60%、実技試験20%、平常点(出席状況・授業態度)20%で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高橋司 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 授業終了後 メールアドレス : t_takahashi@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 木村隆彦 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 授業終了後</p> <p>担当教員名 : 皆藤竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>本授業では、公益財団法人日本ライフセービング協会が認定するベーシック・サーフ・ライフセーバーの資格取得が可能である。</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4</p>

講義科目名称： 健康スポーツ実習 I

授業コード： 2E131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
岩内 和也			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
池本敬博			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	対面実技授業+ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を的確に判断できるようになる。また、医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、病態別運動療法、ロコモティブシンドローム、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。 オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 運動療法1 ウォーキング 理論と屋外実践(グラウンド) 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキングを体験理解できる。</p> <p>3回目 運動療法2 ボール運動1 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>4回目 運動療法3 ボール運動2 集団運動とバッティング系(ノックと野球)から、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>5回目 オンデマンド授業1 スクワットについて 安全かつ効果的に足腰を鍛える方法を理解できる。</p> <p>6回目 運動療法4 手作り用具使用1 シート・ウォーキングから、健康づくりのための集団運動を体験理解できる。転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントンから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>7回目 オンデマンド授業2 レジスタンス運動について 身体活動・運動の進め方について理解できる。</p> <p>8回目 運動療法5 手作り用具使用2 スクエアシートから、転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントンから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>9回目 運動療法6 集団運動1 輪投げから、集団運動と筋力・バランス運動を体験理解できる。 集団バドミントンから、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>10回目 オンデマンド授業3 運動療法について 健康運動実践について理解できる。</p> <p>11回目 運動療法7 集団運動2 ドッチビーから、楽しい集団運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>12回目 運動療法8 集団運動3 ミニハードル走から、リズムとバランス運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>13回目 運動療法9 集団運動4 集団ソフトバレーボールゲームから、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとした①グループワークを体験できる。</p> <p>14回目 運動療法10 集団運動5 集団ソフトバレーボールゲームから、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとした②グループワークを体験できる。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:随時
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部連藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎ - 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
中村 雄一			
配当学科：救急	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語としての手話を学び、自己紹介酢や挨拶から簡単な日常会話ができるようになる。 ・ 聴覚障害者が置かれてきた社会背景を学び、時代の福祉観と人権観を考える。 ・ 医療分野に従事する職業者の基礎的な姿勢としての、手話を含む様々なコミュニケーション障害への対応姿勢を学ぶことにより、人権感覚を身につける。
授業計画	<p>第1講 「手話」って何?…手話言語を身近に感じてみよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・日本で最初の手話サークルが医療現場から生まれてきたことなどを知り、手話言語について身近に感じるとともに、名前・数字・家族・趣味などの自己紹介に使われる基本の手話単語を習得する。</p> <p>第2講 [備考] ・社会福祉法人全国手話研修センターのHP(手話検定ページ)を見ておく。 手話表現の種類を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・ろう者の使う手話や中途失聴者、盲ろう者のコミュニケーション手段など、様々な種類の手話があることを知るとともに、自己紹介に関わる手話単語を習得する。</p> <p>第3講 [備考] 手話教育の歴史を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう③ [到達目標] ・聴覚障害児教育の歴史を知るとともに、問いかげの手話表現を習得する。</p> <p>第4講 [備考] 「聴覚障害」について理解しよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう④ [到達目標] ・きこえのしくみを理解し、障害に対応した補聴器等の活用を知るとともに、手話での時間の表現を習得する。</p> <p>第5講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう① 自己紹介の手話単語を習得しよう? [到達目標] ・古事記(国生みの物語)から日本独特の障害者観を知るとともに、1日・1週間・1月の出来事に関する手話表現を習得する。</p> <p>第6講 [備考] ・日本文化に根付く障害者観について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう② 自己紹介の手話単語を習得しよう⑥ [到達目標] ・戦前・戦中・戦後の障害福祉施策を知るとともに、自己紹介のまとめとして手話での会話を楽しむ。</p> <p>第7講 [備考] 第3講での教育の歴史も含めて、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう③ 日常会話の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・国際障害者年以降の「障害」のとらえ方を知るとともに、医療に関する手話単語を習得する。</p> <p>第8講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう④ 日常会話の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・国連障害者の権利条約で謳われた「手話は言語である」ことの意義を知るとともに、日常会話の手話単語の語彙数を増やす。</p> <p>第9講 [備考] ・権利条約第2条を確認しておく。 日本の障害福祉施策を知ろう? 豊かな手話表現を身につけよう① [到達目標] ・日本の手話通訳派遣制度を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第10講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう⑥ 豊かな手話表現を身に着けよう② [到達目標] ・優生保護法下でのろう者の状況を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第11講 [備考] 優生保護法下での「医療倫理」のあり方、医療現場での「インフォームドコンセント」のあり方について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう⑦ 豊かな手話表現を身に着けよう③ [到達目標] ・ろう者の人権宣言といわれる「3.3声明」から、ろう者の人権を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第12講 [備考] ・京都府立聾学校での「写生大会ボイコット事件」について、調べておく。 日本の障害福祉施策を知ろう⑧ 豊かな手話表現を身につけよう?</p>

	<p>[到達目標] 災害時の情報保障を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>[備考] 第13講 まとめ① 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] ・これまで学んだ手話単語を使って、簡単な会話を楽しんでみるとともに、手話歌を楽しんでみる。</p> <p>[備考] 第14講 まとめ② 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] これまで学んだ授業を通じて、「手話」に関する思いや意見を確認するとともに、より豊かな手話表現技術と読み取り技術を確認する。</p> <p>[備考] ・レポートの提出及び実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	●全国手話検定試験5級及び4級の出題範囲の手話単語について、自習をする。
教科書	●特に定めない。必要な資料は毎時配布する。
参考書	●社会福祉法人全国手研修センターのHP
成績評価	<p>●出席及び授業時の取り組み姿勢の評価 30%</p> <p>●授業内パフォーマンス課題 30%</p> <p>●まとめ(試験)における確認評価 40%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中村雄一</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : npo_morohoshi.juku@yahoo.co.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-1, ○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
諫山 憲司、柳 聖美			
配当学科：救急救命学科	45時間	授業形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会を迎える我が国において高齢者の対応や身体的機能などを体験することが重要であると考えられる。 ・この実習を通じて、介護士がどのように高齢者と接しているかを体験し経験することを目標とする。
授業計画	<p>第1～2講 オリエンテーション・事前講義 【到達目標】 介護実習の目的と学ぶべきことが説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 実習におけるの注意点・グループ分けを指示。 予習：事前にシラバスを熟読しておくこと。（30分） 復習：これから行う実習に対する疑問点を整理しておくこと。（30分）</p> <p>第3～4講 高齢者疑似体験・介護に必要な手技実習 【到達目標】 車いすへの移乗・ベッド上の体位変換が実施できる。 高齢者の身体変化を実感し、成人との比較ができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有：高齢者体験とベッド上体位変換、車いす移乗の実習</p> <p>【備考】 救急シミュレーション実習室において体位変換、車いすへの移動の実習を行う。 高齢者疑似体験器具を装着し、高齢者体験を行う。 予習：高齢者に起きやすい疾患、病態について予習しておくこと。（30分） 復習：高齢者や患者の解剖的特徴をまとめること。（30分）</p> <p>第5講 高齢者救急の現状 【到達目標】 わが国における高齢者救急の特徴が説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 我が国における高齢者救急の現状の講義を行う。 予習：救急救助の現況の救急搬送の現状について予習しておくこと。（30分） 復習：これから行う実習に対する疑問点を整理しておくこと。（30分）</p> <p>第6講 実習前ガイダンス(はぎの里職員) 【到達目標】 はぎの里職員のガイダンスを基に本実習での目標が明示できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 はぎの里職員より実習のガイダンスを行う。 予習：介護実習要項を熟読し、疑問点をメモしておくこと。（30分） 復習：ガイダンス内容を整理して実習の際に行動できるように整理する。（30分）</p> <p>第7～10講 グループ学習（高齢者のレクリエーションの作成・実演） 【到達目標】 実習内で行う高齢者を対象としたレクリエーションの計画を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有：高齢者を対象としたレクリエーション計画のためのグループワークを行う。</p> <p>【備考】 高齢者へのレクリエーションプログラムをグループ毎で作成する。 予習：高齢者を対象としたレクリエーションを調べておくこと。（30分） 復習：レクリエーションを整理して実習の際に行動できるように整理する。（30分）</p> <p>第11～20講 はぎの里での実習 【到達目標】 介護施設の介護内容が説明できる。 高齢者とのコミュニケーションが実施できる。</p>

	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有：はぎの里での実習 3日間（21時間）の現地実習。 介護者の送迎補助、食事補助、レクリエーション、入浴補助等。</p> <p>【備考】 第21講 予習：救急救命士標準テキスト10版の高齢者に関わるページを読んでおくこと。（30分） 復習：各グループにおいて高齢者における疾患を整理しておくこと。（30分） 実習後のカンファレンス</p> <p>【到達目標】 本実習で学んだことを説明できる。 グループ内で報告書を作成し、発表する事が出来る。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有：実習報告書作成のグループワーク並びに報告書を用いたプレゼンテーションを行う。</p> <p>【備考】 予習：実習を通して学修したことを整理しておくこと。（30分） 復習：ポスター発表をすることにより、実習で行ったことを整理する。（30分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書をもとに、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめる（復習30分）。
教科書	救急技術マニュアル 救急隊員標準テキスト 救急資器材管理マニュアル 救急蘇生法の指針2015（市民用・解説編） 救急救命士標準テキスト（改訂第10版）
参考書	特に指定はしない
成績評価	<p>成績評価の項目は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での発言・発表（20%） ・実習レポート（50%） ・実技演習訓練（30%）で評価する。 <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：諫山 憲司 研究室：6号館2階 メールアドレス：k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：柳 聖美 研究室：6号館2階 メールアドレス：s_yanagi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	
	【この授業とディプロマポリシーとの関連】 ◎-5, ○-3, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンライン、Meet）	GoogleClassroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本授業は、東洋医学的観点から人体を観察する手法と、その理論を学ぶ。そして、各自の専門領域における東洋医学的素養の涵養を、本授業のねらいとする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション、ビデオ視聴：東洋医学の不思議を知ろう！ 【到達目標】 東洋医学の特徴を説明できる。 【備考】 ビデオを視聴後、アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>2回目 自分の体質を東洋医学的にチェックしよう！ 【到達目標】 東洋医学的体質の概要を説明できる。 【備考】 セルフチェック表を活用します。</p> <p>3回目 基本理論：陰陽五行と気血津液論 【到達目標】 陰陽五行と気血津液論の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>4回目 東洋医学の人体論①：肝・胆（その1） 【到達目標】 肝・胆の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>5回目 東洋医学の人体論②：肝・胆（その2） ※含、経脈 【到達目標】 肝・胆の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>6回目 東洋医学の人体論③：心・小腸（その1） 【到達目標】 心・小腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>7回目 東洋医学の人体論④：心・小腸（その2） ※含、経脈 【到達目標】 心・小腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>8回目 東洋医学の人体論⑤：脾・胃（その1） 【到達目標】 脾・胃の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>9回目 東洋医学の人体論⑥：脾・胃（その2） ※含、経脈 【到達目標】 脾・胃の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>10回目 東洋医学の人体論⑦：肺・大腸（その1） 【到達目標】 肺・大腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>11回目 東洋医学の人体論⑧：肺・大腸（その2） ※含、経脈 【到達目標】 肺・大腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>12回目 東洋医学の人体論⑨：腎・膀胱（その1） 【到達目標】 腎・膀胱の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>13回目 東洋医学の人体論⑩：腎・膀胱（その2） ※含、経脈 【到達目標】 腎・膀胱の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】 今までの「東洋医学人体論①～⑩」のまとめ+αを行います。</p> <p>14回目 本授業のまとめ 【到達目標】 本授業で取り上げた内容を列挙できる。 【備考】 今までの授業内容を自分なりにまとめてください。また、各自で専門領域との繋がりを考えてください。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：各回の授業までに、教科書の該当範囲を読んでおく。 復習：授業で取り上げた内容を、教科書をもとにまとめておく。 ※週4時間の授業時間外学習が必要となります。
教科書	平馬直樹（総監修）『基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書』ナツメ社
参考書	「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編（医道の日本社）
成績評価	評価の対象者：3/5以上の授業出席者。 評価方法：筆記試験（100点満点） ※課題などへのコメントは、授業内で提示します（全体or個別）。

担当教員の基本情報	教員名：河井正隆 連絡先：m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー(3号館別室)：木曜日 17:40～19:00
備考	実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。
	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。 その場合は、GoogleClassroomでお伝えします。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
柳 聖美、金子 優輝			
配当学科：救急救命学科	30時間	授業形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 人体構造学Ⅲでは、救急救命士として必要な専門基礎分野の知識を定着させる。さらに、救急救命士国家試験で「人体の構造と機能」の分野から問題が出題された際に対応できるように、学習を進めていく。</p> <p>【授業目標】 学修の最終段階として「解剖学」の総復習と「解剖見学実習」を行う。「解剖見学実習」を通して人体の各器官に関する知識をさらに深め、医療人として命の尊厳について考えることができることを目指す。</p>
授業計画	<p>第1講 人体を構成する要素</p> <p>【到達目標】 「人体を構成する要素」・「体表からみる人体の構造」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分)</p> <p>第2講 神経系</p> <p>【到達目標】 「神経系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分)</p> <p>第3講 感覚系</p> <p>【到達目標】 「感覚系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分)</p> <p>第4講 呼吸系</p> <p>【到達目標】 「呼吸系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分)</p> <p>第5講 循環系</p> <p>【到達目標】 「循環系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分)</p> <p>第6講 消化系</p> <p>【到達目標】</p>

	<p>「消化系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 泌尿系</p> <p>【到達目標】 「泌尿系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p>
第7講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 生殖系</p> <p>【到達目標】 「生殖系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p>
第8講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 内分泌系</p> <p>【到達目標】 「内分泌系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p>
第9講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 血液・免疫系</p> <p>【到達目標】 「血液・免疫系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p>
第10講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 筋・骨格系</p> <p>【到達目標】 「筋・骨格系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p>
第11講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 皮膚系</p> <p>【到達目標】 「皮膚系」について学習し、その分野に関する説明ができるようにする。</p>
第12講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 総合演習</p> <p>【到達目標】 第1～12講で学習した内容を活かし、国家試験問題に対応できるようにする。</p>
第13-14講	
	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p>

	<p>【備考】 予習：翌週の授業内容について教科書を熟読する。(30分) 復習：授業内で行った小テストを見直し、教科書を熟読する。(30分) 解剖見学実習(時間外実習) 京都府立医科大学で解剖見学実習(献体見学と標本見学)を行う。 事前に調べた臓器を標本などで確認すること。 解剖見学実習後は何を学んだかレポートを提出すること。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>【予習】各授業日までに、指定された教科書を熟読し、事前学習を行うこと。(50分) 【復習】毎授業で行う小テストで、間違えた問題の解説をレポートにまとめること。(50分)</p>
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	系統看護学講座 解剖生理学-人体の構造と機能①- (医学書院)
成績評価	<p>全授業のうち出席率が60%以上であることを成績評価の前提にする。 ・筆記試験90% ・小テスト10%</p> <p>「解剖見学実習」後は、実習で学んだことをレポートにまとめ、実習後一週間以内に提出すること。 なお、本試験を正当な理由無く欠席した場合は、追試験を行わない。事前にわかる場合は教員に相談し、また正当な理由のある場合は欠席届を提出すること。</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1~4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 柳 聖美 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : s_yanagi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 金子 優輝 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : y_kaneko@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 8号館4階 教授室 メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日放課後17:30~19:00</p>
備考	鳴瀬 善久: 製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の構造と機能について教育を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_救急_1E207人体機能学Ⅱ_前期.xlsx			

授業目標	<p>【授業概要】 人体機能学Ⅱでは、生理学、中でも内分泌系・神経系・感覚系を学習する。さらに、運動神経・筋収縮、運動調節について学習する。学ぶ目的は、救急救命の対象である人々を理解するために、人体の正常な状態を学ぶことである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型（アクティブラーニング）の授業を目指す。</p> <p>【授業目標】 生体機能を調節する内分泌系、神経系、筋運動系、感覚系（含特殊感覚）においてその基本的機能や原理を理解し、それらを活用できる統合的な応用力を身につけ、様々な観点からの見方や考え方を修得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 内分泌系-1：内分泌による調節、視床下部-下垂体系 【到達目標】 15) 視床下部の構造と機能を内分泌および自律機能と関連づけて概説できる。 21) ホルモンを構造から分類し作用機序を説明できる。 22) ホルモン分泌の調節機構を概説できる。 23) 各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 【授業形態】 随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。 【備考】（予習項目） ホルモンの特徴、作用機序、視床下部・下垂体ホルモン。教科書熟読：p. 272-282, 299-301。</p> <p>第2回 内分泌系-2：甲状腺、副甲状腺ホルモン、カルシウム代謝の内分泌制御 【到達目標】 22) ホルモン分泌の調節機構を概説できる。 23) 各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 24) 甲状腺と副甲状腺<上皮小体>から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 【授業形態】 随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。 【備考】（予習項目） 甲状腺と副甲状腺。教科書熟読：p. 283-288。</p> <p>第3回 内分泌系-3：膵臓、副腎ホルモン 【到達目標】 22) ホルモン分泌の調節機構を概説できる。 23) 各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。 25) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。 26) 膵島から分泌されるホルモンの作用を説明できる。 【授業形態】 随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。 【備考】（予習項目） 膵臓、副腎。教科書熟読：p. 288-296。</p> <p>第4回 内分泌系-4：性腺、性ホルモン、他 【到達目標】 17) 生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。 18) 精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。 19) 性周期発現と排卵の機序を説明できる。 【授業形態】 随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。 【備考】（予習項目） 性腺、男性ホルモン、女性ホルモン。教科書熟読：p. 296-299。</p> <p>第5回 神経系-1：膜電位と細胞の興奮、シナプス 【到達目標】 1) 膜のイオンチャネル、ポンプ、受容体と酵素の機能を概説できる。 2) シナプス（神経・筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性）と可塑性を説明できる。 【授業形態】 随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。 【備考】（予習項目） 膜電位と細胞興奮、ニューロンでの興奮の伝導。教科書熟読：p. 42-43, 384-389。</p>

第6回	<p>神経系-2：興奮伝達、シナプス</p> <p>【到達目標】</p> <p>2) シナプス（神経・筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性）と可塑性を説明できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>興奮伝達、シナプス。教科書熟読：p. 390-394。</p>
第7回	<p>神経系-3：末梢神経系（自律神経系：交感神経系・副交感神経系）</p> <p>【到達目標】</p> <p>4) 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。</p> <p>14) 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。</p> <p>15) 視床下部の構造と機能を内分泌および自律機能と関連づけて概説できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>自律神経。教科書熟読：p. 264-272。</p>
第8回	<p>神経系-4：体性感覚、上行伝道路、痛み</p> <p>【到達目標】</p> <p>3) 体性感覚、上行伝導路が説明できる。</p> <p>6) 脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢）の構成および主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>感覚機能と上行伝道路、痛み。教科書熟読：p. 431-434, 456-459。</p>
第9回	<p>神経系-5：筋の収縮、脊髄反射</p> <p>【到達目標】</p> <p>2) シナプス（神経・筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性）と可塑性を説明できる。</p> <p>4) 脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。</p> <p>31) 興奮収縮連関を概説できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>筋の収縮、脊髄の機能。教科書熟読：p. 369-382, 395-397。</p>
第10回	<p>神経系-6：脳（大脳基底核、小脳）、運動機能と下行伝道路</p> <p>【到達目標】</p> <p>9) 記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。</p> <p>10) 随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。</p> <p>11) 小脳の構造と機能を概説できる。</p> <p>12) 大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>脳の構造と機能、運動機能と下行伝道路。教科書熟読：p. 400-406, 429-430。</p>
第11回	<p>神経系-7：脳（脳幹、間脳、大脳辺縁系）</p> <p>【到達目標】</p> <p>7) 脳幹、間脳、大脳辺縁系の機能を概説できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>脳幹、間脳、大脳辺縁系。教科書熟読：397-409。</p>
第12回	<p>神経系-8：大脳皮質、脳の高次機能</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) 大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野・連合野）を説明できる。</p> <p>16) ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>脳の高次機能。教科書熟読：p. 418-429。</p>
第13回	<p>神経系-9：感覚器系（視覚、嗅覚、味覚）</p> <p>【到達目標】</p> <p>13) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。</p> <p>27) 視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>30) 味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>【授業形態】</p> <p>随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。</p> <p>【備考】（予習項目）</p> <p>視覚、嗅覚、味覚。教科書熟読：p. 434-446, 453-455。</p>
第14回	<p>神経系-10：聴覚、平衡覚</p> <p>【到達目標】</p> <p>13) 視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。</p>

	<p>28) 聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。 29) 平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。 【授業形態】 随時テストを行い、理解状況を把握する（双方向型授業：アクティブラーニング）。遠隔授業の時は内容を変更することがある。 【備考】（予習項目） 聴覚、平衡覚。教科書熟読：p. 435, 447-453。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習130分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習130分）。 試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学 人体の構造と機能1」 阪井建雄・岡田隆夫 著（医学書院）
参考書	「医療・福祉系学生のための専門基礎科目 改訂2版」河野公一ほか 「救急救命士 標準テキスト 上巻」救急救命士標準テキスト編集委員会 へるす出版 「人体の構造と機能」佐藤昭夫 他 編（医歯薬出版） 「N教授の生理学講義ノート」二宮治明 著（日本医事新報社）
成績評価	各授業ごとに小テスト、中間および期末に筆記試験を行います。 ①合格点：100点法により評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点の算出・内訳：筆記試験（中間・学期末） 70%、小テスト 30% ③再試験：筆記試験が60%未満の場合、筆記試験により再評価を行う。 ※授業形態が「遠隔授業」に変更になった場合は、評価方法を変更することがある。 ④アセスメントとフィードバック： アセスメント：試験結果 フィードバック：試験結果の発表、授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	【担当教員名】岡田 薫 担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間（要予約）。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。
備考	ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
守岡 大吾、皆藤 竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 人体機能学Ⅲでは、救急救命士として必要な専門基礎分野の知識を定着させる。</p> <p>【到達目標】 これまで学習してきた各器官系のそれぞれのはたらきについて理解を深め、救急救命士として必要な基礎知識を定着させる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・消化器系 【到達目標】 「消化器系」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第2回 消化器系 【到達目標】 「消化器系」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第3回 呼吸器系 【到達目標】 「呼吸器系」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第4回 筋肉・運動系 【到達目標】 「筋肉・運動系」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第5回 泌尿器系・排便機構 【到達目標】 「泌尿器系・排便機構」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第6回 生体リズム・睡眠機構 【到達目標】 「生体リズム・睡眠機構」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第7回 細胞生理学 【到達目標】 「細胞生理学」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p> <p>第8回 血液・循環器系 【到達目標】</p>

	<p>「血液・循環器系」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。 中間代謝・エネルギー代謝 【到達目標】 「中間代謝・エネルギー代謝」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。 内分泌系と自律神経 【到達目標】 「内分泌系と自律神経」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。 感覚器系 【到達目標】 「感覚器系」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。 脳機能 【到達目標】 「脳機能」について学習し、この分野に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。 救急救命士としての生理学 【到達目標】 第1講から第12講の授業内容についての復習を行い、救急救命士に必要な人体機能学の知識についてディスカッションを用いて知識の定着を図る。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。 まとめ・期末試験 【到達目標】 第1講から第13講までの学習範囲について理解し、人体機能学に関する説明ができるようにする。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストを行い、フィードバックする） 【備考】 予習：教科書および参考書の該当ページを熟読すること。 復習：授業内小テスト、授業内で学習した範囲を再確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	【予習】 各授業日までに、教科書の該当範囲を熟読し、事前学習を行うこと。（50分） 【復習】 毎授業で行う小テストで、間違えた問題の解説をレポートにまとめること。（50分）
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能1 （医学書院）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版） ・改定第3版 人体の正常構造と機能（日本医事新報社） ・図解入門メディカルサイエンスシリーズ よくわかる生理学の基本としくみ（秀和システム）
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>・定期筆記試験（期末試験）60％ ・小テスト20％ ・平常点（提出物、授業態度）20％</p> <p>※本試験を適切な理由なく欠席した場合、追試験を実施しない。 必ず試験日より1週間以内に、欠席届を提出すること。 ※すべての提出物を提出していることを成績評価の前提とする。</p>
担当教員の基本情報	担当教員名：守岡 大吾 研究室：6号館2階

	メールアドレス : d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 皆藤 竜弥 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : t_kaito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	守岡大吾 : 医療機関での経験を基に教育を行う。 皆藤竜弥 : 医療機関での経験を基に教育を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
長谷川 瑛一、田之畑 李菜			
救急救命学科	30時間	講義（遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	本授業では現場の救急活動に対し、各々の適応・禁忌の根拠を病態生理学的に理解し、現場における鑑別診断を臨床推理を交えながらこれまで得た知識の整理をする。特に傷病者観察の能力向上につなげ、判断・処置の知識整理を補足したい。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・呼吸不全①（担当： ） 【到達目標】 ・呼吸不全の病態の理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第2回 呼吸不全②（担当： ） 【到達目標】 ・呼吸不全の病態の理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第3回 呼吸不全（担当： ） 【到達目標】 ・呼吸不全の病態の理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第4回 心不全①（担当： ） 【到達目標】 ・心不全の病態と理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第5回 心不全②（担当： ） 【到達目標】 ・心不全の病態と理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第6回 心不全③（担当： ） 【到達目標】 ・心不全の病態と理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第7回 ショック①（担当： ） 【到達目標】 ・ショックの病態と理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） 【備考】 （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第8回 ショック②（担当： ） 【到達目標】 ・ショックの病態と理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第9回 ショック③（担当： ） 【到達目標】 ・ショックの病態と理解とその鑑別について習得する 【授業形態】 アクティブラーニング有（小テスト後フィードバックあり） （予習）救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること（所要時間30分） （復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>

	<p>第10回 重症脳障害①(担当:)</p> <p>【到達目標】 ・重症脳障害の病態と理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有(小テスト後フィードバックあり) (予習)救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること(所要時間30分) (復習)授業で学んだことをレポートにまとめる(所要時間30分)</p> <p>第11回 重症脳障害②(担当:)</p> <p>【到達目標】 ・重症脳障害の病態と理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有(小テスト後フィードバックあり) (予習)救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること(所要時間30分) (復習)授業で学んだことをレポートにまとめる(所要時間30分)</p> <p>第12回 心肺停止①(担当:)</p> <p>【到達目標】 心肺停止の病態と理解とその鑑別について習得する</p> <p>(予習)救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること(所要時間30分) (復習)授業で学んだことをレポートにまとめる(所要時間30分)</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有(小テスト後フィードバックあり)</p> <p>第13回 心肺停止②(担当:)</p> <p>【到達目標】 ・心肺停止の病態と理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング有(小テスト後フィードバックあり) (予習)救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること(所要時間30分) (復習)授業で学んだことをレポートにまとめる(所要時間30分)</p> <p>第14回 期末試験、振り返り(担当:)</p> <p>【到達目標】 第1回～第13回までの振り返りを行い、知識を再確認する。 ※試験内容は国家試験問題を想定した形式の出題とする。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニング無 (予習)救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること(所要時間30分) (復習)授業で学んだことをレポートにまとめる(所要時間30分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)の熟読 毎授業ごとの課題・毎授業の習得したことについてレポートにまとめる。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・JRC蘇生ガイドライン2015(医学書院) ・PSLSガイドブック2015(へるす出版) ・PCECガイドブック2016(へるす出版) ・PEMECガイドブック2017(へるす出版)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員：長谷川 瑛一(非) 日本救急システム株式会社 オフィスアワー：授業後1時間</p> <p>担当教員：田之畑 李菜(非) 日本救急システム株式会社 オフィスアワー：授業後1時間</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
樋口 敏宏、糸井 恵、小藤 和孝、林 大智、			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	筋・骨格系疾患でみられる主な症候をあげ、解剖生理を理解しそれぞれの概要が説明できる。また、傷病者における観察における注意点について説明できる。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・筋骨格系疾患総論</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第2回	<p>筋・骨格系疾患各論①</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第3回	<p>筋・骨格系疾患各論②</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第4回	<p>筋・骨格系疾患③</p> <p>【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第5回	<p>スポーツ外傷 1</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷の特徴と病態について理解する。</p> <p>【備考】 (予習) スポーツ外傷について事前自主学習を行う。(所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第6回	<p>スポーツ外傷 2</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷の特徴と病態について理解する。</p> <p>【備考】 (予習) スポーツ外傷について事前自主学習を行う。(所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第7回	<p>スポーツ外傷 3</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷の特徴と病態について理解する。</p> <p>【備考】 (予習) スポーツ外傷について事前自主学習を行う。(所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第8回	<p>成長期のスポーツ障害</p> <p>【到達目標】 スポーツ外傷の特徴と病態について理解する。</p> <p>【備考】 (予習) スポーツ外傷について事前自主学習を行う。(所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>	
	第9回	<p>障害者スポーツ</p> <p>【到達目標】 障害者スポーツの特徴と病態について理解する。</p> <p>【備考】 (予習) 障害者スポーツについて事前自主学習を行う。(所要時間30分)</p>	

第10回	<p>(復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック) アスレティックリハビリテーションとコンディショニング 1 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションとコンディショニングについて理解する。 【備考】 (予習) アスレティックリハビリテーションとコンディショニングについて事前自主学習を行う。(所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>
第11回	<p>アスレティックリハビリテーションとコンディショニング 1 【到達目標】 アスレティックリハビリテーションとコンディショニングについて理解する。 【備考】 (予習) アスレティックリハビリテーションとコンディショニングについて事前自主学習を行う。(所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>
第12回	<p>筋・骨格系疾患について① 【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>
第13回	<p>筋・骨格系疾患について② 【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>
第14回	<p>まとめ・筆記試験 【到達目標】 筋骨格系疾患の病態の理解とその鑑別について習得する 【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分) 【授業形態】 アクティブラーニング有 (ミニテストフィードバック)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士標準テキスト10版p622～626の熟読 ・授業資料の見直し復習
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士標準テキスト改訂第10版(へるす出版) ・系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能 1 (医学書院)
参考書	病気がみえる 1 1 運動器・整形外科 (MEDIC MEDIA)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件。 評価割合 (筆記試験80%、授業態度20%)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : 病院 1 階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p>
備考	<p>樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。 糸井恵：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。 小藤和孝：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。 林大智：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏、坪倉 寛明			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習（ブレンディット型）	
添付ファイル			

授業目標	1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を、外来診療各科において見学し、現代医学的診察法および患者に対する診療方法を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士等院内における医療スタッフの業務を見学し、理解するとともに附属施設（臨床検査部等の中央診療施設、MRセンター等）を見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深める。3) それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法を学ぶ。また、4) 医師や他の医療スタッフと適切な提携ができるようにそのあり方を学ぶ。5) 救急救命士として必要な傷病者の救命・病状悪化防止に係る処置の実習を効果的に行うこと。 6) さまざまなスキルを持つメディカルスタッフが連携・協働して患者さんにアプローチするチーム医療を実践的に学ぶこと。
授業計画	第1講～5講 実習オリエンテーション、病院実習に関する心構え及び守秘義務について 〔到達目標〕 病院実習に対する姿勢を認識し、実習がスムーズ行くよう注意事項等を把握する。 病院実習の目的を理解し、目標を立てる。及び守秘義務について理解する。 （予習）病院実習で何を学び、習得するか各自到達目標を立てる。（所要時間45分） （復習）再度注意事項を読み直し、レポートにまとめる。（所要時間45分） （授業形態）アクティブラーニング有り。各自実習前に目標を立てる。 第6講～14講 附属病院実習 〔到達目標〕 病院における患者への接遇要領を理解する。 患者・家族に対するケアとインフォームドコンセントの重要性についての理解する。 患者に対する観察要領についての理解する。 実際の患者相手に対し、観察・処置の臨床的理解を深める。 実習期間は3日間とする。 （予習）その日振り返りを行い次の日の実習に必要なことを各自予習すること。（所要時間45分） （復習）実習レポートを記入し、一日振り返りを行う。（所要時間45分） （授業形態）アクティブラーニング有り。実習前に立てた目標に対し実習を行い感想をレポートにまとめる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習は単なる見学ではなく、臨床講義で学んだ知識が実際の臨床現場でいかに活用されているかを実感として学ぶ貴重な経験の場であるので、真摯な態度で臨まなければならない。各科を回ることになるが、該当する科の講義で学んだ臨床的知識を復習して実習に臨むこと。
教科書	救急技術マニュアル 救急隊員標準テキスト J P T E C ガイドブック 救急資器材管理マニュアル 救急救命士標準テキスト（改訂第10版） 救急処置スキルブック（上巻・下巻）
参考書	病院内実習手帳
成績評価	本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 病院実習指導者による評価（70%） 各科の実習レポート（30%）
担当教員の基本情報	担当教員名：坪倉寛明 研究室：6号館2階 研究室 メールアドレス：h_tsubokura@meiji-u.ac.jp
備考	樋口 敏宏：医師として長年の臨床経験・教育経験を活かし指導を行う。 坪倉寛明：消防士として現場経験37年、内救急救命士歴21年の経験及び知識をもとに指導を行う。
	DPとの関連◎-1 ○-2 ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
高橋 司、皆藤 竜弥、北村 誠			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的として、わが国の救急医療体制の整備状況、災害医療体制、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療情報システム等について体系的に講義を行う。		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス・わが国の病院前救急医療体制</p> <p>[到達目標] わが国における救急自動車による救急搬送の現状について、その概要を説明できる。 ドクターヘリおよびドクターカーによる病院前医療の適応、運用方法、現況について、それぞれ説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としてはわが国における病院前医療体制についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第2講	<p>救急告示病院と周産期・精神科・小児の救急医療体制</p> <p>[到達目標] 救急告示病院制度と初期・二次・三次救急医療機関の役割と要件について説明できる。 周産期、精神科、小児の救急医療体制について、それぞれ説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急告示病院制度と周産期・精神科・小児の救急医療体制についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第3講	<p>救急医療情報センターと救急相談センター</p> <p>[到達目標] 救急医療情報センターと救急相談センターの役割について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急医療情報センターと救急相談センターの役割についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第4講	<p>災害の定義</p> <p>[到達目標] 災害の定義を述べ、いくつかの分類を列挙できる。 最近、世界または国内で発生した主な災害をいくつかあげ、それぞれの概要について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては大規模災害についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第5講	<p>災害医療体制</p> <p>[到達目標] 災害医療に関する法律についてそれぞれ説明できる。 災害拠点病院・DMAT・緊急消防援助隊の役割と内容についてそれぞれ説明できる。 災害時の経時的医療ニーズの推移について説明できる。 災害対応における他機関との連携について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては大規模災害についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第6講	<p>多数傷病者対応・特殊災害</p>	

	<p>[到達目標] 多数傷病者発生時の具体的対応について説明できる。 CSCATTのそれぞれの内容と意味を説明できる。 特殊災害の種類とそれぞれの説明ができる。 ゾーニングが実施できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としては多数傷病者対応・特殊災害についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p> <p>トリアージ</p>
第7講	<p>[到達目標] トリアージの概要について説明できる。 トリアージの種類と方法について説明・実施できる。 トリアージタグの内容・記載方法について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としてはトリアージについてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第8講	<p>市民による一次救命処置</p> <p>[到達目標] 救命の連鎖について理解し、説明できる。 市民による一次救命処置について説明できる。 一次救命処置の市民教育について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としては救命の連鎖と市民による一次救命処置についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第9講	<p>メディカルコントロール体制</p> <p>[到達目標] メディカルコントロールについて説明できる。 オンライン(直接的)・オフライン(間接的)メディカルコントロールについて説明できる。 PDCAサイクルについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としてはメディカルコントロールについてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第10講	<p>119番受信と通信体制</p> <p>[到達目標] 119番受信と通信体制について説明できる。 口頭指導の種類と方法についてそれぞれ説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としては119番受信と通信体制についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第11講	<p>救急隊の現場活動</p> <p>[到達目標] 現場活動について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としては現場活動についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第12講	<p>医療機関選定と搬送</p> <p>[到達目標] 医療機関選定と搬送について説明できる。 通信体制について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる(所要時間30分) 復習としては医療機関選定と搬送についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第13講	<p>救急救命処置録とウツタイン様式</p> <p>[到達目標]</p>

	<p>救急救命処置録について説明できる。 ウツタイン様式について説明できる。 グラスゴー・ピッツバーグ脳機能・全身機能カテゴリーをそれぞれ説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 復習としては救急活動の記録についてレポートで提出(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 総復習・筆記試験 [到達目標] 救急医学概論(第1講から第13講)の内容について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング無 [授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてこること(所要時間30分) 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
第14講	
授業時間外の学習(準備学習等)について	各授業日までに指定された第10版救急救命士標準テキストを読み、自習すること。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	救急隊員標準テキスト(へるす出版) J P T E Cガイドブック(へるす出版)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>※全てのレポート提出完了が定期試験受験の案件 評価割合(筆記試験70%、レポート30%)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_takahashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 北村 誠 研究室 : 6号館1階講師室 オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 皆藤 竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_kaito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後1時間</p>
備考	高橋 司:消防署での臨床経験に基づき授業を行う。
	【この授業とディプロマポリシーとの関連】◎-1,○-2,○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
秋濱 裕之、中尾 誠宏、守岡 大吾			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士として傷病者の観察・処置などの基本を理解し、刻一刻と変化する病態に対し、解剖学的、生理学的に緊急度・重症度の判断が確実にできることを本授業の目的とする。			
授業計画	第1講	オリエンテーション・観察総論（観察の目的と意義、バイタルサインと観察の方法について）（担当：秋濱） 【到達目標】 バイタルサインの概念を説明し、具体的な項目を列挙できる。 問診の意義、方法、聴取すべき事項について説明できる。 問診以外の基本的観察方法を列挙し、それぞれについて説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p300～303までを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う観察の目的と意義、バイタルサインと観察の方法についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	第2講	現場活動の基本（状況評価・初期評価）（担当：秋濱） 【到達目標】 状況評価の要素を列挙し、それぞれについて説明できる。 初期評価で観察すべき事項を列挙できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト第10版p246～248を読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士の現場活動における状況評価についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。
	第3講	現場活動の基本（全身観察～車内活動）（担当：秋濱） 【到達目標】 全身観察から車内活動にかけてで実施すべき事項を列挙できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト第9版p248～250を読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士の現場活動における全身観察・継続観察・詳細観察・重点観察・車内活動についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	第4講	全身状態の観察（外見の観察）（担当：中尾） 【到達目標】 外見に関して観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p304～307までを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う全身状態の観察（外見の観察、気道・呼吸に関する観察）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。
	第5講	全身状態の観察（気道・呼吸に関する観察）（担当：中尾） 【到達目標】 気道に関して観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 呼吸に関して観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 異常な呼吸パターンを列挙し、それぞれの概念と代表的な原因疾患について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p304～307までを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う全身状態の観察（外見の観察、気道・呼吸に関する観察）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。	第6講	全身状態の観察（循環に関する観察）（担当：中尾） 【到達目標】 循環に関して観察すべき項目を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。 体表面で触知できる動脈の部位と触知方法について説明できる。

第7講	<p>脈拍を触知できる動脈の部位によって収縮期血圧を推定することができる。 脈拍の性状と様式の特徴と推定される代表的な疾患について説明できる。 神経系に関して観察すべき基本事項を列挙し、それぞれの主な所見を述べることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p310～311を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の全身状態の観察（意識状態に関する観察）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 全身状態の観察（意識状態に関する観察）/神経所見の観察（担当：中尾）</p> <p>【到達目標】 ・全身状態の観察 JCS を用いた意識レベルの評価について説明できる。 GCS を用いた意識レベルの評価について説明できる。 ・神経所見の観察 運動麻痺の種類と観察方法について説明できる。 正常反射と病的反射の違いについて説明できる。 運動失調の観察方法について説明できる。 感覚障害の種類と観察方法について説明できる。 髄膜刺激症候の概要について説明できる。 脳卒中スケールの概要について説明できる。 神経学的異常の観察方法について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p310～311, 322～326を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の全身状態の観察（意識状態に関する観察）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 局所の観察（皮膚・頭部・顔面・頸部）（担当：中尾）</p>
第8講	<p>【到達目標】 皮膚に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べるることができる。 頭部・顔面・頸部に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を、皮下気腫、視覚、聴覚についての観察方法を含めて述べるることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p312～316を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の局所の観察（頭部・顔面・頸部）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 局所の観察（胸部・背部）（担当：中尾）</p>
第9講	<p>【到達目標】 胸部・背部に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p316～317を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の局所の観察（胸部・背部）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 局所の観察（腹部、鼠径部・会陰部・骨盤）（担当：中尾）</p>
第10講	<p>【到達目標】 腹部に関する観察項目をあげ、それぞれについて観察方法、主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べることができる。 鼠径部・会陰部・骨盤に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p317～319を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の局所の観察（腹部、鼠径部・会陰部・骨盤）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 局所の観察（四肢、手指・足趾・爪、各種病態の観察アルゴリズム）（担当：中尾）</p>
第11講	<p>【到達目標】 四肢に関する観察項目をあげ、それぞれについて観察方法、主な所見とそれから判断される病態または疾患を述べることができる。 手指・足趾・爪に関する観察項目をあげ、それぞれについて主な所見とそれから判断される病態または疾患を、爪床圧迫テストについては観察方法を含めて述べることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p319～321を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の局所の観察（四肢、手指・足趾・爪、各種病態の観察アルゴリズム）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 緊急度・重症度判断（緊急度と重症度、判断の基準（緊急度・重症度の分類））（担当：守岡）</p>
第12講	<p>【到達目標】</p>

	<p>緊急度と重症度の概念，判断，目的について説明できる。 重症度を5つに分類し，それぞれの概要について説明できる。 緊急度を4つに分類し，それぞれの定義について説明できる。</p> <p>【授業形態】 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p327～328を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては緊急度・重症度判断（緊急度と重症度、判断の基準（緊急度・重症度の分類））についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 緊急度・重症度判断の基準（緊急度・重症度判断の基準）（担当：守岡）</p> <p>【到達目標】 緊急度・重症度の判断における一般的な手順について説明できる。 緊急度・重症度判断基準」の生理学的評価で重症以上と判断する基準を列挙できる。 緊急度・重症度判断で注意すべき傷病者の背景を列挙できる。 オーバートリアージとアンダートリアージについてそれぞれ説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p328～331を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては判断の基準（緊急度・重症度判断の基準）についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 まとめ・筆記試験（担当：秋濱）</p> <p>【到達目標】 第1講から13講の内容を踏まえて初期評価と全身観察・重点観察の結果から、緊急度・重症度を判断し、適切な医療機関を選定できる。 使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価についてそれぞれ説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（レポートの解説とフィードバック） 【授業時間外における学修】 予習は救急救命士テキスト10版p300～331読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う観察の目的と意義についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに指定された第10版救急救命士標準テキストを読み、自習すること。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 改訂第5版救急隊員標準テキスト（へるす出版） 改定第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版） JRC蘇生ガイドライン2020
参考書	特になし
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の条件。 筆記試験60%、レポート20%、授業態度20%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 秋濱裕之 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : h_akihamameiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 中尾誠宏（非）日本救急システム（株） 研究室 : 6号館2階講師室 メールアドレス : nakao@jems.co.jp オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 守岡大吾 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	秋濱裕之：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 中尾誠宏：救急救命士として役場救急での臨床経験に基づき授業を行う。 守岡大吾：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎-1，○-2，○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
坪倉 寛明、木村 隆彦			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔授業：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士の資格取得及び資格取得後に、救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的とする。救急業務の歴史をはじめ、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療体制の整備状況、救急医療情報システム、救急救命士制度・救急隊員の資格及び教育体制、救急処置範囲拡大の背景、傷病者との接遇要領、救急活動上のトラブル及び訴訟対応等について体系的に理解する。
授業計画	<p>第1講 救急業務高度化の背景及び救急救命士制度・MC体制について (到達目標) 救急処置範囲拡大の経緯及び救急救命士の業務について概要を整理し理解する。 (予習) 「救急隊員標準テキスト」P3～P10を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急処置範囲拡大の経緯及び救急救命士の業務について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第2講 救急業務の現況と実施体制及び応急手当普及啓発の必要性について。 (到達目標) 救急業務の現状について概要を整理し理解する。 (予習) 参考書「令和2年版消防白書(救急編)」を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急業務の現状について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第3講 119番の受信及び救急活動に係わる無線情報システムについて。 (到達目標) 119番の受信及び救急活動に係わる無線情報システムについて整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P37～P42を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急活動の情報システムについて概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第4講 救急隊員の責務及び救急活動の基本行動と救急事故種別について。 (到達目標) 救急隊員の責務及び救急活動の基本行動と救急事故種別について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」p 23～p 35を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急活動の基本行動について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第5講 出場から傷病者接触・医師引き継ぎ・帰署までの救急活動要領について。 (到達目標) 出場から傷病者接触・医師引き継ぎ・帰署までの救急活動要領について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」p 43～p 53 を読んでおくこと。(30分) (復習) 出場指令受信から帰署までの活動について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第6講 救急現場における傷病者及び家族・関係者との接遇要領について。 (到達目標) 救急現場における傷病者及び家族・関係者との接遇要領について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P69～P78を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急活動と接遇要領について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第7講 救急現場の安全管理対策及び事故発生時の対応について。 (到達目標) 救急現場の安全管理対策及び事故発生時の対応について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P79～P89を読んでおくこと。(30分) (復習) 安全管理の事前対策及び事故時の対応について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第8講 救急活動の妨害行為、不搬送、現場到着の遅れ等のトラブル対応について。 (到達目標) 救急活動の妨害行為、不搬送、現場到着の遅れ等のトラブル対応について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P91～P99を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急活動に伴う各種トラブル対応要領について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第9講 救急活動と国家賠償責任、救急活動記録票の意義及び救急活動に関する各種照会等について。 (到達目標) 救急活動と国家賠償責任、救急活動記録票の意義及び救急活動に関する各種照会等について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P101～P107を読んでおくこと。(30分) (復習) 救急活動に伴う訴訟及び照会への対応について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p> <p>第10講 交通事故、労災事故、一般負傷事故における救急活動上の着眼点について。 (到達目標)</p>

	<p>交通事故、労災事故、一般負傷事故における救急活動上の着眼点について理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P109～P116を読んでおくこと。(30分) (復習) 交通事故、労災事故、一般負傷事故における活動要領について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第11講 運動競技事故、急病事故、ガス中毒事故における救急活動上の着眼点について。 (到達目標) 運動競技事故、急病事故、ガス中毒事故における救急活動上の着眼点について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P117～P123を読んでおくこと。(30分) (復習) 運動競技事故、急病事故、ガス中毒事故における活動要領について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第12講 加害事故、水難事故、感染のおそれがある事故における救急活動上の着眼点について。 (到達目標) 加害事故、水難事故、感染のおそれがある事故における救急活動上の着眼点について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P125～P133を読んでおくこと。(30分) (復習) 加害事故、水難事故、感染のおそれがある事故における活動要領について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第13講 多数傷病者発生現場における救急活動について。 (到達目標) 多数傷病者発生現場における救急活動について整理し理解する。 (予習) 「救急搬送概論・新訂版」P145～P169を読んでおくこと。(30分) (復習) 多数傷病者発生現場の対応について概要を整理する。(30分) (授業形態) アクティブラーニング有り。講義終了後ディスカッションを行う。</p> <p>第14講 これまでの授業を総括し、救急救命士の社会的ニーズについて。確認テスト (到達目標) 第1講話～第13講話までの授業を総括し、救急救命士の社会的ニーズについて説明する。 (予習) 救急業務の現状、救急活動の基本的事項及び救急活動体制・救急法制について確認しておくこと。(30分) (復習) 救急業務の現状と課題に関する理解を深める。(30分) (授業形態) アクティブラーニングなし。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学習した内容をまとめ、提出する。(復習30分)。
教科書	「救急搬送概論・新訂版」(荘道社) 改訂10版「救急救命士標準テキスト」(へるす出版) 改訂5班「救急隊員標準テキスト」(へるす出版)
参考書	令和2年版年消防白書(総務省消防庁) 令和2年版救急救助の現況(総務省消防庁)
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が期末試験受験の要件とする。 期末試験(70%) レポート(30%)を総合的に判断し評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp
備考	坪倉寛明 消防士として現場経験37年、内救急救命士歴21年とJPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験及び知識をもとに講義、実技を行う。 本科目は、より迅速、確実な行動がとれるよう随時、学生が主体となったグループディスカッションを行いながら進める。 木村隆彦 消防士としての30年以上の経験を基に、現場対応等講義を行こなう。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	必修
担当教員			
秋濱 裕之、木村 隆彦、皆藤 竜弥、守岡 大吾、金子 優輝			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：講義・実習/ブレンド ディット型	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な解剖学に基づいた救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解し、救急救命処置要領を習得し、即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。 ・救急隊員標準課程の知識・技術の習得及び規律、礼儀が社会人として認められる教育を習いとする。
授業計画	<p>第1～3講 オリエンテーション・除細動と致死性不整脈について 【到達目標】 心肺停止の波形・心肺停止の病態について習得する。 救急隊活動として、除細動プロトコールについて習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第4～15講 特定行為・声門上気道デバイスについて、器具を使った気道確保 LT/LM, 心停止の病態について 【到達目標】 声門上気道デバイスについて習得する。 LM/LTを使用した気道確保を確実にできる。 心肺停止の病態・心肺停止の活動について習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第16～18講 50問試験①, 器具を使った気道確保 LT/LM スキルチェック 【到達目標】 声門上気道デバイスについて習得する。 LM/LTを使用した気道確保を確実にできる。 心肺停止の病態・心肺停止の活動について習得する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第19～27講 特定行為・気管挿管について、器具を使った気道確保 気管挿管 【到達目標】 気管挿管について習得する。 挿管チューブを使用した気道確保を確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第28～30講 50問試験②, 器具を使った気道確保 気管挿管 スキルチェック 【到達目標】 気管挿管について習得する。 挿管チューブを使用した気道確保を確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第31～39講 静脈路確保・薬剤投与について、静脈路確保・薬剤投与 【到達目標】 静脈路確保・薬剤投与について習得する。 静脈留置針を使用した静脈路確保、アドレナリン投与が確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第40～42講 前期期末試験, 静脈路確保・薬剤投与 スキルチェック 【到達目標】 静脈路確保・薬剤投与について習得する。 静脈留置針を使用した静脈路確保、アドレナリン投与が確実にできる。 【授業形態】</p>

	<p>アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第43～54講 外傷傷病者に対する静脈路確保および輸液、ショックの病態生理について 【到達目標】 心肺停止前輸液について習得する。 外傷によるショックに対する静脈路確保と輸液の判断が確実にできる。 静脈留置針を使用した静脈路確保が確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第55～57講 50問試験③，外傷傷病者に対する静脈路確保および輸液 スキルチェック 【到達目標】 心肺停止前輸液について習得する。 外傷によるショックに対する静脈路確保と輸液の判断が確実にできる。 静脈留置針を使用した静脈路確保が確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第58～69講 血糖測定・ブドウ糖溶液投与について 【到達目標】 血糖測定について習得する。 低血糖傷病者に対する血糖測定の判断と手技が確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第70～72講 50問試験④，血糖測定・ブドウ糖溶液投与について スキルチェック 【到達目標】 血糖測定について習得する。 低血糖傷病者に対する血糖測定の判断と手技が確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第73～78講 救急隊活動 CPA活動（LM/LT、静脈路確保、薬剤投与、気管挿管） 【到達目標】 救急隊活動として、成人に対しての心肺蘇生要領を確実に習得する。LM/LT、気管内チューブを使用した気道確保を確実にできる。静脈留置針を使用した静脈路確保が確実にできる。 アドレナリン投与が確実にできる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第79～81講 救急隊活動 CPA活動（LM/LT、静脈路確保、薬剤投与、気管挿管）/外傷活動（ショック輸液） 【到達目標】 救急隊活動として、成人に対しての心肺蘇生要領を確実に習得する。LM/LT、気管内チューブを使用した気道確保を確実にできる。静脈留置針を使用した静脈路確保が確実にできる。 アドレナリン投与が確実にできる。 外傷活動を行う中で適応を判断し、適切な処置が実施できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第82～84講 期末試験，救急隊活動 CPA活動（LM/LT、静脈路確保、薬剤投与、気管挿管）/外傷活動（ショック輸液） 【到達目標】 救急隊活動として、成人に対しての心肺蘇生要領を確実に習得する。LM/LT、気管内チューブを使用した気道確保を確実にできる。静脈留置針を使用した静脈路確保が確実にできる。 アドレナリン投与が確実にできる。 外傷活動を行う中で適応を判断し、適切な処置が実施できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・隊活動後のフィードバック） 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキスト該当ページを熟読すること。（所要時間100分） 復習：授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること。 ・毎授業で行う小テストで、自身が間違えた問題の解説をレポートにまとめること。 ・毎授業で提示される課題をレポートにまとめ、次回授業の際に提出すること。
教科書	救急技術マニュアル 救急隊員標準テキスト 改定第2版補訂版 JPTECガイドブック

	救急資器材管理マニュアル 救急蘇生法の指針2015（市民用・解説編） 改訂10版 救急救命士標準テキスト
参考書	特定行為ハンドブック 救急処置スキルブック（上巻・下巻）
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点 20%（レポートの課題評価） 定期筆記試験 40% 実技試験 40%</p> <p>※すべての定期試験およびスキルチェックに合格していること、すべての提出物を提出していることを成績評価の前提とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 秋濱 裕之 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : h_akiyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習時に指示する</p> <p>担当教員名 : 木村隆彦 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後</p> <p>担当教員名 : 皆藤竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_kaitou@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後</p> <p>担当教員名 : 守岡大吾 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後</p> <p>担当教員名 : 金子優輝 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : y_kaneko@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	<p>秋濱裕之：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 木村隆彦：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 皆藤竜弥：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 守岡大吾：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 金子優輝：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-2, ○-4</p>

講義科目名称： 健康科学

授業コード：

英文科目名称： ケコウカガク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	健康とは心身共に健やかで活気に満ちた状態であり、複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るべきものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を身に付ける必要がある。この授業は、健康の三原則（栄養・運動・休養）について学び、健康と栄養のかかわりを理解し、健康に関連する生活習慣病を予防するための身体活動の質と量を理解する。また、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。
授業計画	<p>第1講 健康と生活習慣 [到達目標] からだにいいライフスタイルについて理解できる。 予習：健康と生活習慣について考える（45分） 復習：健康と生活習慣について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第2講 健康と飲酒・喫煙 [到達目標] お酒と健康的な付き合い方。喫煙は「百害あって一利なし」を科学的に理解できる。 予習：健康と飲酒・喫煙の影響について考える（45分） 復習：健康と飲酒・喫煙について学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第3講 健康と体力 [到達目標] 健康と体力の関係について具体的に説明できる。 予習：健康とは何か考えてくる（45分） 復習：健康と体力の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p> <p>第4講 健康づくりのための運動指針 [到達目標] 自分のエネルギー消費量を算出することができる。 予習：健康づくりとは何か考えてくる（45分） 復習：健康づくりで学んだ内容を日々の生活習慣に取り入れ実践する（45分）</p> <p>第5講 「肥満とやせの評価」 [到達目標] あなたの判定について関心を持つことができる。 予習：BMI とその他の体脂肪量測定方法について調べておく（45分） 復習：肥満とやせの評価で学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第6講 体力の特性 [到達目標] 「行動体力」と「防衛体力」を兼ね備えた基礎体力について考えることができる。 予習：体力とは何か考えてくる（45分） 復習：体力について学んだことを理解しておく（45分）</p> <p>第7講 体力測定と体力の評価 [到達目標] 体力測定と体力の評価について学んだことを理解できる。 予習：新体力テストの測定方法とその評価について調べておく（45分） 復習：新体力測定と体力の評価について学んだことを復習しておく（45分）</p> <p>第8講 トレーニング論の基礎 [到達目標] トレーニングによる筋力への効果とその他の効果について考えることができる。 予習：今まで行ってきたトレーニング内容を振り返り、留意点をまとめておく（45分） 復習：トレーニング効果について復習しておく（45分）</p> <p>第9講 体力の加齢変化 [到達目標] 体力の発育・発達と、加齢による体力の衰えについて解析できる。 予習：体力があるとはどのようなことか、またどのような方法で測定できるか考える（45分） 復習：自分の体力をさまざまな観点から評価してみる（45分）</p> <p>第10講 健康と栄養 [到達目標] 栄養を考えた食事に関心を持つことができる。 予習：健康と栄養について考えてくる（45分） 復習：健康と栄養の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p> <p>第11講 健康と運動 [到達目標] 健康と運動の関係について具体的に説明できる。 予習：運動は健康に良いといわれているが、科学的な根拠を考えておく（45分） 復習：健康と運動の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p> <p>第12講 「栄養（食事）・運動・休養」のバランス [到達目標] 栄養・運動・休養、この順番の重要性について学習した内容を理解できる。 予習：栄養・運動・休養について考えておく（45分） 復習：栄養・運動・休養のバランスについて学習した内容を復習しておく（45分）</p> <p>第13講 健康と薬物（ドーピング等） [到達目標] 健康を脅かす薬物についての危険性が理解できる。 予習：薬物について調べておく（45分） 復習：健康と薬物について学んだことを復習しておく（45分）</p> <p>第14講 総括 [到達目標] 講義のまとめ（定期試験）</p>

	予習：第1講～第13講をまとめておく（45分） 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（45分）
授業時間外の学習（準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：村川増代 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-2。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
木村隆彦 皆藤竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	河川における自己救助の基礎技術の体得と河川救助の基礎知識及び技術を修得し、河川に対する安全確保の能力を修得する。 ①河川における代表的な形状と特性に関する基礎的な知識を修得する。 ②河川における自分の身の守り方、また河川におけるケガの特性を理解し、その対応を実践できる。		
授業計画	第1講	河川における水難事故とその対応 【到達目標】 河川における水難事故の知識、救助者としての心構えを修得する。 (予習) 当科目のシラバスを事前に読んでおくこと。 (復習) 復習は各回触れた内容について、教科書を読み直し内容を箇条書き等で整理する 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第2講	個人装備とチーム装備 【到達目標】 河川救助に必要なロープ及び滑車、カラビナなどの資機材の使用方法を理解する。 (予習) 自分の身の回りがある河川をよく観察してくること。とくに水面の変化等についてをよく観察し、その水面下ではどのような水の流れがあるのか等考えておくこと。 (復習) 実際にそのような水面の変化があるところでは動きが取れたかどうか、自分の体験を整理しておく 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第3講	急流での基本泳法 【到達目標】 流れの方向を見極めて対岸まで泳いで渡る。 (予習) 自分の身の回りがある河川をよく観察してくること。とくに水面の変化等についてをよく観察し、その水面下ではどのような水の流れがあるのか等考えておくこと。 (復習) 実際にそのような水面の変化があるところでは動きが取れたかどうか、自分の体験を整理しておく 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第4講	スローロープ 【到達目標】 スローロープを使用して急流で溺れている要救助者を確保する。 (予習) スローバックの構造と特徴について事前に調べ、整理しておくこと (復習) スローバックを使用する側、される側の体験を整理して、疑問をメモしておく 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第5講	浅瀬横断 【到達目標】 救助者が複数でスクラムを組み浅瀬の急流を横断する。 (予習) 渓流地での危険性について事前に調べ、整理しておく (復習) 足場が悪いところでの歩行体験や、常に水にぬれている環境でのむずかしさを体験し、水辺の救助と平地の救助との違いを整理しておくこと 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第6講	コンタクトレスキュー 【到達目標】 意識のない、またはパニック状態の要救助者にたいして泳いでレスキューを試みる。 (予習) テキストを読み、今までの訓練を復習しておく。 (復習) 各基本動作のポイントを整理しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第7講	ボートコントロール 【到達目標】 ラフトボートの操船、およびフリップアンドリカバリーを理解する。 (予習) 川の流れに対してラフティングボートをどのように維持すればよいのか事前に調べ、整理しておくこと (復習) ラフティングボートの漕ぎ方等について体験を整理して、疑問をメモしておく 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバックあり）	
	第8講	テンション・ダイオグナル 【到達目標】 対岸にロープを張り、要救助者に捕まらせる。 (予習) 自分たちが水の中に入らずとも救助できる方法を事前に考え、整理してくること	

	<p>(復習) 岸のうえから行う救助方法と助けられる側の気持ちを考え、疑問点をメモしておく 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第9講 ストレーナー越え 【到達目標】 河川域での危険物であるストレーナーから身を守り泳ぐ。</p> <p>(予習) 河川での障害物の乗り越え方を事前に考え、整理しておくこと (復習) 各基本動作のポイントを整理しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第10講 フットエントラップメント 【到達目標】 水圧により川底の障害物などに挟まってしまった要救助者の救助方法を理解する。</p> <p>(予習) 川底の岩などに足を挟まれてしまった場合の脱出方法を復習しておく。 (復習) 自ら水の中につかり行う救助方法と助けられる側の気持ちを考え、疑問点をメモしておく 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第11講 Cスパインロール 【到達目標】 水中で意識のない要救助者の気道確保を理解する。</p> <p>(予習) 河川での頸椎損傷の傷病をどのように救助するか復習しておく。 (復習) 自ら水の中につかり行う救助方法と助けられる側の気持ちを考え、疑問点をメモしておく 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第12講 2ポイント・4ポイントボートテザーシステム 【到達目標】 ボートにコントロールラインを接続しロープを兩岸の陸上から操作することによってボートを移動、停止させる。</p> <p>(予習) これまで培ってきた技術を用い、今度はラフティングボートの上から救助できる方法を事前に考え、整理しておくこと (復習) ラフティングボートのうえから行う救助方法と助けられる側の気持ちを考え、疑問点をメモしておく 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第13講 ロープによるシステム 【到達目標】 スタティックロープによる倍力システムを理解する。</p> <p>(予習) これまで培ってきた技術を用い、自分たちの体とロープだけで救助できる方法を事前に考え、整理しておくこと (復習) 各基本動作のポイントを整理しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第14講 ラフティング 【到達目標】 ラフボートによる吉野川下りを体験する。</p> <p>(予習) 今までの訓練を復習しておく。 (復習) 各基本動作のポイントを整理しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p> <p>第15講 第1講～第14講のまとめ 【到達目標】 今まで学習した内容を総復習をして、筆記・実技試験で、知識・技術の確認を行う。</p> <p>(予習) テキストを読み、今までの訓練を復習しておく。 (復習) 各基本動作のポイントを整理しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバックあり)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	授業時に配布
参考書	特になし
成績評価	評価基準はそれぞれについて 授業での発言・発表 (30%) 実技想定訓練 (30%) 実技演習訓練 (30%) レポート (10%) で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村隆彦 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 皆藤竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時
備考	木村隆彦: 消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 皆藤竜弥: 医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
秋濱裕之 皆藤竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	雪上における救助技術を身につけるとを目標とする。 雪上における危険な環境を認識すること。 雪上で起こりえる疾病や傾斜面でのケガについて整理し、理解する。 雪上で救助を行う上で自分が現場活動をスムーズに行える。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 〔到達目標〕 授業の進め方、寒冷環境についての説明ができる。</p> <p> (予習) 当科目のシラバスを読んでおくこと。また、雪上と陸地の違いを整理しメモしておく。 (復習) 授業で解決できなかった疑問点について整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第2講 スキー滑走基本技術訓練 I 〔到達目標〕 カービングスキーとそれ以外のスキーの特性と特徴を理解する。</p> <p> (予習) カービングスキーとそれ以外のスキーの特性と特徴を差異を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで滑走することによりどの部位を使い運動しているのか。また滑走中のスピードと視野の範囲、視界について整理し、疑問点をメモしておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第3講 スキー滑走基本技術 II 〔到達目標〕 旋回、制動、静止を習得する。</p> <p> (予習) カービングスキー中の制動・静止の特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで滑走中の制動・静止について体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第4講 スキー滑走基本技術 III 〔到達目標〕 ターン（大回り、小回り）を習得する。</p> <p> (予習) カービングスキー中のターンの特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで滑走中のターンについて体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第5講 スキー滑走基本技術 IV 〔到達目標〕 長距離滑走の技術を習得する。</p> <p> (予習) カービングスキーで滑走することによる身体的ストレスの特性と特徴を調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) カービングスキーで長距離滑走について体験したことを整理し、疑問点をメモしておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第6講 凍傷に対する理解と整理、偶発性低体温・雪眼炎について説明する 〔到達目標〕 実際に寒冷地で肌を暴露したり、雪からの反射光を体験しその経験を整理し、改めて病態を考える。</p> <p> (予習) 偶発性低体温や雪眼炎について病態や症状・所見について事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 実際に寒冷地で肌を暴露した際や、雪からの反射光を体験し、それらの経験を整理し、改めて病態を考え、疑問点をメモしておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第7講 雪上での骨折に対する処置 〔到達目標〕 RICE処置を理解し、傾斜面での処置の困難を体験する。</p> <p> (予習) RICE処置について事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 雪上でのRICE処置のむずかしさを体験し、傷病者の気持ちも含め整理し疑問点を整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有（実技実習後フィードバック）</p> <p>第8講 雪上における脊椎骨折に対する処置</p>

	<p>〔到達目標〕 雪上での全脊柱固定の困難、および傾斜面で足場の悪い中での処置を体験する。</p> <p>(予習) 平地で行うバックボード固定やKEDでの全身固定などについて事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 雪上での全身固定のむずかしさを体験し、傷病者の気持ちも含め整理し疑問点を整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第9講 アキヤボート取扱訓練</p> <p>〔到達目標〕 要救助者を乗せて斜面を降りる訓練を体験する。</p> <p>(予習) アキヤボートについて事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 雪上でのボート収容やボート移動のむずかしさを体験し、傷病者の気持ちも含め整理し疑問点を整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第10講 スノーモービルの操作</p> <p>〔到達目標〕 実際にスノーモービルを運転し、難しさを体験する。</p> <p>(予習) スノーモービルについて事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) スノーモービル操作やその搬送方法のむずかしさを体験し、傷病者の気持ちも含め整理し疑問点を整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第11講 傾斜面での傷病者への処置</p> <p>〔到達目標〕 雪上であり傾斜面での足場の滑る中での傷病者への接遇や処置を体験する。</p> <p>(予習) 傾斜面での処置について考えられる限り考察し、疑問点をメモしておく。 (復習) 傾斜面での救助処置のむずかしさを体験し、傷病者の気持ちも含め整理し疑問点を整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第12講 雪上救助で重要なデバイスについて</p> <p>〔到達目標〕 雪上救助に置いて重要な陰圧式固定具の取扱を体験する。</p> <p>(予習) 陰圧式固定具について考えられる限り考察し、疑問点をメモしておく。 (復習) 雪上での陰圧式固定具処置のむずかしさを体験し、傷病者の気持ちも含め整理し疑問点を整理しておく。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第13講 スキーパトロールの活動に対する理解</p> <p>〔到達目標〕 スキーパトロール活動の難しさや現場での申し送りのポイントを体験する。</p> <p>(予習) スキーパトロールについて事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) スキーパトロール活動のむずかしさや現場での申し送りのポイントなどを考え、疑問点を整理する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第14講 消防・医療・スキーパトロールの連携について</p> <p>〔到達目標〕 傷病者が発生した場合の連携について理解する。</p> <p>(予習) 雪上における医療活動について事前に調べ、疑問点をメモしておく。 (復習) 雪上における救助活動のむずかしさや現場での申し送りのポイントなどを考え、疑問点を整理する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p> <p>第15講 第1講～第14講のまとめ</p> <p>〔到達目標〕 雪上における傷病者への接触の仕方、処置などを総合的に体験し理解する。</p> <p>(予習) これまで培った知識を整理し、疑問点をメモしておく。 (復習) 雪上における活動を振り返り、平地との違いを考察する。 【授業形態】 アクティブラーニング有 (実技実習後フィードバック)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。雪上の救助における基礎知識 雪上で行う救助活動において、傷病者の状態や環境に応じて資機材を選択し救助する方法 雪上で傷病者に接触するための方法としてスキーを活用し移動できる
教科書	改訂第10版救命士テキスト
参考書	特になし
成績評価	評価基準はそれぞれについて 授業での発言・発表 (30%) 実技想定訓練 (30%) 実技演習訓練 (30%) レポート (10%) で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 秋濱 裕之 研究室 : 6号館2階講師室 メールアドレス : h_akihamameiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時

	担当教員名 : 皆藤竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時
備考	秋濱裕之：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 皆藤竜弥：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学科：保健医療学部 救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義／オンライン授業（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_1E228スポーツ医学基礎_救急. xlsx			

授業目標	<p>【授業概要】 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するための科目である。</p> <p>【授業目標】 スポーツ医・科学とトレーニング科学の基本的な考え方と理論体系を習得することを目的とする。スポーツ医・科学では、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピングを、トレーニング科学では、トレーニングの基本的な考え方・理論体系、体力・スキルのトレーニングの原理原則、トレーニング計画を習得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 （担当：吉田行宏）ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理 【到達目標】 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。 2. スポーツと健康について理解し説明できる。 3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策 【到達目標】 アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策 【到達目標】 女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。 スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防 【到達目標】 スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法 【到達目標】 コンディショニングの手法について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置)</p>

	<p>【到達目標】 救急蘇生法について理解し説明できる。 外科的応急処置について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P297-310までを熟読しておくこと。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論</p>
7回目	<p>【到達目標】 1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。 2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。 3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせることでトレーニング方法を設定することができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。教科書熟読：p. 132-139。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-2、トレーニング計画論</p>
8回目	<p>【到達目標】 4) トレーニングを数年間、1年間、数ヶ月、数週間、1週間、1日という長期から短期までの時間資源の中で計画できる。 5) 試合当日の行動を戦略的に行うことができる。 6) 一連のトレーニングサイクルが適切であったか、さらによりよくするためにはどうすべきかに関する測定・評価・診断(アセスメント)を行うことができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) トレーニング計画論、トレーニングと休養のバランス、他。教科書熟読：p. 139-155。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-1、身体のしくみと働き、体力を構成する要素体系他</p>
9回目	<p>【到達目標】 7) 体力を構成する要素について、身体のしくみと働きを踏まえて体系的に説明できる。 8) 各自が実践するスポーツ種目に必要な体力の種類とそのバランスについて説明できる。 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) 身体のしくみと働き、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、体力構成要素 教科書熟読：p. 156-178。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-2、体力トレーニングの原理・原則、種類</p>
10回目	<p>【到達目標】 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 10) 筋力・パワートレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 11) 持久力トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 12) 柔軟性トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 13) 体力トレーニング手段の組み合わせ方が説明できる。 14) トレーニングの目標と課題、具体的な手段、実践内容や方法について考えて計画し、説明が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) 体力トレーニングの原理・原則、トレーニングの種類。教科書熟読：p. 176-191。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-1、スポーツ技術・技能、スキルトレーニングの特徴など</p>
11回目	<p>【到達目標】 15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。 16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書熟読：p. 192-196。</p>

	<p>12回目 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-2、スキル向上のメカニズム・効果 【到達目標】 17) 技術的な習熟・発達には大きく3つの段階があり、上達の過程でプラトーやスランプなどの現象が見られることが説明できる。 3133 18) 技術トレーニングの方法、全習法（協調的全習法）と分習法、集中法と分散法、負荷軽減法（アシステッド法）と超過負荷法（レジステッド法）、イメージトレーニング法などについて説明できる。 3134 19) 技術トレーニングの方法の実施する順序や組み合わせによる効果の違いが説明できる。 3135 20) トレーニングの心理面、技術面、体力面はそれぞれ独立したものではなく、相互に規定し合い、密接に関連し補完し合う関係にあることが説明できる。 3136 21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p. 196-197。</p> <p>13回目 (担当：吉田行宏) アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割 【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p> <p>14回目 (担当：ゲストスピーカー) アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割 【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 アンチ・ドーピングに関わる専門家をゲストスピーカーとし、その現状について授業を行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・ 配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	トレーニングの科学（齊藤担当） 「トレーニング科学 最新エビデンス」 安部 孝編（講談社サイエンティフィク） 「スポーツでのばす健康寿命」 深代千之、安部孝編（東京大学出版会）
成績評価	出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。 ①合格点：各回の講義終了後に実施する小テスト(100点法)を集計して評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点が80点以上を優、70点～79点を良、60～69点を可とする。 ③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 13:50-16:40 担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間（要予約）。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。
備考	実務経験； 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。
	アクティブラーニング； 小テストのフィードバック及び授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
	ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 行宏			
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツ医学応用は、スポーツにおける心身の状態を理解し、適切な対応ができる基本的な知識を養うことを目的とする。また、今後開設される、健康とスポーツに関連する科目を理解するための基礎知識を習得する。</p> <p>特に、本科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p>
授業計画	<p>1回目</p> <p>1. ガイダンス 2. 他者力を磨こう(1)</p> <p>【到達目標】 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を知る。 2. 対他者力について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>2回目</p> <p>他者力を磨こう(2)</p> <p>【到達目標】 対他者力について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>3回目</p> <p>スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス</p> <p>【到達目標】 スポーツに関するガバナンスとコンプライアンスについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>4回目</p> <p>1. スポーツ仲裁 2. スポーツ倫理</p> <p>【到達目標】 1. スポーツに関する紛争とその仲裁について理解し、説明ができる。 2. スポーツに関する倫理について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>5回目</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系(1)</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>6回目</p> <p>スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系(2)</p> <p>【到達目標】 スポーツにおけるトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>7回目</p> <p>体力のトレーニング(1)</p> <p>【到達目標】 体力トレーニングに関する体の構造と機能について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>8回目</p> <p>体力のトレーニング(2)</p> <p>【到達目標】 体力のトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p>

	<p>9回目 スキルトレーニング 【到達目標】 スキルトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>10回目 心のトレーニング(1) 【到達目標】 心のトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>11回目 心のトレーニング(2) 【到達目標】 心のトレーニングについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>12回目 コーチング環境の特徴 【到達目標】 コーチングの環境について理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>13回目 スポーツ組織のマネジメント 【到達目標】 スポーツ組織のマネジメントについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p> <p>14回目 障がい者とスポーツ 【到達目標】 障がい者とスポーツについて理解し、説明ができる。 【授業形態】 遠隔授業(オンデマンド) 【備考】 テキストを読んで予習する。 特に講義中に述べた重要ポイントやアンダーラインの箇所について復習する。 小テストを実施し、解説を行い理解を深める。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習と復習のため、一度は教科書を読んでおくこと。 ・2021年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世間でのスポーツにおける関心がますます高まる。スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握しておく。
教科書	「リファレンスブック」 (財)日本スポーツ協会編 (財)日本スポーツ協会)
参考書	特記無し
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席基準(3/5)を満たした者に単位を認める。 ・成績評価は講義ごとに実施する課題や小テストの内容に提出期限を加味し、総合的に評価(優、良、可、不可)とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 経歴 : はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、鍼灸臨床歴19年、教員歴10年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 研究室 : 附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 13:50-16:40</p> <p>担当教員名 : 神内伸晃 研究室 : 6号館4F教員室 メールアドレス : n_jinnai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 18:00-19:00</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2F教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 齊藤昌久 研究室 : 6号館4F教員室 メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p> <p>教員名 : 棚原勝平 メールアドレス : s_tanahara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連

	①知識・理解-○ ③関心・意欲-○

講義科目名称： 日本国憲法（法学含む）

授業コード： 1E301

英文科目名称： ニホンコケンポウホウガクケツム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：救急	時間数：30時間	授業形態：演習／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。		
授業計画	第1講	日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。	
	第2講	[備考] 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・14条に関連する判例を指摘できる。	
	第3講	[備考] 自由権 1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。	
	第4講	[備考] 自由権 2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。	
	第5講	[備考] 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。	
	第6講	[備考] 国務請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。	
	第7講	[備考] 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度につき説明できる。	
	第8講	[備考] 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義やそれがどのような場合に認められるかを指摘できる。	
	第9講	[備考] 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。	
	第10講	[備考] 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。	
	第11講	[備考] 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。	
	第12講	[備考] 天皇・平和主義その他 [到達目標] 天皇の地位を説明できる（特に明治憲法と日本国憲法における地位の違いについて）。 憲法9条の意義について説明できる	
	第13講	[備考] 明憲と日憲・法治主義と法の支配・直接民主制・法学概論 [到達目標] 明治憲法と日本国憲法における人権（国民の権利）や統治機構に関する相違点を指摘できる。	

	<p>法治 主義と法の支配の意義の違いを説明できる。</p> <p>[備考] 第14講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	既習事項の確認や指示された問題（特に公務員試験問題）の演習を行う。
教科書	過去問精選問題集 出たDATA問(2)社会科学 基礎編 国家公務員・地方初級公務員試験オープンセサミシリーズ参考書 (1)政治・経済・社会 2022年度
参考書	芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第七版』（岩波書店）。 その他講義において指示するもの。
成績評価	最終試験50%・レポートや毎回の課題30%・授業態度など平常点20点 ※課題を期限後に提出した場合は減点し、期限後1週間過ぎた場合は提出を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : m_yamatani@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後（Classroomコメントへ）
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：救急	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士になるために不可欠な知識のうちその就職活動に必要な知識技能や社会的職業的に自立するために必要な資質能力である基礎的汎用的能力の修得を目指す。特に社会に関わる資質・能力を育成する。		
授業計画	第1講	ガイダンス・歴史的リテラシー習得1（西洋史1〔中世・近代初期〕） [到達目標] 歴史の流れを意識しながら中世から近代初期にかけてのヨーロッパの主要な出来事（十字軍派遣・ルネサンス・宗教改革・絶対王政など）の意義を説明できる。 [備考]	
	第2講	歴史的リテラシー習得2（西洋史2〔近代〕） [到達目標] 歴史の流れを意識しながら近代ヨーロッパ・アメリカの主要な出来事（市民革命・産業革命など）の意義を説明できる。 [備考]	
	第3講	歴史的リテラシー習得3（西洋史3〔現代1〕） [到達目標] 歴史の流れを意識しながら現代ヨーロッパ・アメリカの主要な出来事（第1次世界大戦・世界恐慌・第2次世界大戦など）の意義を説明できる。 [備考]	
	第4講	歴史的リテラシー習得4（西洋史4〔現代2〕） [到達目標] 歴史の流れを意識しながら現代ヨーロッパ・アメリカの主要な出来事（冷戦やその終結など）の意義を説明できる。 [備考]	
	第5講	歴史的リテラシー習得5（中国史1） [到達目標] 殷王朝から清王朝初期までの各王朝の政治制度や主要な出来事などを説明できる。 [備考]	
	第6講	歴史的リテラシー習得6（中国史2） [到達目標] 欧米各国の動向を意識しながら近代中国史における主要な出来事の意義などを説明できる。 [備考]	
	第7講	歴史的リテラシー習得7（日本史1〔古代〕） [到達目標] 古代における権力者の変遷を説明できる。公地公民制の確立とその変容につき説明できる。 [備考]	
	第8講	歴史的リテラシー習得8（日本史2〔中世〕） [到達目標] 鎌倉幕府と室町幕府の機構や財源などの違いを説明できる。 [備考]	
	第9講	歴史的リテラシー習得9（日本史3〔近世1〕） [到達目標] 織田信長と豊臣秀吉がそれぞれ行った政策の違いを説明できる。江戸幕府は強固な政権を作り上げたが、そのプロセスを説明できる。 [備考]	
	第10講	歴史的リテラシー習得10（日本史4〔近世2〕） [到達目標] 江戸時代の三大改革につきそれぞれの改革で実施された政策などを説明できる。 [備考]	
	第11講	歴史的リテラシー習得11（日本史5〔近世3・近代1〕） [到達目標] 欧米各国の動向を意識しながら開国に至った経緯とその後の国内の混乱の様子などを説明できる。明治新政府がなぜ富国強兵を目指したのかにつき説明できる。 [備考]	
	第12講	歴史的リテラシー習得12（日本史6〔近代2〕） [到達目標] 日清戦争と日露戦争それぞれにつき、そのきっかけやその後の国内の様子などの違いを説明できる。第1次世界大戦やその後の協調外交路線が日本に与えた影響につき説明できる。 [備考]	

	<p>第13講 [備考] 歴史的リテラシー習得13（日本史7〔現代〕） [到達目標] 欧米各国の動向を意識しながら世界恐慌から第2次世界大戦に至るまでの流れを説明できる。 戦後の各内閣の政策の特色などを説明できる。</p> <p>第14講 [備考] これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。 [備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各回1時間程度の復習（授業冒頭に前回の復習小テストあり）。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中指示するもの、及び高校のときに使用していた「日本史」や「世界史」の教科書
成績評価	まとめテスト50%・小テストとレポート30%・平常点20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：救急救命学科	授業時間：30時間	授業形態：講義（オンライン）	GoogleClassroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本授業は、東洋医学的観点から人体を観察する手法と、その理論を学ぶ。 そして、各自の専門領域における東洋医学的素養の涵養を、本授業のねらいとする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション、ビデオ視聴：東洋医学の不思議を知ろう！ 【到達目標】東洋医学の特徴を説明できる。 【備考】ビデオを視聴後、アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>2回目 自分の体質を東洋医学的にチェックしよう！ 【到達目標】東洋医学的体質の概要を説明できる。 【備考】セルフチェック表を活用します。</p> <p>3回目 基本理論：陰陽五行と気血津液論 【到達目標】陰陽五行と気血津液論の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>4回目 東洋医学的人体論①：肝・胆（その1） 【到達目標】肝・胆の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>5回目 東洋医学的人体論②：肝・胆（その2） ※含、経脈 【到達目標】肝・胆の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>6回目 東洋医学的人体論③：心・小腸（その1） 【到達目標】心・小腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>7回目 東洋医学的人体論④：心・小腸（その2） ※含、経脈 【到達目標】心・小腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>8回目 東洋医学的人体論⑤：脾・胃（その1） 【到達目標】脾・胃の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>9回目 東洋医学的人体論⑥：脾・胃（その2） ※含、経脈 【到達目標】脾・胃の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>10回目 東洋医学的人体論⑦：肺・大腸（その1） 【到達目標】肺・大腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>11回目 東洋医学的人体論⑧：肺・大腸（その2） ※含、経脈 【到達目標】肺・大腸の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。また、グループディスカッション（アクティブ・ラーニング）を織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>12回目 東洋医学的人体論⑨：腎・膀胱（その1） 【到達目標】腎・膀胱の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】アンケートや小テストを織り交ぜながら授業を進めます。</p> <p>13回目 東洋医学的人体論⑩：腎・膀胱（その2） ※含、経脈 【到達目標】腎・膀胱の概要をそれぞれ説明できる。 【備考】今までの「東洋医学人体論①～⑩」のまとめ+αを行います。</p> <p>14回目 本授業のまとめ 【到達目標】本授業で取り上げた内容を列挙できる。 【備考】今までの授業内容を自分なりにまとめてください。また、各自で専門領域との繋がりを考えてください。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：各回の授業までに、教科書の該当範囲を読んでおく。 復習：授業で取り上げた内容を、教科書をもとにまとめておく。 ※週4時間の授業時間外学習が必要となります。
教科書	平馬直樹（総監修）『基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書』ナツメ社
参考書	「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編（医道の日本社）
成績評価	評価の対象者：3/5以上の授業出席者。 評価方法：筆記試験（100点満点） ※課題などへのコメントは、授業内で提示します（全体or個別）。

担当教員の基本情報	教員名：河井正隆 連絡先：m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー(3号館別室)：木曜日 17:40～19:00
備考	実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。
	授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。 その場合は、GoogleClassroomでお伝えします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
竹内孝治・石原安信			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。各臓器の生理・疾患を説いた後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	<p>第1講 総論・薬理学の概念、末梢神経系作用薬：、自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 [到達目標] 薬理学の概念を説明できる。末梢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第2講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 1:麻酔薬、鎮痛薬、催眠薬、抗不安薬、気分障害治療薬、抗精神病薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第3講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 2:パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、アルツハイマー病治療薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第4講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 心臓・血管作用薬:高血圧、心不全、狭心症、不整脈の治療薬 [到達目標] 心臓・血管に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第5講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 ホルモン・内分泌系作用薬:糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、骨粗鬆症治療薬、生殖器系作用薬 [到達目標] ホルモン・生殖器系に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第6講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗炎症薬・呼吸器系作用薬:抗アレルギー薬、気管支喘息治療薬、消化器系作用薬:胃潰瘍治療薬、腸疾患治療薬 [到達目標] 炎症の機序とその治療に使われる薬の作用・副作用を説明できる。呼吸器、消化器に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第7講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬 [到達目標] 感染症・悪性腫瘍の発症機序とその治療に使われる薬の作用・副作用・作用メカニズムを説明できる。 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	教材(テキスト) 『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司 編集スーペール・ヒロカワ 随時、プリントを配布する。
参考書	『はじめての一步 イラスト薬理学』石井 邦雄 著 羊土社 授業中に適宜指示する。
成績評価	期末試験(80%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	分からないことかあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。
備考	担当教員名 :竹内孝治 研究室 :京都消化器疾患リサーチセンター メールアドレス:takeuchi@mb.kyoto-phu.co.jp

	オフィスアワー:随時 担当教員名 :石原安信 研究室 : メールアドレス: オフィスアワー:随時
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田中 秀治、高橋 宏幸、喜熨斗 智也、原貴大、皆藤竜弥、守岡大吾			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	現場の救急活動に対し、各々の適応・禁忌の根拠を病態生理学的に理解し、現場における鑑別診断を臨床推理を交えながらこれまで得た知識の整理をする。特に傷病者観察の能力向上につなげ、判断・処置の知識整理を補足したい。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・一過性意識消失と失神① (担当：田中 秀治 国士舘大学)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①失神の定義、発生機序を説明でき、それぞれの判断の手がかりについて説明できる。 ②失神以外に一過性の意識消失をきたす疾患を列挙できる。 ③緊急度・重症度の高い失神をきたす原因疾患を説明できる。 ④失神の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 519-521を熟読すること (所要時間30分) 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第2回 一過性意識消失と失神② (担当：田中 秀治 国士舘大学)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①失神の定義、発生機序を説明でき、それぞれの判断の手がかりについて説明できる。 ②失神以外に一過性の意識消失をきたす疾患を列挙できる。 ③緊急度・重症度の高い失神をきたす原因疾患を説明できる。 ④失神の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 519-521を熟読すること (所要時間30分) 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第3回 呼吸困難① (担当：高橋 宏幸 国士舘大学)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①呼吸困難の定義、性状を説明できる。 ②呼吸困難の代表的な原因疾患とそれぞれの判断の手がかりについて説明できる。 ③緊急度・重症度の高い失神をきたす原因疾患を説明できる。 ④呼吸困難の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 511-515を熟読すること (所要時間30分) 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第4回 呼吸困難② (担当：高橋 宏幸 国士舘大学)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①呼吸困難の定義、性状を説明できる。 ②呼吸困難の代表的な原因疾患とそれぞれの判断の手がかりについて説明できる。 ③緊急度・重症度の高い失神をきたす原因疾患を説明できる。 ④呼吸困難の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 511-515を熟読すること (所要時間30分) 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第5回 胸痛① (担当：喜熨斗 智也 国士舘大学)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①胸痛とみなすべき訴について説明できる。 ②胸痛の発症機序と代表的な疾患を説明できる。 ③性状と随伴症候から、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。</p>

	<p>④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 522-525を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 胸痛②（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①胸痛とみなすべき訴について説明できる。 ②胸痛の発症機序と代表的疾患を説明できる。 ③性状と随伴症候から、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 ④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第6回	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 522-525を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 胸痛②（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①胸痛とみなすべき訴について説明できる。 ②胸痛の発症機序と代表的疾患を説明できる。 ③性状と随伴症候から、緊急度・重症度の高い胸痛について説明できる。 ④胸痛の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第7回	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 529-533を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 腹痛①（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①腹痛の発生機序を説明できる。 ②腹痛の原因疾患を説明できる。 ③腹痛の傷病者で注意すべき随伴症候から、緊急度・重症度の高い腹痛について説明できる。 ④腹痛の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第8回	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 529-533を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 腹痛②（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①腹痛の発生機序を説明できる。 ②腹痛の原因疾患を説明できる。 ③腹痛の傷病者で注意すべき随伴症候から、緊急度・重症度の高い腹痛について説明できる。 ④腹痛の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第9回	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 529-533を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 咯血①（担当：高橋 宏幸 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①咯血の定義と代表的な疾患について説明できる。 ②咯血との判別を要する病態について説明できる。 ③緊急度・重症度が高い咯血の傷病者の状態について説明できる。 ④咯血の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第10回	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 516-518を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 咯血②（担当：高橋 宏幸 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①咯血の定義と代表的な疾患について説明できる。 ②咯血との判別を要する病態について説明できる。 ③緊急度・重症度が高い咯血の傷病者の状態について説明できる。 ④咯血の傷病者に対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
第11回	<p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 516-518を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 動悸①（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①動悸の定義を説明できる。</p>

	<p>②動悸の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③動悸の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い動悸について説明できる。 ④動悸の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 526-528を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 動悸②（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①動悸の定義を説明できる。 ②動悸の原因となる代表的疾患について説明できる。 ③動悸の随伴症候で重要なものから、緊急度・重症度の高い動悸について説明できる。 ④動悸の傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 526-528を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） めまい①（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①めまいの定義と発症機序を説明できる。 ②めまいの性状や病変部位により分類し、原因疾患を説明できる。 ③発症様式と随伴症候から、緊急度・重症度の高いめまいについて説明できる。 ④めまいを訴える傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 507-510を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） めまい②、筆記試験（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【到達目標】 ①めまいの定義と発症機序を説明できる。 ②めまいの性状や病変部位により分類し、原因疾患を説明できる。 ③発症様式と随伴症候から、緊急度・重症度の高いめまいについて説明できる。 ④めまいを訴える傷病者に対する基本的な処置や病院選定について説明できる。</p> <p>・第1～13回まで学習した範囲の総復習・筆記試験を行い、知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	改訂第10版救急救命士標準テキスト〈全1巻〉（へるす出版）の熟読 毎授業で習得した知識をレポートにまとめる。
教科書	改訂第救急救命士標準テキスト第10版（へるす出版）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・JRC蘇生ガイドライン2015（医学書院） ・PSLSガイドブック2015（へるす出版） ・PCECガイドブック2016（へるす出版） ・PEMECガイドブック2017（へるす出版）
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>●全13回講義のうち、出席率が60%を超えている ●課題レポートを全て提出している 上記2項目を成績評価の条件とする</p> <p>成績評価基準は下記の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験90% ・課題10%
担当教員の基本情報	<p>田中秀治（非）国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hidetana@kokushikan.ac.jp</p> <p>高橋宏幸（非）国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hiro119@kokushikan.ac.jp</p>

	<p>喜熨斗智也（非） 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：maezumi@kokushikan.ac.jp</p> <p>原貴大 研究室：6号館2階 メール：t_hara@meiji-u.ac.jp</p> <p>皆藤竜弥 研究室：6号館2階 メール：t_kaito@meiji-u.ac.jp</p> <p>守岡大吾 研究室：6号館2階 メール：d_morioka@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
田中 秀治、高橋 宏幸、喜熨斗 智也、柳 聖美、守岡 大吾			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	本授業では現場の救急活動に対し、各々の適応・禁忌の根拠を病態生理学的に理解し、現場における鑑別診断を臨床推理を交えながら、これまで得た知識の整理をする。特に傷病者観察の能力向上につなげ、判断・処置の知識を応用する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション・吐血/下血①（担当：田中 秀治 国士舘大学） 【授業目標】 ①吐血・下血、上部消化管出血・下部消化管出血それぞれの定義を説明できる。 ②吐血・下血の主な原因疾患をあげ、消化管出血が生体に及ぼす影響について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い吐血・下血の原因疾患を説明できる。 ④吐血・下血の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.534-536を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）	
	第2回	吐血/下血（担当：田中 秀治 国士舘大学） 【授業目標】 ①吐血・下血、上部消化管出血・下部消化管出血それぞれの定義を説明できる。 ②吐血・下血の主な原因疾患をあげ、消化管出血が生体に及ぼす影響について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い吐血・下血の原因疾患を説明できる。 ④吐血・下血の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.534-536を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）	
	第3回	頭痛①（担当：高橋 宏幸 国士舘大学） 【授業目標】 ①頭痛の発生機序について説明できる。 ②一次性頭痛と二次性頭痛の概念・特徴・主な原因疾患について説明できる。 ③頭痛の発症状況や随伴症候、性状から緊急度・重症度の高い頭痛について説明できる。 ④頭痛の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.492-496を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）	
	第4回	頭痛②（担当：高橋 宏幸 国士舘大学） 【授業目標】 ①頭痛の発生機序について説明できる。 ②一次性頭痛と二次性頭痛の概念・特徴・主な原因疾患について説明できる。 ③頭痛の発症状況や随伴症候、性状から緊急度・重症度の高い頭痛について説明できる。 ④頭痛の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答 【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.492-496を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）	
	第5回	意識障害①（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学） 【授業目標】 ①一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の特徴について説明できる。 ②意識障害の主な原因疾患と特徴的な随伴症候について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 ④意識障害の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。	

第6回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.488-491を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 意識障害②（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①一次性脳病変と二次性脳病変による意識障害の特徴について説明できる。 ②意識障害の主な原因疾患と特徴的な随伴症候について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い意識障害について説明できる。 ④意識障害のの傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p>
第7回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.488-491を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 腰部・背部痛①（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①腰痛・背部痛について説明できる。 ②腰痛・背部痛の主な原因疾患について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い腰痛・背部痛について説明できる。 ④腰痛・背部痛の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p>
第8回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.537-539を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 腰部・背部痛②（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①腰痛・背部痛について説明できる。 ②腰痛・背部痛の主な原因疾患について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い腰痛・背部痛について説明できる。 ④腰痛・背部痛の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p>
第9回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.537-539を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 痙攣①（担当：高橋 宏幸 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①痙攣の定義と脳に及ぼす影響について説明できる。 ②痙攣の原因となる主な原因疾患と特徴的な随伴症候について説明できる。 ③痙攣をきたす疾患で緊急度・重症度の高いものを説明できる。 ④痙攣の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p>
第10回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.497-502を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 痙攣②（担当：高橋 宏幸 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①痙攣の定義と脳に及ぼす影響について説明できる。 ②痙攣の原因となる主な原因疾患と特徴的な随伴症候について説明できる。 ③痙攣をきたす疾患で緊急度・重症度の高いものを説明できる。 ④痙攣の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p>
第11回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.497-502を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 運動麻痺①（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①運動麻痺の定義と発症機序について説明できる。 ②運動麻痺をきたす代表的疾患と特徴的な随伴症候について説明できる。</p>

	<p>③運動麻痺をきたす代表的な緊急度・重症度の高い原因疾患について説明できる。 ④運動麻痺の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 503-506を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 運動麻痺②（担当：喜熨斗 智也 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①運動麻痺の定義と発症機序について説明できる。 ②運動麻痺をきたす代表的疾患と特徴的な随伴症候について説明できる。 ③運動麻痺をきたす代表的な緊急度・重症度の高い原因疾患について説明できる。 ④運動麻痺の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 503-506を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 体温上昇（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①発熱・高体温の機序と生体に与える影響について説明できる。 ②発熱・高体温の原因となる代表的疾患・病態について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い体温上昇をきたす原因疾患について説明できる。 ④体温上昇の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 540-544を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 体温上昇・筆記試験（担当：田中 秀治 国士舘大学）</p> <p>【授業目標】 ①発熱・高体温の機序と生体に与える影響について説明できる。 ②発熱・高体温の原因となる代表的疾患・病態について説明できる。 ③緊急度・重症度の高い体温上昇をきたす原因疾患について説明できる。 ④体温上昇の傷病者の対する基本的な処置や医療機関選定について説明できる。</p> <p>・第1～13回まで学習した範囲の総復習・筆記試験を行い、知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 ・小テストの解説 ・質疑応答</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読 毎授業で習得した知識をレポートにまとめる。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・JRC蘇生ガイドライン2015（医学書院） ・PALSガイドブック2015（へるす出版） ・PCECガイドブック2016（へるす出版） ・PEMECガイドブック2017（へるす出版）
成績評価	<p>●全13回講義のうち、出席率が60%を超えている ●課題レポートを全て提出している 上記2項目を成績評価の条件とする</p> <p>成績評価基準は以下の通りである ・筆記試験90% ・課題10%</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>田中秀治（非）国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hidetana@kokushikan.ac.jp</p> <p>高橋宏幸（非）国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hiro119@kokushikan.ac.jp</p> <p>喜熨斗智也（非）国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：maezumi@kokushikan.ac.jp</p>

	柳聖美 研究室：6号館2階 メール：s_yanagi@meiji-u.ac.jp 守岡大吾 研究室：6号館2階 メール：d_morioka@meiji-u.ac.jp
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

講義科目名称： 救急症候学IV

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
白川 透、長谷川 瑛一			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	本授業では現場の救急活動に対し、各々の適応・禁忌の根拠を病態生理学的に理解し、現場における鑑別診断を臨床推理を交えながらこれまで得た知識の整理をする。 特に傷病者観察の能力向上につなげ、判断・処置の知識整理を補足したい。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・救急症候学総論（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 症候の病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>（予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること（所要時間30分）</p> <p>（復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第2回	<p>救急症候分野の総論（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>（予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること（所要時間30分）</p> <p>（復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第3回	<p>意識障害・頭痛・痙攣①（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意識障害・頭痛・痙攣の病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブ有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>（予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること（所要時間30分）</p> <p>（復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第4回	<p>意識障害・頭痛・痙攣②（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意識障害・頭痛・痙攣の病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>（予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること（所要時間30分）</p> <p>（復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第5回	<p>運動麻痺・めまい・呼吸困難①（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動麻痺・めまい・呼吸困難の病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>（予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること（所要時間30分）</p> <p>（復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第6回	<p>運動麻痺・めまい・呼吸困難②（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動麻痺・めまい・呼吸困難の病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p> <p>（予習）改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること（所要時間30分）</p> <p>（復習）授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第7回	<p>喀血・失神・胸痛①（担当： ）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 喀血・失神・胸痛の病態の理解とその鑑別について習得する <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストの解説・質疑応答 <p>【備考】</p>	

第8回	<p>(予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>喀血・失神・胸痛② (担当:)</p> <p>【到達目標】 ・ 喀血・失神・胸痛の病態の理解とその鑑別について習得する 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
第9回	<p>動悸・腹痛・吐血下血① (担当:)</p> <p>・ 動悸・腹痛・吐血下血の病態の理解とその鑑別について習得する 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
第10回	<p>動悸・腹痛・吐血下血② (担当:)</p> <p>【到達目標】 ・ 動悸・腹痛・吐血下血の病態の理解とその鑑別について習得する 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
第11回	<p>腰痛・背部痛・体温上昇① (担当:)</p> <p>【到達目標】 ・ 腰痛・背部痛・体温上昇の病態の理解とその鑑別について習得する 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
第12回	<p>腰痛・背部痛・体温上昇② (担当:)</p> <p>【到達目標】 ・ 腰痛・背部痛・体温上昇の病態の理解とその鑑別について習得する 改訂第10版 救急救命士標準テキスト 参照</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
第13回	<p>救急症候学総まとめ① (担当:)</p> <p>【到達目標】 ・ 第1～7回の病態の理解とその鑑別について習得する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
第14回	<p>救急症候学総まとめ② (担当:)</p> <p>【到達目標】 第8～13回まで学習した範囲の総復習・筆記試験を行い、知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有り ・ 小テストの解説・質疑応答</p> <p>【備考】 (予習) 改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版) の熟読 毎授業ごとの課題に対してと、毎授業の習得したことをレポートにまとめる。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ JRC蘇生ガイドライン2015 (医学書院) ・ PSLSガイドブック2015 (へるす出版) ・ PCECガイドブック2016 (へるす出版) ・ PEMECガイドブック2017 (へるす出版)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90%</p>

担当教員の基本情報	担当教員：白川 透（非）日本救急システム株式会社 オフィスアワー：授業1時間後 担当教員：長谷川 瑛一（非）日本救急システム株式会社 オフィスアワー：授業1時間後
備考	救急救命士として役場救急での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	疾病救急医学分野から、神経系疾患の病態と症候について理解する。 神経系疾患の傷病者に対する適切な観察、観察した症状・所見から原因疾患の鑑別と必要な処置の判断をできるようにする。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・神経系疾患① 【到達目標】 神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第2講 神経系疾患② 【到達目標】 神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第3講 神経系疾患③ 【到達目標】 神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第4講 神経系疾患④ 【到達目標】 神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第5講 神経系疾患⑤ 【到達目標】 神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第6講 神経系疾患⑥ 【到達目標】 神経系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第7講 まとめ・期末筆記試験 【到達目標】 第1講～第6講の内容についての総復習を行い、期末筆記試験で知識習得の確認を行う。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> 改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること。 授業の学んだ内容についてレポートにまとめること。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版) 必要に応じて、追加の資料を配布します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版) 必要に応じて、追加の資料を配布します。
成績評価	<p>平常点(出席状況・授業態度)10%, 期末試験90%</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1~4は各時限ごと、個別に適応される。 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : 病院1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p>
備考	<p>樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
戸田一男、坪倉浩美、岩本美由紀			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	母性・小児・精神領域での救急に関する基礎知識を学び、救急搬送要請等での必要な対応ができる。各領域での救急搬送される疾患についての知識を深める。 講義はオムニバスで行う		
授業計画	第1回目	妊娠期の身体的特性 担当教員：坪倉浩美 授業目標 胎児の発育とその生理が理解できる 母体の生理的变化が理解できる 授業形態 講義形式 コミュニケーションカードを使用	
	第2回目	分娩の経過 担当教員：坪倉浩美 授業目標 分娩の進行と産婦の身体的変化が理解できる 分娩が胎児に及ぼす影響が理解できる 授業形態 講義形式 DVD視聴 コミュニケーションカードを使用	
	第3回目	分娩介助方法 担当教員：坪倉浩美 授業目標 分娩介助方法が理解できる 授業形態 講義形式 DVD視聴 デモンストレーション コミュニケーションカードを使用	
	第4回目	産褥経過と新生児の生理 担当教員：坪倉浩美 授業目標 産褥期の身体的変化が理解できる 新生児の生理が理解できる 授業形態 講義形式 コミュニケーションカードを使用	
	第5回目	出産直後の新生児ケア 担当教員：坪倉浩美 授業目標 出生直後に必要な新生児のケアが理解できる 授業形態 講義形式 DVD視聴 コミュニケーションカードを使用	
	第6回目	小児疾患の特徴と救急搬送要請の特徴 担当教員：岩本美由紀 事業目標 小児救急要請の中の重症例を見逃さないための観察ができる 授業形態 講義形式	
	第7回目	子どものバイタルサインの評価 担当教員：岩本美由紀 授業目標 発達段階に応じたバイタルサインの測定方法と評価ができる 授業形態 講義形式+グループワーク	
	第8回目	子どもの死因と事故の特徴 担当教員：岩本美由紀 授業目標 発達段階別の事故の特徴を述べるができる 熱傷・溺水・誤嚥・誤飲・中毒などの応急処置の方法を知っている 授業形態 講義+グループワーク	
	第9回目	救急車で運ばれる子どもの症状と病気 担当教員：岩本美由紀 授業目標 意識消失・痙攣・呼吸停止・怪我・出血・ショックの症状とヒストリーから原因となる病気を想定できる 授業形態 グループワーク	
	第10回目	精神保健の考え方（戸田） 授業目標 精神の健康と障害の3つの側面、精神の健康の基準が理解できる 授業形態 講義、グループワーク、コミュニケーションカードを使用	
	第11回目	精神障害の捉え方が理解できる（戸田） 授業目標 精神障がい者とは、精神保健福祉法による精神障がい者の定義が理解できる 授業形態 講義、グループワーク、コミュニケーションカードを使用	

	<p>第12回目 救急搬送で出会う精神障がい者の疾患と治療（戸田） 授業目標 主な精神疾患の症状と治療について理解することができる。 授業形態 講義、DVD視聴、グループワーク、コミュニケーションカードを使用</p> <p>第13回目 精神障がい者の救急搬送の実際（戸田） 授業目標 精神障がい者の救急搬送の実際を知ることができる。 授業形態 講義、グループワーク、コミュニケーションカードを使用</p> <p>第14回目 まとめと評価(試験60点) + 授業参加度 まとめ：前半 全体討議</p> <p>筆記試験：50分(60点)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義予定の内容を確認して関連部分の学習を30分程度予習して授業に臨むこと。 講義後は、授業内容の復習をして内容を理解する(60分程度)。
教科書	指定しないが、救急の教科書を持参
参考書	適宜紹介
成績評価	<p>試験</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : オフィスアワー : 随時 (事前に連絡をください)</p> <p>岩本美由紀 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : オフィスアワー : 随時 (事前に連絡をください)</p> <p>戸田一男 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前に連絡をください)</p>
備考	<p>臨床での実務経験をもとに「疾病救急医学V」について授業を進める。</p> <p>坪倉浩美 : 総合病院に助産師として勤務 岩本美由紀 : 総合病院に看護師として勤務 戸田一男 : 精神医療センターに看護師として勤務</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

講義科目名称： 外傷救急医学 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
田中 秀治、高橋 宏幸、喜熨斗 智也			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を各外傷部位ごとに解説し、系統的な理解をはかる。 防ぎえた外傷死を減らすための観察・処置・判断について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・外傷総論</p> <p>【到達目標】</p> <p>①死亡統計における外傷死亡の位置づけ、受傷者の年齢分布について説明できる。 ②外傷による死亡時期を3つに分け、それぞれについて説明できる。 ③「防ぎ得た外傷死」「ロードアンドゴー」「トラウマバイパス」について説明できる。 ④高リスク受傷機転の概念と具体例について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 688-701を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第2回 外傷の病態生理</p> <p>【到達目標】</p> <p>①外傷に伴う生体の反応について説明できる。 ②「外傷死の三徴」について説明できる。 ③外傷に伴うショックの成因について説明できる。 ④外傷傷病者に対する輸液の基本的な考え方について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 702-707を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第3回 外傷の現場活動</p> <p>【到達目標】</p> <p>①状況評価および初期評価の目的・評価項目・行うべき処置について説明できる。 ②全身観察の目的・評価項目・行うべき処置について説明できる。 ③ロードアンドゴー適応の判断について説明できる。 ④傷病者の緊急度・重症度に応じて適切な搬送手段と搬送先医療機関を選定できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 708-714を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第4回 病院内における外傷傷病者への対応、外傷総論・病態生理・外傷の現場活動まとめ・確認テスト</p> <p>【到達目標】</p> <p>①病院内における外傷傷病者への対応について説明できる。 ②第1～3回までに学習した範囲の知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 688-714を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p> <p>第5回 頭部外傷</p> <p>【到達目標】</p> <p>①頭部外傷に特徴的な外力の作用機序と一次性脳損傷と二次性脳損傷について説明できる。 ②頭部外傷の続発症・後遺症について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p>

第6回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.715-721を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 顔面・頸部外傷</p> <p>【到達目標】 ①顔面・頸部外傷における出血と気道閉塞の原因について説明できる。 ②主な顔面骨骨折、眼、鼻、耳、口唇・口腔・歯牙、頸部の損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p>
第7回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.722-726を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 脊椎・脊髄外傷</p> <p>【到達目標】 ①主な受傷機転と損傷形態について説明できる。 ②脊髄損傷と脊椎損傷の特徴について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p>
第8回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.727-732を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 胸部外傷</p> <p>【到達目標】 ①胸部外傷と呼吸・循環不全の関連について説明できる。 ②心臓・大血管の主な損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p>
第9回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.733-738を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 腹部外傷</p> <p>【到達目標】 ①腹部外傷の出血と消化管損傷の病態について説明できる。 ②実質臓器損傷・管腔臓器損傷・血管損傷・後腹膜臓器損傷・腹壁損傷について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p>
第10回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.739-742を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 骨盤外傷</p> <p>【到達目標】 ①受傷機転と骨盤骨折の形態について説明できる。 ②骨盤骨折に伴う臓器損傷、それに伴う病態について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p>
第11回	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.743-746を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 四肢外傷①</p> <p>【到達目標】 ①骨折の主な合併症と脱臼、筋肉・腱損傷、捻挫、血管・神経損傷の病態について説明できる。 ②各種損傷（切断、コンパートメント症候群、クラッシュ症候群など）について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。</p>

	<p>④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.747-754を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 四肢外傷②</p> <p>【到達目標】 ①骨折の主な合併症と脱臼、筋肉・腱損傷、捻挫、血管・神経損傷の病態について説明できる。 ②各種損傷（切断、コンパートメント症候群、クラッシュ症候群など）について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.747-754を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 小児・高齢者・妊婦の外傷①</p> <p>【到達目標】 ①小児・高齢者・妊婦の生理学的・解剖学的特徴を外傷の観点から説明できる。 ②小児・高齢者・妊婦に特徴的な外傷をあげ、それぞれについて説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.755-759を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 小児・高齢者・妊婦の外傷②、筆記試験</p> <p>【到達目標】 ①小児・高齢者・妊婦の生理学的・解剖学的特徴を外傷の観点から説明できる。 ②小児・高齢者・妊婦に特徴的な外傷をあげ、それぞれについて説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④緊急度・重症度の評価について説明できる。 ⑤第1～13回まで学習した範囲の総復習・筆記試験を行い、知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.688-759を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読 毎授業の課題と学習した内容をレポートにまとめる。
教科書	・改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版） ・改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
参考書	・救急救命士国家試験直前ドリル第2版（文光堂） ・病院前外傷患者への観察・処置法（医学映像教育センター） ・救急救命士国試対策必修ポイントテキスト第2版（荘道社）
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>●全13回講義のうち、出席率が60%を超えている ●課題レポートを全て提出している 上記2項目を成績評価の条件とする</p> <p>成績評価基準は下記の通りである ・筆記試験90% ・課題10%</p>
担当教員の基本情報	<p>田中秀治（非） 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hidetana@kokushikan.ac.jp</p> <p>高橋宏幸（非） 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hiro119@kokushikan.ac.jp</p>

	喜熨斗智也（非）国士館大学体育学部スポーツ医科学科 メール：maezumi@kokushikan.ac.jp
備考	
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

講義科目名称： 環境障害と中毒

授業コード：

英文科目名称： カキョウシヨウカ イチュウトク

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
後藤 奏			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	環境障害と中毒について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を解説し系統的な理解をはかる。環境障害や中毒の傷病者に対する観察・処置判断・について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような知識を身につける。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・中毒総論</p> <p>【到達目標】 中毒の病態について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
	第2回	<p>中毒各論</p> <p>【到達目標】 中毒分類、病態について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
	第3回	<p>異物</p> <p>【到達目標】 異物障害について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
	第4回	<p>溺水</p> <p>【到達目標】 溺水の病態について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
	第5回	<p>熱中症</p> <p>【到達目標】 熱中症の病態について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
	第6回	<p>偶発性低体温・放射線障害</p> <p>【到達目標】 偶発性低体温と放射線障害の病態について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
	第7回	<p>その他の環境障害・筆記試験</p> <p>【到達目標】 環境障害の疫学・分類・病態について理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習) 救急救命士標準テキスト第10版の該当範囲を熟読すること (所要時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p>	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）の熟読 毎授業ごとの課題に対して、毎授業の習得したことをレポートにまとめる。		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版） ・救急処置スキルブック（荘道社） ・病院前救護ガイドラインJPTEC（へるす出版）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士国家試験直前ドリル第2版（文光堂） ・病院前外傷患者への観察・処置法（医学映像教育センター） ・救急救命士国試対策必修ポイントテキスト第2版（荘道社）
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当者：後藤 奏（非）日本救急システム株式会社 オフィスアワー：講義1時間後</p>
備考	<p>救急救命士として役場救急での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
上久保 敦、皆藤 竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（ブレンディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士の資格取得及び資格取得後に救急業務を適切に遂行するための基本的知識を修得することを目的として、わが国の救急医療体制の整備状況、災害医療体制、救急活動の流れ、救急事故種別に応じた対応要領、救急活動の現況、迅速な傷病者搬送と受け入れ体制に係わる関係法令、救急医療情報システム等について体系的に講義を行う。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・救急救命士が病院前救護で果たすべき役割</p> <p>[到達目標] 救急救命士が病院前救護で果たすべき役割の概要について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては病院前救護において果たすべき役割についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第2回	<p>医療関係職種としての責任</p> <p>[到達目標] 医療関係職種としての責任を列挙しそれぞれについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては医療関係職種としての責任についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第3回	<p>接遇と高齢者・小児とのコミュニケーション方法</p> <p>[到達目標] 接遇とコミュニケーションの種類について説明できる。 対象に応じたコミュニケーション(高齢者・小児)について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としてはコミュニケーションの種類についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第4回	<p>インフォームドコンセントと家族・医師とのコミュニケーション</p> <p>[到達目標] 対象に応じたコミュニケーション（家族・医師）について説明できる。 救急活動でのインフォームドコンセントについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としてはインフォームドコンセントについてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第5回	<p>救急救命士の業務に関連する法令</p> <p>[到達目標] 法令の基本について説明できる。 救急救命士の業務に関連する法令を列挙し、それぞれの概要を説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては政令・省令・条例・規則についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>	
	第6回	<p>救急救命士法</p> <p>[到達目標] 救急救命士法・消防法について、それぞれの概要を説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分）</p>	

第7回	<p>分) 復習としては救急救命士法についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 救急救命士の養成課程と生涯教育</p> <p>[到達目標] 救急救命士の養成課程の種類を列挙しそれぞれの要点を説明できる。 救急救命士の生涯目的と手段について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p>
第8回	<p>復習としては救急救命士養成課程についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 救急救命士が行う病院実習</p> <p>[到達目標] 救急救命士が行う病院実習について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p>
第9回	<p>復習としては救急救命士が行う病院実習についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 リスクマネジメント</p> <p>[到達目標] 安全管理と事故対応について列挙しそれぞれの要点を説明できる。 リスクマネジメントについて説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p>
第10回	<p>復習としてはインシデント・アクシデントの違いとハインリッヒの法則についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 医療事故と医療過誤</p> <p>[到達目標] 救急救命士等の事故について説明できる。 医療事故と医療過誤について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p>
第11回	<p>復習としては医療事故と医療過誤についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 救急活動での感染防御</p> <p>[到達目標] 感染予防策と感染防御について説明できる。 救急活動での感染防御について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p>
第12回	<p>復習としては標準予防策についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 感染事故と事故後の対応</p> <p>[到達目標] 清潔・不潔の区分ができる。 洗浄と消毒について説明できる。 感染事故と事故後の対応について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p>
第13回	<p>復習としては滅菌・消毒の違いについてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。 ストレスに対するマネジメント</p> <p>[到達目標] 救急活動でのストレスについて説明できる。 救急活動でのストレスへの反応について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有:提出レポートに対するコメント</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分）</p> <p>復習としては急性ストレス障害・心的外傷後ストレス障害についてレポートで提出（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>

	<p>第14回 総まとめ・筆記試験</p> <p>[到達目標] 救急医学各論（第1講～第13講）の要点をまとめ説明できる</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>[授業時間外の学修] 予習は救急救命士標準テキスト10版該当ページを読み疑問事項をメモしてくる（所要時間30分） 講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、レポートを提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに指定された第10版救急救命士標準テキストを読み、自習すること。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	救急隊員標準テキスト（へるす出版） J P T E Cガイドブック（へるす出版）
成績評価	レポート全て提出していることが定期試験受験の要件。 評価割合（筆記試験70%、レポート30%）
担当教員の基本情報	<p>教員名：上久保敦 研究室：6号館2階研究室</p> <p>教員名：皆藤竜弥 研究室：6号館2階助教研究室 e-mail：t_kaito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	
	【この授業とディプロマポリシーとの関連】◎-1,○-2,○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
木村隆彦、大谷浩史、中尾誠宏、守岡大吾			
救急救命学科	30時間	講義/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士として傷病者の観察・処置などの基本を理解し、刻々と変化する病態に対し、解剖学的、生理学的に重症度・緊急度の判断が確実にできることを本授業の目的とする。		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション 資器材による観察 SpO2/カブノメーター/聴診器/血圧計</p> <p>[到達目標] 救急活動で使用する観察資器材を、呼吸系と循環系、その他に分類して列挙できる。 パルスオキシメータによる観察の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 カブノメータによる観察の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 聴診器による観察の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 血圧計による観察の適応、種類・原理、方法、評価、注意点について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説とフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 332～337を読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う資器材による観察（パルスオキシメータ、カブノメータ、血圧）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>	
	第2講	<p>救急救命士が行う処置（処置目的、気道確保、気道異物、口腔内吸引）</p> <p>[到達目標] 手動的気道確保法の種類を列挙し、それぞれの適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 経口（口咽頭）エアウェイおよび経鼻（鼻咽頭）エアウェイを用いた気道確保の適応、禁忌、器具の種類と構造、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 手動的気道異物除去法を列挙し、それぞれの適応、禁忌、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 器具による気道異物除去法の適応、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 口腔内吸引の目的、適応、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 344～351を読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（処置目的、気道確保、気道異物、口腔内吸引）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>	
	第3講	<p>救急救命士が行う処置（声門上気道デバイス、気管挿管）</p> <p>[到達目標] 声門上気道デバイスを用いた気道確保の目的およびそれぞれの種類の構造、適応、方法と手順、評価、注意点、合併症について説明できる。 気管挿管の目的およびマッキントッシュ型喉頭鏡を用いた気管挿管の長所、短所、適応、禁忌、方法と手順、評価、合併症、注意点および気管挿管困難症例への対応について説明できる。 ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管の長所、短所、適応、禁忌、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 351～371を読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（声門上気道デバイス、気管挿管）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>	
	第4講	<p>救急救命士が行う処置（気管吸引、酸素投与、人工呼吸）</p> <p>[到達目標] 気管吸引の目的、適応、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 酸素投与の目的、適応、合併症、注意点、評価について説明できる。 酸素を供給する資器材の構造や注意点について説明できる。 酸素投与方法の種類をあげ、それぞれに用いる器具の原理・構造、方法と手順、評価、長所・短所、期待される酸素濃度について説明できる。 ③人工呼吸の目的、適応、各種人工呼吸法の方法と手順、評価、注意点・合併症について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 351～371を読み疑問事項をメモしておくこと（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（気管吸引、酸素投与、人工呼吸）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>	
	第5講	<p>救急蘇生法（成人・小児・乳児の救急蘇生法）</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>救急蘇生法の概念について説明できる。 成人に対する一次救命処置について説明できる。 成人に対する二次救命処置と心停止アルゴリズムについて説明できる。 二次救命処置としての薬剤投与、器具を用いた気道確保、波形ごとの対応について説明できる。 小児の心停止とそれに対する救急蘇生法について説明できる。 小児に対する一次救命処置について説明できる。 小児に対する二次救命処置について説明できる。 医療機関での救命処置について説明できる。 医療機関での心拍再開後の治療について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 419～428を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う救急蘇生法（救急蘇生法の概要、救急蘇生法の実際）についてレポートで提出（所要時間30分） 資器材による観察（心電図） [到達目標] 心電図モニターによる観察の適応、原理・種類、方法、評価、注意点について説明できる。 12誘導心電図について簡単に説明できる。 心電図伝送について簡単に説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 337～340を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士の行う資器材による観察（心電図、十二誘導心電図）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>
第6講	<p>救急救命士が行う処置（胸骨圧迫、自動式心マッサージ器、電気ショック） [到達目標] 胸骨圧迫の目的、適応、方法と手順、合併症、注意点、評価について説明できる。 自動式心マッサージ器による胸骨圧迫の適応、合併症、注意点およびそれぞれの種類と特徴について説明できる。 半自動式除細動器および狭義のAEDを用いた電気ショックの目的、適応、器具の構造、方法と手順、評価、合併症、注意 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 372～378を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（胸骨圧迫、自動式心マッサージ器、電気ショック）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>
第7講	<p>救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液、アドレナリン投与） [到達目標] 静脈路確保と輸液の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 心臓機能停止傷病者に対するアドレナリン投与の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 アナフィラキシー傷病者に対する自己注射用アドレナリン投与の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 383～391を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（静脈路確保と輸液、アドレナリン投与、ブドウ糖投与）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>
第8講	<p>資器材による観察（血糖測定器）、救急救命士が行う処置（ブドウ糖投与） [到達目標] 血糖測定器による血糖測定の適応、構造・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 ブドウ糖溶液投与の目的、適応、プロトコール、使用する資器材、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 341～343, 391～394を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては資器材による観察（血糖測定器）および救急救命士が行う処置（ブドウ糖投与）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>
第9講	<p>資器材による観察（体温計）救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理、止血） [到達目標] 体温計による観察の適応、種類・原理、方法、評価、注意点について説明できる。 体位管理の目的およびそれぞれ体位の特徴、適応、手順、評価、注意点について説明できる。 体温管理（保温と冷却）の目的、適応、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 止血の目的および各種止血法の適応、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 340, 341, 394～402を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては資器材による観察（体温計）および救急救命士が行う処置（体位管理、体温管理、止血）についてレポートで提出（所要時間30分）</p>
第10講	<p>救急救命士が行う処置（創傷処置、固定） [到達目標] 創傷処置の目的および各種創傷処置の適応、方法と手順、評価、合併症について説明できる。 固定の目的および各種固定の適応、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態]</p>
第11講	<p>救急救命士が行う処置（創傷処置、固定） [到達目標] 創傷処置の目的および各種創傷処置の適応、方法と手順、評価、合併症について説明できる。 固定の目的および各種固定の適応、方法と手順、評価、合併症、注意点について説明できる。 [授業形態]</p>

	<p>アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 402～414を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（創傷処置、固定）についてレポートで提出（所要時間30分）</p> <p>第12講 救急救命士が行う処置（産婦人科領域の処置） [到達目標] 分娩介助の目的、適応、使用する資器材、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 子宮輪状マッサージの目的、適応、方法と手順、評価、注意点について説明できる。 分娩直後の新生児への対応、評価法、注意点および新生児仮死に対する処置について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 415～418を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う処置（産婦人科領域の処置）についてレポートで提出（所要時間30分）</p> <p>第13講 在宅治療法継続中の傷病者の処置、傷病者搬送 [到達目標] 在宅療法の概念について説明できる。 以下の在宅療法の概要と発生し得る問題点、および観察時の注意点と対処法について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸療法と気管切開 ・在宅中心静脈栄養療法 ・成分栄養経管栄養法 ・在宅自己導尿療法・持続導尿 ・人工肛門 ・在宅注射療法（インスリン、麻薬） ・在宅人工透析療法（血液透析、腹膜透析） <p>傷病者搬送の原則と注意点について説明できる。 傷病者搬送におけるボディメカニクスについて説明できる。 体位変換の方法について説明できる。 徒手搬送の種類をあげ、それぞれの適応と方法について説明できる。 器具を用いた搬送の種類をあげ、それぞれの適応と方法について説明できる。 救急自動車への搬入と搬出の手順について説明できる。 ヘリコプターへの搬入と搬出時の手順、注意点について説明できる。 事故車両からの救出方法の種類をあげ、それぞれの適応、手順、注意点について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（小テストの解説・レポートのフィードバック） [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 430～451を読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う在宅治療法継続中の傷病者の処置と傷病者搬送についてレポートで提出（所要時間30分）</p> <p>第14講 まとめ・筆記試験 [到達目標] 第1講から第14講にかけて行った救急活動で救急救命士が行う処置、在宅療法継続中の処置、傷病者搬送等について目的ごとに分類し説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブ・ラーニング有（レポートのフィードバック） 使用目的、適応、原理、構造、使用方法、注意点、評価についてそれぞれ説明できる。 [授業時間外における学修] 予習は救急救命士テキスト10版 p 332～451読み疑問事項をメモしてこること（所要時間30分） 復習としては救急救命士が行う観察の目的と意義についてレポートで提出（所要時間30分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに指定された第10版救急救命士標準テキストを読み、自習すること。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急隊員標準テキスト（へるす出版） 改定第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
参考書	JRC蘇生ガイドライン2020
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点20%（レポートの課題評価） 小テスト20% 定期筆記試験60%</p> <p>※すべての提出物を提出していることを成績評価の前提とする。</p>
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村隆彦 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後1時間

	<p>担当教員名 : 大谷浩史 (非) 日本救急システム株式会社 研究室 : 6号館2階講師室 オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 中尾誠宏 (非) 日本救急システム株式会社 研究室 : 6号館2階講師室 オフィスアワー : 講義後1時間</p> <p>担当教員名 : 守岡大吾 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義後1時間</p>
備考	<p>木村隆彦：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 大谷浩史：救急救命士として役場救急での臨床経験に基づき授業を行う。 中尾誠宏：救急救命士として役場救急での臨床経験に基づき授業を行う。 守岡大吾：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。</p>
	<p>ディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2, ○-5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	4	必修
担当教員			
坪倉 寛明、上久保 敦、原 貴大、皆藤 竜弥、守岡 大吾			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：実習（ブレنديット）	随時ディスカッションを行う。
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命士の資格取得を目標とし、基本的な解剖学に基づいた救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解し、救急救命処置要領を習得し、即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。 救急隊員標準課程の知識・技術の習得及び規律、礼儀が社会人として認められる教育を習いとする。 将来、救急救命士国家資格取得を見据えた知識・技術の習得と規律・礼儀を重んじた団体行動を養う救急救命士の育成を目標とする。
授業計画	<p>第1~3講 【座学】前期オリエンテーション、PEMEC活動について 【実技】デモンストレーション・観察手技の確認 【到達目標】 ・「内因性ロード&ゴー」の概念について理解をする。 ・「ハイリスク症候」の概念と症候について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第4~6講 【座学】腹痛・嘔吐・下痢の鑑別 【実技】内因性疾患「腹痛・嘔吐・下痢①」 【到達目標】 ・腹痛、嘔吐、下痢を呈する疾患について理解をする。 ・症状（腹痛、嘔吐、下痢）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第7~9講 【座学】鑑別診断、臨床推論について 【実技】内因性疾患「腹痛・嘔吐・下痢②」 【到達目標】 ・腹痛、嘔吐、下痢を呈する疾患について理解をする。 ・症状（腹痛、嘔吐、下痢）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第10~12講 【座学】呼吸困難の鑑別 【実技】内因性疾患「呼吸困難①」 【到達目標】 ・呼吸困難を呈する疾患について理解をする。 ・症状（呼吸困難）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第13~15講 【座学】50問試験① 【実技】内因性疾患「呼吸困難②」 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・呼吸困難を呈する疾患について理解をする。 ・症状（呼吸困難）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分）</p> <p>第16~18講 【座学】胸痛・動悸の鑑別① 【実技】内因性疾患「胸痛・動悸①」 【到達目標】 ・胸痛、動悸を呈する疾患について理解をする。 ・症状（胸痛、動悸）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】</p>

第19～21講	<p>《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。(所要時間100分) 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。(所要時間100分) 【座学】心電図判読と12誘導心電図について 【実技】内因性疾患「胸痛・動悸②」 【到達目標】 ・胸痛、動悸を呈する疾患について理解をする。 ・症状(胸痛、動悸)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。(所要時間100分) 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。(所要時間100分)</p>
第22～24講	<p>【座学】50問試験② 【実技】実技中間試験 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。(所要時間100分) 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。(所要時間100分)</p>
第25～27講	<p>【座学】胸痛・動悸の鑑別② 【実技】内因性疾患「胸痛・動悸③」 【到達目標】 ・胸痛、動悸を呈する疾患について理解をする。 ・症状(胸痛、動悸)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。(所要時間100分) 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。(所要時間100分)</p>
第28～30講	<p>【座学】腰背部痛・血尿の鑑別 【実技】内因性疾患「腰背部痛・血尿」 【到達目標】 ・腰背部痛、血尿を呈する疾患について理解をする。 ・症状(腰背部痛、血尿)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。(所要時間100分) 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。(所要時間100分)</p>
第31～33講	<p>【座学】50問試験③ 【実技】総合想定訓練「復習」 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。(所要時間100分) 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。(所要時間100分)</p>
第34～36講	<p>【座学】脳卒中の鑑別・PSLSの活動について 【実技】内因性疾患「頭痛・めまい・しびれ」 【到達目標】 ・PSLSの活動について理解する。 ・頭痛、めまい、しびれを呈する疾患について理解をする。 ・症状(頭痛、めまい、しびれ)から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。(所要時間100分) 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。(所要時間100分)</p>
第37～39講	<p>【座学】前期の復習 【実技】前期実技試験 救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。(所要時間100分) 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。(所要時間100分)</p>
第40～42講	<p>【座学】前期筆記試験 【実技】総合想定訓練「前期総復習」 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り(隊活動のフィードバック) 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。(所要時間100分) 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。(所要時間100分)</p>
第43～45講	<p>【座学】後期オリエンテーション、50問試験④ 【実技】総合想定訓練「前期総復習」 【到達目標】</p>

第46～48講	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。（所要時間100分） 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。（所要時間100分） 【座学】ショックの鑑別 【実技】内因性疾患「ショック」 【到達目標】 ・ショックを呈する疾患について理解をする。 ・症状（ショック）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。
第49～51講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】意識障害の鑑別①・PCECの活動について 【実技】内因性疾患「意識障害①」 【到達目標】 ・PCECの活動について理解する。 ・意識障害を呈する疾患について理解をする。 ・症状（意識障害）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。
第52～54講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】50問試験⑤ 【実技】中間実技試験 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。
第55～57講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。（所要時間100分） 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。（所要時間100分） 【座学】糖尿病・血糖測定・ブドウ糖投与 【実技】内因性疾患「低血糖」 【到達目標】 ・血糖測定、ブドウ糖投与の手技について理解する。 ・低血糖を呈する疾患について理解をする。 ・症状（低血糖）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。
第58～60講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】意識障害の鑑別② 【実技】内因性疾患「意識障害②」 【到達目標】 ・意識障害を呈する疾患について理解をする。 ・症状（意識障害）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。
第61～63講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】50問試験⑤ 【実技】内因性疾患「意識障害③」 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・意識障害を呈する疾患について理解をする。 ・症状（意識障害）から重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。
第64～66講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】小児・高齢者に特徴的な疾患 【実技】総合想定訓練 【到達目標】 ・小児、高齢者に特徴的な疾患について理解をする。 ・重症度・緊急度の高い「ハイリスク症候」が判断ができる。
第67～69講	<ul style="list-style-type: none"> 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】在宅医療で特徴的な疾患 【実技】総合想定訓練 【到達目標】

	<p>・在宅医療で特徴的な疾患について理解をする。 ・重症度・緊急度の高い症候が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】中毒・環境障害 【実技】外因性疾患「中毒・環境障害」 【到達目標】 ・各原因物質による中毒の病態と症状について理解をする。 ・環境障害による疾患の病態と症状について理解する。 ・重症度・緊急度の高い症候が判断ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】50問試験⑥ 【実技】期末実技試験 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。（所要時間100分） 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。（所要時間100分） 【座学】ACLS・ICLS 【実技】ICLS 【到達目標】 ・ACLS、ICLSの概念について理解する。 ・ICLSに準拠した活動を理解して実践できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（小テストの解説、質疑応答、隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》改訂第10版救急救命士標準テキスト及びPEMECガイドブックの該当ページを熟読する。（所要時間100分） 《復習》授業で学習した内容をレポートにまとめること。（所要時間100分） 【座学】総復習 【実技】総合想定訓練 【到達目標】 ・救急処置実習A-3で学習した内容を振り返る。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。（所要時間100分） 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。（所要時間100分） 【座学】後期筆記試験 【実技】総合想定訓練 【到達目標】 ・救急救命士国家試験の一般問題相当の問題を80%以上正答できる。 ・救急隊活動として観察・処置・判断が、確実かつ迅速に実施できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有り（隊活動のフィードバック） 【備考】 《予習》学習した内容の復習と、隊活動要領の確認および訓練を行う。（所要時間100分） 《復習》出題された内容の復習と、手技等の向上に努める。（所要時間100分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各授業日までに救急救命士標準テキスト第10版及び参考書を読み、自習すること。 毎授業ごとに課題提示するのでそれについてレポートにまとめること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版補訂版JPTECガイドブック 特定行為ハンドブック PEMECガイドブック2017
参考書	JRC蘇生ガイドライン2015 救急隊員標準テキスト 救急処置スキルブック（上巻・下巻）
成績評価	<p>※全ての定期実技試験に合格していること・提出物を全て提出していることを評価の前提とする。 レポート課題20% 定期筆記試験80%</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。</p>
担当教員の基本情報	教員名：坪倉 寛明 研究室：6号館2階研究室 e-mail：h_tsubokura@meiji-u.ac.jp

	<p>オフィスアワー : 実習時に指示する</p> <p>教員名 : 上久保 敦 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 実習時に指示する</p> <p>教員名 : 皆藤 竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 e-mail : t_kaito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習時に指示する</p> <p>教員名 : 守岡 大吾 研究室 : 6号館2階研究室 e-mail : d_morioka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習時に指示する</p> <p>教員名 : 金子 優輝 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 実習時に指示する</p>
備考	<p>【坪倉寛明】 消防署での実務経験をもとに指導にあたる。 救急救命士(21年)、JPTEC・ICLS・MCLSのインストラクター資格所持。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	4	必修
担当教員			
樋口 敏宏、坪倉 寛明、高橋 司			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士として必要な傷病者の救命・病状悪化防止に係る処置の実習を効果的に行うために、救命救急センター臨床現場で実際の傷病者に対して、資格取得前研修を実施する。		
授業計画	第1回	病院実習に対する心構え 病院実習に関するマナー 【到達目標】 実習前の目標とやるべき事について整理をして実習に臨むこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第2回	病院の機能（組織・各部門の業務）について 【到達目標】 病院の機能（組織・各部門の業務）について実際に学んだことを復習して理解しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第3回	医師・看護師、その他医療スタッフの仕事と役割について 【到達目標】 医師・看護師、その他医療スタッフの仕事と役割について実際に学んだことを復習して理解しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第4回	病院における救急患者への接遇要領について 【到達目標】 病院における救急患者への接遇要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第5回	救急患者・家族に対するケアとインフォームドコンセントの重要性について実習 【到達目標】 救急患者・家族に対するケアとインフォームドコンセントの重要性について経験したことを復習して理解しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第6回	救急患者に対する観察要領の実習 【到達目標】 救急患者に対する観察要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第7回	救急患者に対する観察要領の実習 【到達目標】 救急患者に対する観察要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。 【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う) 【備考】 予習：実習内容について事前自主学習を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。	
	第8回	救急患者に対する観察要領の実習	

	<p>【到達目標】 救急患者に対する観察要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>救急患者に対する観察要領の実習</p>
第9回	
	<p>【到達目標】 救急患者に対する観察要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>救急患者に対する処置要領の実習（静脈路確保・薬剤投与含む）</p>
第10回	
	<p>【到達目標】 救急患者に対する処置要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>救急患者に対する処置要領の実習（静脈路確保・薬剤投与含む）</p>
第11回	
	<p>【到達目標】 救急患者に対する処置要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>救急患者に対する処置要領の実習（静脈路確保・薬剤投与含む）</p>
第12回	
	<p>【到達目標】 救急患者に対する処置要領について経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>救急患者に対する処置要領の実習（静脈路確保・薬剤投与含む）</p>
第13回	
	<p>【到達目標】 入院患者に対するナースングケアについて経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>入院患者に対するナースングケアについて実習</p>
第14回	
	<p>【到達目標】 入院患者に対するナースングケアについて経験したことを理解し、実践出来るように復習しておくこと。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(実習内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：実習内容について事前自主学习を行う。 復習：実習で学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>入院患者に対するナースングケアについて実習</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	救急救命士標準テキスト第10班 へるす出版の熟読 病院内実習手帳の熟読
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 へるす出版
参考書	救急隊員標準テキスト (へるす出版) J P T E Cガイドブック (へるす出版)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>病院内実習指導医による評価 (70%) 症例レポート (30%)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 坪倉 寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間</p>

	メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階 研究室 オフィスアワー : 講義終了後1時間 メールアドレス : t_takahashi@meiji-u.ac.jp
備考	坪倉寛明：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 高橋 司：消防署及び救命士養成専門学校教員としての経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
坪倉 寛明、木村 隆彦、高橋 司			
配当学科：救急救命学科	時間数：90時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>救急車同乗実習は、同乗実習による救急活動の見学及び処置の補助をとおり、次の事項を学習することを目的とする。</p> <p>1) 修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身に着ける。 2) メディカルコントロールの重要性を認識する。 3) 傷病者に対する適切な態度を習得する。 4) 救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。</p>		
授業計画	3コマ	オリエンテーション・事前講義 「目標」実習にあたっての心得、マナー、学習内容を確実に修得する。 予習：事前に配布した「救急用自動車同乗実習手引」を熟読する。平成30年消防年報を読む。 (90分) (授業形態) アクティブラーニングなし。	
	3コマ	実習先消防署の概要説明 「目標」実習に不可欠な実習先の消防署の概要を説明できる。 予習：インターネット等を活用し、実習先の消防本部の消防年報等で消防本部の概要を調べる (90分) 復習：調べた内容を再度まとめる。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。各自自習先の消防署の概要を調べる。	
	1日	学内救急車同乗実習 「目標」実際の救急車内での、感染防止、処置、安全管理が適切に実施できる。 予習：これまでのA1、A2及びA3実習の内容を提出したレポート等で確認する。(90分) 復習：教員に指導を受けた事項について整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。救急車に同乗する。	
	2日	消防署救急車同乗実習 「目標」指令から出場までの対応を初め、緊急走行、現場到着時の安全管理、救急現場での隊員の活動、傷病者、家族関係者との接遇、消防無線の運用、医療機関の選定、医師引継ぎ要領等、実体験をとおり理解する。 予習：新改訂救急処置スキルブック p 176～187・316～322を熟読する。(90分) 復習：救急出場記録等を作成し、疑問点を整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。救急車に同乗する。	
	1日	消防指令センター実習 「目標」119番通報の受信要領・口頭指導・他隊との連携等、消防指令センターの役割を理解する。 予習：新改訂救急搬送概論 p 37～42及び改訂9版救急救命士標準テキスト p 323～327を熟読する。 (90分) 復習：疑問点等を整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。終了後、レポートに感想をまとめる。	
	1日	ドクターヘリ実習 「目標」消防機関からの出動要請から病院到着まで、救急隊との連携の重要性及びドクターヘリシステムを理解する。 予習：改訂9版救急救命士標準テキスト p 286～288を読む。インターネット等を活用し救急隊との連携内容を調べる。(90分) 復習：疑問点等を整理する。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。終了後、レポートに感想をまとめる。	
	3コマ	実習内容発表（各自発表） 「目標」消防署、指令センター及びドクターヘリ実習の内容、疑問点を発表し各消防本部における救急活動を学生が共有しより見識を深めるため。 予習：これまで実習内容をまとめる。(90分) 復習：他の学生の発表内容についてまとめる。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。発表後ディスカッションをする。	
	3コマ	実習内容発表（各自発表） 「目標」消防署、指令センター及びドクターヘリ実習の内容、疑問点を発表し各消防本部における救急活動を学生が共有しより見識を深める。 予習：これまで実習内容をまとめる。(90分) 復習：他の学生の発表内容についてまとめる。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。発表後ディスカッションをする。	
	3コマ	実習での症例検討会（各自発表） 「目標」消防署の救急出場での症例を発表し、症例に対する正しい知識を身につける。 予習：これまで出場した症例をまとめる。(90分) 復習：他の学生が発表した症例について検討した内容をまとめる。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。発表後ディスカッションをする。	
	3コマ	実習での症例検討会（各自発表） 「目標」消防署の救急出場での症例を発表し、症例に対する正しい知識を身につける。 予習：これまで出場した症例をまとめる。(90分)	

	復習：他の学生が発表した症例について検討した内容をまとめる。(90分) (授業形態) アクティブラーニング有り。発表後ディスカッションをする。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	救急用自動車同乗実習手引を熟読し、教科書、参考書を基に予習、復習を行う。
教科書	改訂第10版救急救命士標準テキスト(へるす出版) 改訂第5班救急隊員標準テキスト(へるす出版) 新改訂版救急処置スキルブック上下巻(晴れ書房) 救急搬送概論(荘道社)
参考書	JPTECガイドブック(へるす出版) PEMECガイドブック2017(へるす出版) 平成30年度消防白書「総務省消防庁」
成績評価	本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 実習先担当者の評価(70%) レポート評価(30%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坪倉 寛明 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習時に指示する 担当教員名 : 木村隆彦 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : オフィスアワー : 実習時に指示する 担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_takahashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習時に指示する
備考	坪倉寛明：消防署で救急救命士歴21年 JPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験をもとに講義、実技を行う。本科目は、より迅速、確実な行動がとれるよう随時、学生が主体となったグループディスカッションを行いながら進める。 木村隆彦：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。 高橋 司：消防署での臨床経験に基づき授業を行う。
	DPとの関連性◎-1 ○-3 ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	自由選択
担当教員			
原 貴大、柳 聖美、田中 秀治			
配当学科：救急救命学科	30時間	授業形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士は地域行政に根ざした消防機関で活躍することが多く、ガラパゴス化することが多い。その為救急救命士を目指す学生が、先進的な取り組みを行っている海外の救急医療体制を学ぶことにより、国際的な視野を獲得し、その見識を広めることを本実習の目的とする。
授業計画	<p>第1回 メディカルコントロール総論（事前課題） 【到達目標】 メディカルコントロール総論について理解する。</p> <p>【授業形態】 課題提出 【備考】 予習：テキスト内該当箇所を通読する。 復習：学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第2回 メディカルコントロールの管理統括業務（事前課題） 【到達目標】 メディカルコントロールにおける管理統括業務について理解する。</p> <p>【授業形態】 課題提出 【備考】 予習：テキスト内該当箇所を通読する。 復習：学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第3回 メディカルコントロールの実務 【到達目標】 メディカルコントロールの実務について理解する。</p> <p>【授業形態】 課題提出 【備考】 予習：テキスト内該当箇所を通読する。 復習：学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第4回 消防機関におけるメディカルコントロール 【到達目標】 消防機関におけるメディカルコントロールについて学ぶ</p> <p>【授業形態】 課題提出 【備考】 予習：テキスト内該当箇所を通読する。 復習：学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第5回 メディカルコントロールに関わるさまざまな取り組み 【到達目標】 消防以外のメディカルコントロールの実例を学ぶ。</p> <p>【授業形態】 課題提出 【備考】 予習：テキスト内該当箇所を通読する。 復習：学んだことをレポートにまとめる。</p> <p>第6回 国際交流講演会への参加 オンライン 【到達目標】 アメリカ（シアトル・ロサンゼルス）の救急医療体制を理解する。</p> <p>【授業形態】 講演会参加 【備考】 内容をレポートにまとめる（30分）</p> <p>第7回 国際交流講演会への参加 オンライン 【到達目標】 オーストラリア・台湾の救急医療体制を理解する。</p> <p>【授業形態】 講演会参加 【備考】 内容をレポートにまとめる（30分）</p> <p>第8回 High Performance CPRの実践 実習 【到達目標】 High Performance CPRの基本理念を学ぶ</p> <p>【授業形態】 実習</p>

	<p>第9回 High Performance CPRの実践 実習 【到達目標】 High Performance CPRの実践 【授業形態】 実習</p> <p>第10回 High Performance CPRの実践 実習 【到達目標】 High Performance CPRの実技を学ぶ 【授業形態】 実習</p> <p>第11回 High Performance CPRの実践 実技試験 【到達目標】 High Performance CPRの習得度を確認する。 【授業形態】 実習</p> <p>第12回 救急医療体制とは 講義 【到達目標】 救急医療体制に必要とされる要件や、その特徴について学ぶ 【授業形態】 アクティブラーニング有（ディスカッションを用いる） 【備考】</p> <p>第13回 救急医療体制とは 講義 【授業形態】 アクティブラーニング有（ディスカッションを用いる） 【備考】</p> <p>第14回 本邦の救急医療体制の特徴と課題 【到達目標】 本邦の救急医療体制の特徴をまとめる 【授業形態】 アクティブラーニング有(グループワーク)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	・書籍「プロジェクトX 命のリレー 出動せよ救急救命士」「プロジェクトX 救急救命ER誕生」を読み、本邦の救急医療体制および病院前救急医療体制の成り立ちと特徴についてレポートにまとめる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療におけるメディカルコントロール（へるす出版） ・プロジェクトX 命のリレー 出動せよ救急救命士（NHK出版） ・プロジェクトX 救急救命ER誕生（NHK出版）
参考書	特記事項なし
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>実習態度の積極性（40%）と国内と海外の救急事情の違いについてのレポート（60%）で評価する。 なお、全員のレポートをまとめて、報告書を作成し次年度の実習に役立てる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 原 貴大 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 田中秀治(非) 国士館大学 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : hidetana@kokushikan.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 柳 聖美 研究室 : 6号館2階研究室 メールアドレス : s_yanagi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>田中秀治：救命救急センターで医師としての臨床経験に基づいた授業を行う。 原貴大：救急救命士として、アジア諸国で教育補助を行った経験に基づいて授業を行う。</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3</p>

講義科目名称： 生活習慣病とその予防

授業コード： 1E319

英文科目名称： Lifestyle disease and its prevention

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症および期末試験 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指す点不明な点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習90分、復習90分）。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。 私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院 副病院長（併）内科部長 教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「生活習慣病とその予防」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
原貴大 皆藤竜弥			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本授業ではメディカルボランティアのあり方、BLSやファーストエイドの講習、医療救護体制の構築、などについて、救護ボランティア育成の方法を学ぶ。		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション・スポーツボランティア総論</p> <p>【到達目標】 スポーツ現場におけるメディカルボランティアの在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：スポーツ現場における救護体制の実態について事前自主学习を行う。 復習：講義で学んだことをレポートにまとめる。</p>	
	第2回	<p>スポーツイベントにおける医療救護体制</p> <p>【到達目標】 スポーツ現場における医療救護体制について理解し、実施計画を立てる</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：スポーツ現場における救護体制の実態について事前自主学习を行う。 復習：講義で学んだことをレポートにまとめる。</p>	
	第2回	<p>スポーツボランティアの実践①</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。</p>	
	第3回	<p>スポーツボランティアの実践②</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。</p>	
	第4回	<p>スポーツボランティアの実践③</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。</p>	
	第5回	<p>スポーツボランティアの実践④</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。</p>	
	第6回	<p>スポーツボランティアの実践⑤</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。</p>	
	第7回	<p>スポーツボランティアの実践⑥</p>	

	<p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。 スポーツボランティアの実践⑦</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。 スポーツボランティアの実践⑧</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。 スポーツボランティアの実践⑨</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。 スポーツボランティアの実践⑩</p> <p>【到達目標】 スポーツイベントにおける救護ボランティア(8時間)を実践し、スポーツボランティアの実態やスポーツボランティアにおける医療体制の在りかたについて理解する</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(スポーツイベントにおける救護ボランティア)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアについて事前学習を行う。 復習：活動後1週間以内にレポートを提出する。 スポーツボランティアの実践の反省実施計画①</p> <p>【到達目標】 スポーツボランティアにおける医療体制の在りかたを理解し、整理する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアを実践して学んだことをまとめる。 復習：講義で学んだことをレポートにまとめる。 スポーツボランティアの実践の反省実施計画②</p> <p>【到達目標】 スポーツボランティアにおける医療体制の在りかたを理解し、整理する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアを実践して学んだことをまとめる。 復習：講義で学んだことをレポートにまとめる。 総まとめ</p> <p>【到達目標】 全講義をまとめて、スポーツボランティアにおける医療体制の在りかたを整理する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(講義内容についてディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：スポーツボランティアを実践して学んだことをまとめる。 復習：講義で学んだことをレポートにまとめる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	ボランティア活動に向けた資器材準備、および要項読み合わせ
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	救護活動報告書(100%) 3回の救護活動参加と報告書の提出で単位認定とする。
担当教員の基本情報	担当教員 : 原貴大 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時

	担当教員 : 皆藤竜弥 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時
備考	原貴大：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。 皆藤竜弥：医療機関での臨床経験に基づき授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	実技（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、健康運動実践指導者の資格取得を目標とする。エアロビックダンスは、若い人を中心に子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる健康づくり運動として人気である。エアロビックダンスの特性を理解した上で、エアロビックダンスの基本的な技術を習得し、リズムに乗って仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として実践を中心とした授業を展開する。また、グループ指導能力の修得を通し、人間性と教養を身につけ医療人に求められているコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。さらに、自身のからだを知り、健康に対して意識を高めることで健康維持と体力向上のための橋掛かりとなることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。 [授業形態] 講義と実習</p> <p>第2講 エアロビックダンスとは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。 エアロビックダンスの特性と効果 [到達目標] リズミカルな全身運動の構成ポイントについて理解し、課題運動ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 エアロビックダンスの基本姿勢と動作 [到達目標] エアロビックダンスの基本姿勢やテンポ、動作を習得できる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 基本：ローインパクト① [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 基本：ローインパクト② [到達目標] 基本姿勢でウォームアップの目的と内容（ステップ名）の説明を習得できる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 基本：ローインパクト③ [到達目標] メインエクササイズの目的、強度調整、プログラミングを習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 基本：ローインパクト④ [到達目標] 筋コンディショニングの目的、内容を習得できる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 基本：ローインパクト⑤ [到達目標] クールダウンの目的、内容、プログラミングを習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 チームエアロビックダンス① [到達目標] グループワーク練習で規定の課題運動ができる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 チームエアロビックダンス② [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンのカウント方法を習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 チームエアロビックダンス③ [到達目標] グループワークでルーティーン練習ができる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 応用：プログラム作成① [到達目標] グループ練習でコンビネーション作成ができる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 応用：プログラム作成② [到達目標] エアロビックダンスにおける心拍数とステップの関係を理解できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第14講 グループ指導</p>

	<p>[到達目標]実習のまとめ。 第1講～第13講を 総括した 実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態]実習 (グループワークをする)</p> <p>実習内容を事前学習し (予習35分)、実習で体得した内容を図解でまとめる (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	資料を集め、エアロビックダンスの自分のルールブックを作成する。プログラム作成後は、指導練習を含めた練習を行うこと。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」 (公財) 健康・体力づくり事業財団
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席 (欠席は2回まで可とする)。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度 (探究心の総合評価) 30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 村川増代</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	① 服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。
	② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-3、○-4。

講義科目名称： 健康スポーツ実習VI

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
堀 歩未			
配当学科：保健医療学部 救急 救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	サッカーの基礎技術を身につけ、戦術やルールを理解し、安全に配慮しながらゲームができることを目標とする。 実習前半では、基礎技術を身につけ共通の戦術理解をはかるため全体での練習を行う。 後半は、チームごとのグループワークにおいて、個人及びチームの技術・戦術を向上させる練習を考え、試合の中で実践していくこととする。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス，基本技術の確認①（ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン等の基礎的なボール操作・動作を理解し習得する。</p> <p>第2講 基本技術の確認②（キック、トラップ、ドリブル、ターン、パス） チーム編成、ルール設定・理解、試しのゲーム [到達目標] ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン等の基礎的なボール操作・動作を理解し習得する。 ルールを理解し、ゲームの中で基礎技術を発揮する。</p> <p>第3講 パス及びパスワーク、チーム練習 [到達目標] パスの技術とそれに伴う個人戦術を理解し習得する。</p> <p>第4講 攻撃の技術と戦術、チーム練習 [到達目標] 攻撃の戦術（ポゼッション、ダイレクトプレー、速攻と遅攻等）を理解する。 局面を打開する技術と戦術（ドリブル、スルーパス、ワンツー等）を理解する。</p> <p>第5講 守備の戦術、守備の技術、チーム練習 [到達目標] 守備の戦術（プレスとリトリート、トランジション等）を理解する。 守備の技術と戦術（マークの方法、ボールの奪い方等）を理解する。</p> <p>第6講 前期リーグ戦① [到達目標] チーム戦術を考え実践する。 チームの成果と課題を出し合い、課題解決の練習を考える。</p> <p>第7講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第8講 前期リーグ戦② [到達目標] チーム戦術を考え実践する。 チームの成果と課題を確認し、チームとしてのまとめをする。</p> <p>第9講 チーム再編成、ルール設定・理解 チーム練習、練習試合 [到達目標] チーム戦術を考え試合に向けての練習を行う。</p> <p>第10講 後期リーグ戦① [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第11講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第12講 後期リーグ戦② [到達目標] チーム戦術を考え試合の中で実践する。 チームの成果と課題を出し合い、課題解決の練習を考える。</p> <p>第13講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第14講 後期リーグ戦③、まとめ [到達目標] チーム戦術を考え試合の中で実践する。 チームの成果と課題を確認し、チームとしてのまとめをする。 授業の振り返り・まとめをする。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業終了後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前に予習を行うこと(予習30分)。また、実技で学修した内容をまとめてください(復習30分)。
教科書	指定しない。
参考書	指定しない。
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回まで可とする)。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度(探究心の総合評価)30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 堀 歩未 メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後に受け付ける
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとにグループワークを行い、実習カード(戦術・成果・課題等)を記入し提出する。 ・ケガ防止・安全管理の観点から、長い爪やピアス・指輪・ネックレス等の装飾品を着けての受講は認めない。 また、肩より長い髪は束ねた上で参加すること。 ・運動に適した服装・屋内シューズを着用すること。 ・水筒(水分)等を持参し、自己管理を行うこと。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）が言った言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する理解を深めるとともにその分野における実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。 予習:シラバスに目を通しておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第2講	体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。 予習: スポーツにおけるパワーの定義を調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第3講	トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。 予習: トレーニングの原理・原則を調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第4講	ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。 予習:ウォーミングアップ・クーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第5講	トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。 予習:体力要素別トレーニングについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第6講	全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。 予習:全身持久力・酸素摂取能力・呼吸循環器・代謝能力について調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第7講	筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。 予習:筋持久力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第8講	柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。 予習:柔軟性について調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第9講	筋力トレーニング(目的別強度の目安) [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。 予習:筋力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第10講	筋力トレーニング(正しいトレーニングを実施するための負荷設定) [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。 予習:筋力トレーニング・負荷設定について調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第11講	筋力トレーニング(効果的に行うための順序) [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。 予習:筋力トレーニングの順序について調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第12講	トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標]	

	<p>第13講</p> <p>目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①> 予習: トレーニングプログラムについて調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点②</p> <p>[到達目標]</p> <p>目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②> 予習: トレーニングプログラムについて調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点③</p> <p>[到達目標]</p> <p>目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③> 予習: トレーニングプログラムについて調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	授業態度50% 小テスト30% 授業の貢献度20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	DP「◎-1」「○-2-3」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
添付ファイル			

授業目標	トレーニング論で学んだ科学的な理論と方法論をスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じたトレーニングを体験するとともにトレーニング計画を立案し、実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	ウォーミングアップとクーリングダウン① [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践。 予習：ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第2講	ウォーミングアップとクーリングダウン② [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践。 予習：ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第3講	各種トレーニングのための動き作り① [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 予習：主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第4講	各種トレーニングのための動き作り② [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。 予習：主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第5講	柔軟性を高めるためのトレーニング [到達目標] 関節の可動域を広げる各種ストレッチの理解と実践。 予習：柔軟性を高めるトレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第6講	調整力を高めるためのトレーニング [到達目標] バランス感覚向上のためのトレーニングの理解と実践。 予習：バランス感覚向上のためのトレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第7講	全身持久力トレーニング [到達目標] 全身持久力トレーニングの実践。 予習：全身持久力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第8講	筋持久力トレーニング [到達目標] 筋持久力トレーニングの実践。 予習：筋持久力トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第9講	トレーニングルームの安全な使用法 [到達目標] トレーニング機器の安全管理および使用法について。 予習：トレーニング機器の安全管理および使用法について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第10講	トレーニングプログラムの立案と実践① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 予習：トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第11講	トレーニングプログラムの立案と実践② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 予習：トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	第12講	トレーニングプログラムの立案と実践③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。	

	<p>予習: トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムの立案と実践④</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。</p> <p>予習: トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムの立案と実践⑤</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践。 予習: トレーニングプログラムの立案と実践について、調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料により実施。
参考書	特に指定はなし。
成績評価	成績評価は、出席点を重視し、また、授業態度等を参考とした総合評価とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	DP「◎-3」「○-4-5」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	本授業では、スポーツ指導の目的、方法、計画、安全対策等について学習する。スポーツ指導者の役割について、知識と指導法を理解する。将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることと、人間性と教養を身につけ良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。また、学習した一般的内容を自分の専門とするスポーツ種目の指導実践に応用する能力を身につける。
授業計画	<p>第1講 スポーツ指導者とは [到達目標] 選手の活動をサポートする存在であることを理解できる。 予習：スポーツの意義と価値について考える (45分) 復習：スポーツ指導者の役割について知識と指導法を理解しておく (45分)</p> <p>第2講 スポーツ指導者の心構え・視点 [到達目標] スポーツ指導者の心構え・視点について考えることができる。 予習：スポーツ指導者と選手の信頼関係が大切であることを理解しておく (45分) 復習：スポーツ指導者の心構え・視点について説明できるように、学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第3講 スポーツ指導法 [到達目標] 専門的な知識・技術や高いコーチング能力、コミュニケーションスキル、マナーなどを理解できる。 予習：スポーツ指導のコミュニケーションスキル・マナーについて考える (45分) 復習：専門的な知識・技術について説明できるように、学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第4講 スポーツプログラマーの役割 [到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解できる。 予習：スポーツプログラマーの在り方について考える (45分) 復習：スポーツプログラマーとしての基本的な事項を説明できるように、学んだことを整理しておく (45分)</p> <p>第5講 コーチングとは [到達目標] コーチングの目的について理解できる。 予習：グッドプレーヤーを育てる指導について考える (45分) 復習：現場のコーチングについて学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第6講 コーチに求められる役割 [到達目標] コーチの果たすべき役割について理解できる。 予習：スポーツ指導者が負う責任と求められる役割について考える (45分) 復習：安全なスポーツ環境と問題発生時の対処法を説明できるように、学んだことを整理しておく (45分)</p> <p>第7講 コーチに求められる知識とスキル [到達目標] コーチに求められる専門的知識について理解できる。 予習：対他者・対自己の知識について考える (45分) 復習：指導中の学習内容を整理し、自分の専門種目への応用方法を検討する (45分)</p> <p>第8講 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割 [到達目標] 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割を理解できる。 予習：アスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割を考える (45分) 復習：アスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について、学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第9講 フィットネス・エクササイズの実践と実際 [到達目標] 体力の分類とトレーニング実施上の留意事項を理解できる。 予習：体力区分とトレーニング方法について考える (45分) 復習：体力区分とトレーニング方法について説明できるように、学んだことを整理しておく (45分)</p> <p>第10講 選手の健康管理 [到達目標] 体調のチェックの重要性・意義を理解できる。 予習：体調チェックの重要性・意義について考える (45分) 復習：健康管理について説明できるように、学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第11講 指導計画の立て方 [到達目標] 指導計画の立て方について理解できる (子ども)。 予習：指導計画について考える (45分) 復習：指導中の学習内容を整理し、自分の専門種目への応用方法を検討する (45分)</p> <p>第12講 指導計画の実践 [到達目標] 指導計画作成上の留意事項を理解できる (子ども)。 予習：子どもの指導作成ポイントを調べておく (45分) 復習：子どもの指導作成ポイントについて説明できるように、学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第13講 体力測定と評価</p>

	<p>[到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知ることができる。 予習：体力測定結果の処理方法を調べておく (45分) 復習：体力測定の方法と結果処理について説明できるように、学んだことを理解しておく (45分)</p> <p>第14講 総括 (定期試験)</p> <p>[到達目標] 講義のまとめ・第1講～第13講をまとめて理解できる。 予習：第1講～第13講をまとめておく (45分) 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること (45分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	公益財団法人 日本スポーツ協会 Reference Book
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-2。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択必修
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	人体の身体活動の基礎となる各種栄養素、および健康増進や疾病予防のための栄養学の基本を学習する。更にスポーツ活動に密着した具体的な食事のあり方を学習し、実践的な食事と関連付けて理解する。		
授業計画	第1講	スポーツと保健栄養学入門 [到達目標] 日本人の食生活の変遷を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第2講	栄養素の働き 糖質・脂質 [到達目標] 糖質、脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第3講	栄養素の働き たんぱく質 [到達目標] たんぱく質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第4講	栄養素の働き ビタミン [到達目標] ビタミンの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第5講	栄養素の働き ミネラル [到達目標] ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第6講	水分補給と熱中症 [到達目標] 水分の役割を理解し、水分補給の重要性を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第7講	日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド [到達目標] 日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドの概要を理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第8講	ウエイトコントロールと食事 [到達目標] ウエイトコントロールについて理解し、適切な食事摂取量、摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第9講	障害予防の食事 サプリメント [到達目標] スポーツにおける障害について理解し、適切な食事摂取方法、予防方法を把握する。 [授業形態] サプリメントについて理解し、正しい利用法を把握する。 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第10講	試合期の食事 [到達目標] 試合における必要な栄養素を理解し、適切な食事摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第11講	ライフステージと栄養 ジュニア期 [到達目標] ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第12講	ライフステージと栄養 シニア期 [到達目標] シニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第13講	アセスメント 食品衛生 [到達目標] 栄養指導に必要なアセスメントについて理解する。 安全な食事を供給するための食品衛生の知識を得る。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第14講	総括 (評価を含む) [到達目標] 第1回目から第13回目までの内容について理解する。	

	<p>[授業形態] 講義終了後Googleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配信した資料を用いて復習する。(60分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習：講義までに配信された資料の内容を確認する(30分) 復習：講義で新たに知りえた内容について考察する。Googleフォームの設問に解答する。</p>
教科書	指定なし。
参考書	<p>「栄養の基礎がわかる図解辞典」 中村丁次監修 成美堂出版 「スポーツ栄養学」 田中紀子/平野直美 編 (化学同人)</p>
成績評価	出席基準に達した者に対し、レポート提出にて評価する。(平常点20%、レポート評価80%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 桑原 彩 研究室 : メールアドレス : a_kuwabara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士になるために不可欠な知識のうちその就職活動に必要な知識技能や社会的職業的に自立するために必要な資質能力である基礎的汎用的能力の修得を目指す。		
授業計画	第1講	方程式関係の文章題 政治の問題演習 [到達目標] 方程式・不等式の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第2講	「速さ・距離・時間」関係の文章題（その1） 政治の問題演習 [到達目標] 「速さ・距離・時間」関係の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第3講	「速さ・距離・時間」関係の文章題（その2） 政治の問題演習 [到達目標] 「速さ・距離・時間」関係の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第4講	「仕事算」等の文章題 経済の問題演習 [到達目標] 「仕事算」関係の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第5講	「場合の数」の文章題 経済の問題演習 [到達目標] 「場合の数」関係の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第6講	「確率」の文章題 経済の問題演習 [到達目標] 「確率」関係の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第7講	「数列」の文章題 地理の問題演習 [到達目標] 「数列」関係の文章題の解法を習得する。 [備考]	
	第8講	「順序関係」の問題 地理の問題演習 [到達目標] 「順序関係」の問題の解法を習得する。 [備考]	
	第9講	「対応関係」の問題 地理の問題演習 [到達目標] 「対応関係」の問題の解法を習得する。 [備考]	
	第10講	「試合」の問題 歴史の問題演習 [到達目標] 「試合」の問題の解法を習得する。 [備考]	
	第11講	「論理と真偽」の問題 歴史の問題演習 [到達目標] 「論理と真偽」の問題の解法を習得する。 [備考]	
	第12講	「暗号」の問題 歴史の問題演習 [到達目標] 「暗号」の問題の解法を習得する。 [備考]	
	第13講	時事対策 [到達目標] 世界や日本のさまざまな時事問題を指摘することができる。 [備考]	
	第14講	これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。 [備考]	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各回1時間程度の復習。		

教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中指示するもの。
成績評価	まとめテスト50%・小テストとレポート30%・平常点20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、包帯・固定そしてヒトの状態についての知見を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション と 包帯学の定義 【到達目標】 ・包帯学について説明できる。 ・固定学について説明できる。 ・巻軸帯の基本について説明できる 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	骨折の固定1（骨折の概要） 【到達目標】 ・骨の損傷について説明できる。 ・骨粗鬆症について説明できる。 ・骨損傷に加わる力について説明できる。 ・骨折時に現れる固有の症状について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	骨折の固定2（上腕骨の骨折） 【到達目標】 ・上腕骨の骨折について説明できる。 ・上腕骨の固定法について説明できる。 ・骨折の癒合日数について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	骨折の固定3（前腕骨の骨折） 【到達目標】 ・前腕骨の骨折について説明できる。 ・前腕骨の固定法について説明できる。 ・前腕好適な条件について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	骨折の固定5（手指の骨折） 【到達目標】 ・指の骨の骨折について説明できる。 ・指の骨の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	骨折の固定6（大腿骨の骨折） 【到達目標】 ・大腿骨の骨折について説明できる。 ・大腿骨の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	脱臼の固定1（脱臼の定義） 【到達目標】 ・脱臼の定義について説明できる。 ・脱臼の発生頻度について説明できる。 ・脱臼の症状について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	脱臼の固定2（肩の脱臼） 【到達目標】 ・肩関節脱臼について説明できる。 ・肩関節脱臼の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	脱臼の固定3（肘の脱臼） 【到達目標】 ・肘の脱臼について説明できる。 ・肘の脱臼の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	軟部組織損傷の固定1（腱板の損傷）	

	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 腓骨損傷について説明できる. ・ 腓骨損傷の固定法について説明できる. <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有. <p>第11回 軟部組織損傷の固定2（十字靭帯損傷）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 十字靭帯損傷について説明できる. ・ 十字靭帯損傷の固定法について説明できる. <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有. <p>第12回 軟部組織損傷の固定3（アキレス腱損傷）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アキレス腱損傷について説明できる. ・ アキレス腱損傷の固定法について説明できる. <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有. <p>第13回 試験及びまとめ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な概要を説明できる. <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有. <p>第14回 総括</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義全体を振り返り、ヒトの状況に応じた包帯・固定法を説明することができる. <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有.
授業時間外の学習（準備学習等）について	種々の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習（130分）と講義内容の復習（130分）を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	柔道整復学・理論編（改訂第6版）.
成績評価	1回の試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○赤澤 淳</p> <p>研究室 : 5号館3階</p> <p>メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後1時間. その他の時間はメールで予約を取って下さい.</p>
備考	「◎-1」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	我が国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 健康と公衆衛生 [到達目標] 健康とは何かを説明できる。 衛生・公衆衛生とは何かを説明できる。 衛生行政の組織について説明できる。 健康増進の取り組み（健康日本21）について説明できる。 国際保健について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>第2回 医療を取り巻く環境① 衛生統計と人口統計 [到達目標] 主な保健指標について説明できる。 主な保健統計の種類を説明できる。 人口動態統計及び人口動態統計による我が国の現状について説明できる。 健康寿命について説明できる。 死因統計による我が国の現状について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第3回 医療を取り巻く環境② 疾病の予防と生活習慣病 [到達目標] 予防医学（一次予防、二次予防、三次予防）について説明できる。 国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査および患者調査による我が国の現状について説明できる。 生活習慣病について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第4回 医療を取り巻く環境③ 感染症 [到達目標] 我が国の公衆衛生上重要な感染症について説明できる。 感染症の区分と感染症サーベイランスについて説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第5回 医療供給体制 [到達目標] 保健医療従事者及びその資格に関する制度・法律について説明できる。 保健医療従事者の我が国の現状について説明できる。 医療に関する制度・法律について説明できる。 医療提供施設等の定義と現状について説明できる。 医療法と医療計画について説明できる。 在宅医療と地域包括ケア・地域医療構想について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第6回 様々な保健衛生① 食品衛生と環境衛生 [到達目標] 食品衛生に関する主な法律と衛生管理体制が説明できる。 我が国における食中毒の発生状況について説明できる。 環境衛生に関する主な法律と環境保全対策が説明できる。 我が国の環境衛生の現状を説明できる。 我が国の主な公害と対策について説明できる。 地球環境問題について説明できる。 [授業形態] アクティブラーニング有（中間試験、解答と解説）</p> <p>第7回 様々な保健衛生② 労働衛生と学校保健 [到達目標] 労働衛生に関わる主な法律と労働衛生の仕組みについて説明できる。 作業関連疾患（職業病）について説明できる。 我が国の労働災害の現状について説明できる。 学校保健に関わる主な法律と学校保健の仕組みについて説明できる。</p>

	<p>我が国の学校保健の現状について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第8回 様々な保健衛生③ 地域保健と母子保健</p> <p>[到達目標] 地域保健に関する法律と地域保健の仕組みについて説明できる。 保健所と市町村保健センターの役割について説明できる。 母子保健に関する法律と母子保健の仕組みについて説明できる。 我が国の母子保健の現状について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第9回 様々な保健衛生④ 地域保健と高齢者保健</p> <p>[到達目標] 高齢者の保健福祉に関する法律と高齢者保健福祉の仕組みについて説明できる。 我が国の高齢者の健康と高齢者保健福祉の現状について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第10回 様々な保健衛生⑤ 地域保健と精神保健</p> <p>[到達目標] 精神保健福祉に関する法律と精神保健福祉の仕組みについて説明できる。 我が国の精神保健福祉の現状について説明できる。 精神障害者の入院形態および現状について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第11回 社会保障と社会福祉① 社会保障と社会保険：医療保険制度</p> <p>[到達目標] 社会保障とその理念について説明できる。 社会保障制度の特徴及び我が国の4つの社会保障制度について説明できる。 社会保障の現状について説明できる。 社会保険制度の特徴及び我が国の5つの社会保険制度について説明できる。 我が国の医療保険制度の特徴及び3つの医療保険制度について説明できる。 医療保険制度に基づく給付、保険医療機関、保険診療及び国民医療費の現状について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第12回 社会保障と社会福祉② 社会保険：介護保険と年金保険</p> <p>[到達目標] 介護保険に関する法律と介護保険制度について説明できる。 介護サービスの種類と給付について説明できる。 介護に関わる主な職種とその役割について説明できる。 年金保険に関する法律と年金保険制度について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第13回 社会保障と社会福祉③ 社会福祉と生活保護</p> <p>[到達目標] 社会福祉の特徴を説明できる。 社会福祉に関する法律と社会福祉の仕組みについて説明できる。 児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉の現状と支援について説明できる。 公的扶助と生活保護制度および生活保護の現状について説明できる。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（前回の講義内容の小テスト、解答と解説）</p> <p>第14回 期末試験（第1回～13回）・試験解説</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有（期末試験、解答と解説）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通しておくこと。（130分程度） 2. 講義の後に該当する教科書の部分および配布プリントを読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を解いて理解を深めること。（2, 3併せて130分程度） 4. わからないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。
教科書	救急救命士表運テキスト（改訂第10版）救急救命士標準テキスト編集委員（へるす出版）
参考書	シンプル公衆衛生学2021（南江堂） 分かりやすい公衆衛生学（第4版）（ヌーベルヒロカワ）
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は期末試験90%、小テスト10%で行い、60点以上を合格とする。 出席が6割（8回以上）に満たない者は期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階免疫・微生物学教室または1号館2階教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日13:00-13:50
備考	この科目とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	疾病救急医学分野から、各疾患の病態と症候について理解する。 各疾患の傷病者に対する適切な観察、観察した症状・所見から原因疾患の鑑別と必要な処置の判断をできるようになる。		
授業計画	第1講	オリエンテーション 【到達目標】 呼吸器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第2講	呼吸器疾患① 【到達目標】 呼吸器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第3講	呼吸器疾患② 【到達目標】 呼吸器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第4講	呼吸器疾患③ 【到達目標】 呼吸器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第5講	循環器疾患① 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第6講	循環器疾患② 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第7講	循環器疾患③ 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分)	

第8講	(復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) 循環器疾患④ 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
第9講	循環器疾患⑤ 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
第10講	循環器疾患⑥ 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
第11講	循環器疾患⑦ 【到達目標】 循環器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
第12講	高齢者に特有な疾患① 【到達目標】 高齢者に特有な疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
第13講	高齢者の特有な疾患② 【到達目標】 高齢者に特有な疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
第14講	まとめ・筆記試験 【到達目標】 第1講～第13講の内容についてのまとめをして、期末筆記試験で知識の確認を行う。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)
授業時間外の学習(準備学習等)について	・改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること。 ・授業の学んだ内容についてレポートにまとめること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
参考書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)
成績評価	期末試験100% 本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院 副病院長 (併)内科部長

	<p>教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科、循環器内科および救急医学の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「疾病救急医学Ⅰ」について授業をすすめる。</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
神山 順			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	泌尿器・生殖器系疾患における外科疾患の病態、概念、外科的処置について講義する。疾患に対する手術等の外科治療を知ることによって各種疾患についての理解が深まることを目指す。治療法のひとつとして外科的治療すなわち手術が選択できる場合どのような術式が選択されるかを説明できる知識を身につける。 代謝・内分泌・栄養疾患、血液免疫系疾患、皮膚系疾患、性感染症について総論的内容を学ぶ。内科学的解剖・生理を基礎として、病態について理解する。
授業計画	<p>第1回 消化器系疾患 【到達目標】 ・消化器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第2回 泌尿器系疾患 【到達目標】 ・泌尿器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第3回 腎不全 【到達目標】 ・腎不全の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第4回 生殖器系疾患 【到達目標】 ・生殖器疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第5回 糖尿病 【到達目標】 ・糖尿病の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第6回 酸塩基平衡・その他代謝異常 【到達目標】 ・酸塩基平衡異常および代謝異常の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第7回 内分泌系疾患 【到達目標】 ・内分泌系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第8回 栄養系疾患 【到達目標】 ・栄養系疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニングなし</p>

	<p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第9回 血液系疾患</p> <p>【到達目標】 ・血液疾患の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第10回 アレルギー・膠原病</p> <p>【到達目標】 ・アレルギー・膠原病の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第11回 感染症(細菌感染・ウイルス感染・寄生虫感染・食中毒)</p> <p>【到達目標】 ・感染症の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第12回 敗血症・結核</p> <p>【到達目標】 ・敗血症・結核の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第13回 性感染症</p> <p>【到達目標】 ・性感染症の病態と症候について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。</p> <p>【授業形態】アクティブラーニングなし</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第14回 まとめ・定期試験 第1講～第13講の内容についてのまとめをして、期末筆記試験を行う。 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業計画に記載した改訂第10版 救急救命士標準テキスト(全1巻)の参照ページを事前に読み理解する。(60分程度) 講義後は、授業内容の復習をして内容を理解する。(60分程度)
教科書	「改訂第9版 救急救命士標準テキスト上巻・下巻」、監修 厚生省救急救命士教育研究会、へるす出版。 「改訂第10版救急救命士標準テキスト」、監修 厚生省救急救命士教育研究会、へるす出版。 「必要に応じてプリントを配布する」
参考書	「改訂第9版 救急救命士標準テキスト上巻・下巻」、監修 厚生省救急救命士教育研究会、へるす出版。 「改訂第10版救急救命士標準テキスト」、監修 厚生省救急救命士教育研究会、へるす出版。 「必要に応じてプリントを配布する」
成績評価	平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90%
担当教員の基本情報	担当教員名：神山 順 メールアドレス：jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
	担当教員名：浅沼 博司 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	神山順・浅沼博司：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事している。その実務経験をもとに授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
樋口敏宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科領域の疾患の病態や観察処置の知識についての理解する。 感覚器が集中する頭頸部領域に発生する疾患は多岐多様におよぶ。それらの特徴を理解するとともに、疾患に遭遇した際の適切な対応ができるようになる。
授業計画	<p>第1回 頭頸部の解剖・生理と顔面外傷 【到達目標】 頭頸部の解剖・生理と顔面外傷について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第2回 口腔の疾患 【到達目標】 口腔の疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第3回 咽喉頭・食道の疾患 【到達目標】 咽喉頭・食道の疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第4回 鼻・副鼻腔の疾患 【到達目標】 鼻・副鼻腔疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第5回 耳の解剖と疾患 【到達目標】 耳の解剖と疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第6回 眼の解剖と疾患 【到達目標】 眼の解剖と疾患について理解して、適切な観察・鑑別・処置・判断をできるようになる。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第7回 まとめ・期末試験 【到達目標】 第1回から第6回の講義内容の総復習を行い、知識の習得を確認する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業計画に記載した改訂第9版 救急救命士標準テキスト(全2巻)の参照ページを事前に読み理解する。(60分程度) 講義後は、授業内容の復習をして内容を理解する(60分程度)。

教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適應される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%，期末試験90%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : 病院1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 大藪 秀昭 オフィスアワー : 随時</p>
備考	樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
田中 秀治、高橋 宏幸、喜熨斗 智也			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	外傷学における解剖学・生理学から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態の知識を各外傷部位ごとに解説し系統的な理解をはかる。防ぎえた外傷死を減らすための観察・処置・判断について解説し、搬送先の医療機関の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション・熱傷①</p> <p>【到達目標】</p> <p>①熱傷の受傷機転と病態について説明できる。 ②「熱傷深度」「熱傷面積」「重症度分類」について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.760-765を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第2講	<p>熱傷②</p> <p>【到達目標】</p> <p>①熱傷の受傷機転と病態について説明できる。 ②「熱傷深度」「熱傷面積」「重症度分類」について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.760-765を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第3講	<p>化学損傷</p> <p>【到達目標】</p> <p>①化学損傷の原因となる物質（酸、アルカリ）とそれぞれの病態と症候について説明できる。 ②化学損傷のうち全身状態が悪化しやすいものについて説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.766-771を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第4講	<p>電撃症・雷撃症</p> <p>【到達目標】</p> <p>①電撃傷・雷撃傷の病態について説明できる。 ②電撃傷・雷撃傷に対する現場活動上の注意点について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.772-777を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>	
	第5講	<p>縊頸・絞頸</p> <p>【到達目標】</p> <p>①縊頸の定義、病態、症候について説明できる。 ②絞頸と扼頸の定義、病態、症候について説明できる。 ③縊頸・絞頸に対する処置について説明できる。</p>	

第6講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 778-780を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 刺咬症</p> <p>【到達目標】 ①哺乳類による主な咬症と病態・合併症について説明できる。 ②各種生物（マムシ、ヘビ、節足動物、海洋生物）による刺咬症について説明できる。 ③観察および処置で特に注意すべき点について説明できる。 ④医療機関選定に関して考慮すべき点を説明できる。</p>
第7講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 781-785を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 頭部外傷</p> <p>【到達目標】 ①頭部外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p>
第8講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 715-721を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 顔面・頸部外傷</p> <p>【到達目標】 ①顔面外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p>
第9講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 722-726を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 脊椎・脊髄外傷</p> <p>【到達目標】 ①脊椎・脊髄外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p>
第10講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 727-732を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 胸部外傷</p> <p>【到達目標】 ①胸部外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p>
第11講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 733-738を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 腹部外傷</p> <p>【到達目標】 ①腹部外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p>
第12講	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp. 739-742を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 骨盤・四肢外傷</p>

	<p>【到達目標】 ①骨盤外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.743-746、747-754を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 小児・高齢者・妊婦の外傷①</p> <p>【到達目標】 ①小児・高齢者・妊婦の外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.755-759を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分） 小児・高齢者・妊婦の外傷②、筆記試験</p> <p>【到達目標】 ①小児・高齢者・妊婦の外傷の病態を理解して、頭部外傷の傷病者への対応について習得する。 ②救急救命士国家試験で出題される頭部外傷に関する問題に対応できるよう知識を定着させる。 ③第1～13回まで学習した範囲の総復習・筆記試験を行い、知識を定着させる</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 ・小テスト解説 ・質疑応答</p> <p>【備考】 予習：改訂第10版救急救命士標準テキストp.715-785を熟読すること（所要時間30分） 復習：授業で学んだことをレポートにまとめる（所要時間30分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	改訂第10版救急救命士標準テキスト〈全1巻〉（へるす出版）の熟読 毎授業の課題と学習した内容をレポートにまとめる。
教科書	・改訂第10版 救急救命士標準テキスト〈全1巻〉（へるす出版） ・改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック（へるす出版）
参考書	・改訂第3版 救急救命士国家試験直前ドリル（文光堂） ・改訂第2版 救急救命士国試対策必修ポイントテキスト（荘道社） ・病院前外傷患者への観察・処置法（医学映像教育センター）
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>●全13回講義のうち、出席率が60%を超えている ●課題レポートを全て提出している 上記2項目を成績評価の条件とする</p> <p>成績評価基準は下記の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験90% ・課題10%
担当教員の基本情報	<p>田中秀治（非） 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hidetana@kokushikan.ac.jp</p> <p>高橋宏幸（非） 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：hiro119@kokushikan.ac.jp</p> <p>喜熨斗智也（非） 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 メール：maezumi@kokushikan.ac.jp</p>
備考	田中秀治：救命救急センターでの医師としての臨床経験に基づいた授業を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
高階謙一郎・竹上徹郎・堀口真仁・香村安建・的場裕恵・河野智子			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>災害医学の概要を学び、救急救命士に求められる災害救援の具体例を学ぶ。</p> <p># 1：災害の概論を説明できる。</p> <p># 2：Mass CasualtyとDisasterの違いを説明できる。</p> <p># 3：3-Tについて説明できる。</p> <p># 4：中毒の概念を説明できる。</p> <p># 5：青酸中毒・農薬中毒の病態について説明できる。</p> <p># 6：個別の中毒に関する拮抗薬を列挙できる。</p> <p># 7：シミュレーションでの災害の基本的な対応ができる。</p>
授業計画	<p>第1講 災害医学 総論 I</p> <p>【到達目標】 災害の定義と災害医療の目的の総論を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) 災害の定義について予習しておく (所要時間50分)。 (復習) 自然災害と人為災害の違いを復習確認しておく (所要時間50分)。</p> <p>第2講 災害医学 総論 II</p> <p>【到達目標】 災害医療の具体的な事例による問題点を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) 最近起こった災害の事例を調べておく (所要時間50分)。 (復習) 災害対応の問題点について復習確認しておく (所要時間50分)。</p> <p>第3講 Triage</p> <p>【到達目標】 災害医療では基本となる3TとTriageを理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) Triageの概念を予習しておく (所要時間50分)。 (復習) Triage方法の種類と判断方法を復習確認しておく (所要時間50分)。</p> <p>第4講 深部静脈血栓症と呼吸器障害</p> <p>【到達目標】 災害時に問題となる合併症である深部静脈血栓症と肺梗塞を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) 循環系で静脈系と肺循環について予習しておく (所要時間50分)。 (復習) 肺梗塞の病因と徴候を確認復習しておく (所要時間50分)。</p> <p>第5講 自然災害後の感染症</p> <p>【到達目標】 災害後に問題視されている合併症である感染症を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) 感染症の成り立ちについて予習しておく (所要時間50分)。 (復習) 災害後の感染症の成り立ちと特徴を復習確認しておく (所要時間50分)。</p> <p>第6講 惨事ストレス</p> <p>【到達目標】 災害を契機として現れる精神肉体的な影響に関連するストレスを理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) ストレスの意味について予習しておく (所要時間50分)。 (復習) 惨事災害の対処方法について確認しておく (所要時間50分)。</p> <p>第7講 たこつぼ心筋症</p> <p>【到達目標】 災害後に特徴的な症状を示す心疾患を理解する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング無</p> <p>【備考】 (予習) 心筋障害の概念について予習しておく (所要時間50分)。 (復習) たこつぼ心筋症の対処方法について復習しておく (所要時間50分)。</p>

	<p>第8講 災害医療とDMAT 【到達目標】 全国展開されるDMATの概念を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 災害救助法について予習しておく(所要時間50分)。 (復習) DMATの活動について復習しておく(所要時間50分)。</p> <p>第9講 災害医学特論 【到達目標】 災害医療で展開されているDMATの概要と日本政府が行っている国際緊急援助を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 国際緊急援助について予習しておく(所要時間50分)。 (復習) 国際緊急援助にかかわる国際機関の活動について復習確認しておく(所要時間50分)。</p> <p>第10講 自然災害特論 【到達目標】 日本における自然災害の概念を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 日本で起こりうる自然災害について予習しておく(所要時間50分)。 (復習) 自然災害について確認復習しておく(所要時間50分)。</p> <p>第11講 中毒総論 【到達目標】 一般的な「中毒」の概念と病態生理を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 中毒作用の意味について予習しておく(所要時間50分)。 (復習) 中毒全般の生体反応について確認復習しておく(所要時間50分)。</p> <p>第12講 中毒各論1 ガス 【到達目標】 青酸ガス・亜硫酸ガスなど致命的なガス中毒の病態を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) ガスによる中毒の事例について予習しておく(所要時間50分)。 (復習) ガス中毒の特徴について確認復習しておく(所要時間50分)。</p> <p>第13講 中毒各論2 ボツリヌス中毒 【到達目標】 ボツリヌス菌を中心として外来性中毒を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) 細菌による中毒症状を予習しておく(所要時間50分)。 (復習) ボツリヌス中毒の諸症状を復習しておく(所要時間50分)。</p> <p>第14講 まとめ 【到達目標】 第1講から第13講の内容を復習して、知識の習得を確認する。 【授業形態】 アクティブラーニング無 【備考】 (予習) この授業で修得した内容をまとめておく(所要時間50分)。 (復習) 間違えた問題についてテキストを基に見直しをする(所要時間50分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	救急救命士標準テキストや参考書を読み、自習すること。
教科書	第10版救急救命士標準テキスト へるす出版
参考書	災害医学 南山堂 「災害医療ガイドブック」国際災害研究会(編)医学書院 「トリアージその意義と実際」山本保博・鶴飼卓(監) 荘道社
成績評価	平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90% 講義出席の3/5以上を期末試験の受験要件とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：高階謙一郎先生 オフィスアワー：授業終了後1時間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	必修
担当教員			
坪倉寛明、高橋司、原貴大、中尾誠宏、柳聖美			
配当学科：救急救命学科	時間数：180時間	授業形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士の資格取得を目標とし、基本的な応急手当、救急処置法を身に付けるとともに、人の命の尊さ、大切さを理解するとともに、救急救命処置要領の習得及び災害現場や防災ボランティア現場において即戦力となる実践型教育を本授業の主眼とする。 ・救急隊員標準課程の知識・技術の習得及び規律、礼儀が社会人として認められる教育を習いとする。 ・将来、救急救命士国家資格取得を見据えた知識・技術の習得と規律・礼儀を重んじた団体行動を養う救急救命士の育成を目標とする。
授業計画	<p>第1-2講 オリエンテーション・想定訓練① 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第3-4講 想定訓練 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第5-6講 想定訓練3 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第7-8講 想定訓練4 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第9-10講 想定訓練5 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第11-12講 想定訓練6 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分）</p>

第13-14講	<p>(復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 7 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第15-16講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 8 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第17-18講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 9 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第19-20講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 10 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第21-22講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 11 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第23-24講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 12 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第25-26講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 想定訓練 13 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
第27-28講	<p>(予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分) 前期実技・筆記試験 【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有 (1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う)</p>
	<p>【備考】 (予習) 改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する (所要時間90分) (復習) 国家試験問題の解説をする (所要時間90分)</p>

第29-30講	<p>想定訓練 1 4</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第31-32講	<p>想定訓練 1 5</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第33-34講	<p>想定訓練 1 6</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第35-36講	<p>想定訓練 1 7</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第37-38講	<p>想定訓練 1 8</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第39-40講	<p>想定訓練 1 9</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第41-42講	<p>想定訓練 2 0</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第43-44講	<p>想定訓練 2 1</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
第45-46講	<p>想定訓練 2 2</p>

	<p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第47-48講 想定訓練 2 3</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第49-50講 想定訓練 2 4</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第51-52講 想定訓練 2 5</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第53-54講 想定訓練 2 6</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p> <p>第55-56講 後期実技試験・筆記試験</p> <p>【到達目標】 様々な疾患・外傷の傷病者に対する適切な隊活動を理解して実践する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有（1想定毎にフィードバックとディスカッションを行う）</p> <p>【備考】 （予習）改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読する（所要時間90分） （復習）国家試験問題の解説をする（所要時間90分）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	各授業日までに改訂第10版救急救命士標準テキストを熟読し、予習すること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版補訂版 JPTECガイドブック PEMECガイドブック2017
参考書	改訂第5版 救急技術マニュアル 改訂第5版 救急隊員標準テキスト 改訂第5版 救急蘇生法の指針2015（市民用・解説編） 新訂版 救急処置スキルブック（上・下巻）
成績評価	<p>●全授業のうち、出席率が80%を超えていること 上記項目を成績評価の条件とする。</p> <p>成績評価基準は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験40% ・筆記試験40% ・課題提出20% <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。

	<p>4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。</p> <p>5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。</p> <p>6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 高橋司 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : t_takahashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 原貴大 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : t_hara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 中尾誠宏 (非常勤) 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : nakao@jems.co.jp オフィスアワー : 木曜日放課後</p> <p>担当教員名 : 柳聖美 研究室 : 6号館2階 メールアドレス : s_yanagi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2、○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
上久保 敦、中村 俊貴			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	「疾病救急医学」「外傷救急医学」の分野の知識を定着させる。		
授業計画	第1講	オリエンテーション（担当： ） 【到達目標】 本講義の授業目標、授業計画、学習能力の取り組み方、成績評価について理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第2講	疾病救急医学①（担当： ） 【到達目標】 「神経系疾患」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第3講	疾病救急医学②（担当： ） 【到達目標】 「呼吸系疾患」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第4講	疾病救急医学③（担当： ） 【到達目標】 「消化系」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 問題演習（2015年度版過去問, 国士舘大学出版） 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第5講	疾病救急医学④（担当： ） 【到達目標】 「泌尿・生殖系疾患」「代謝・内分泌・栄養系疾患」「血液・免疫系疾患」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 問題演習（2015年度版過去問, 国士舘大学出版） 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第6講	疾病救急医学⑤（担当： ） 【到達目標】 「筋・骨格系疾患」「眼・耳・鼻の疾患」「感染症」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第7講	疾病救急医学⑥（担当： ） 【到達目標】 「小児に特有な疾患」「高齢者に特有な疾患」「妊娠・分娩と救急疾患」「精神障害」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第8講	中間試験・外傷救急医学①（担当： ） 【到達目標】 第1～7講の「外傷総論」に関する知識を習得する。	

	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>中間試験：一般問題50問・想定問題20問(配点：100点)</p> <p>第9講 外傷救急医学②(担当：)</p> <p>【到達目標】 「外傷の病態生理」「外傷の現場活動」「頭部外傷」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第10講 外傷救急医学③(担当：)</p> <p>【到達目標】 「顔面・頸部外傷」「脊椎・脊髄外傷」「胸部外傷」「腹部外傷」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救 急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第11講 外傷救急医学④(担当：)</p> <p>【到達目標】 「骨盤外傷」「四肢外傷」「皮膚・軟部組織外傷」「小児・高齢者・妊婦外傷」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第12講 外傷救急医学⑤(担当：)</p> <p>【到達目標】 「熱傷」「化学損傷」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第13講 外傷救急医学⑥(担当：)</p> <p>【到達目標】 「電撃症・雷撃症」「縊頸・絞頸」「刺咬症(傷)」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第14講 まとめ・期末試験(担当：)</p> <p>【到達目標】 第8～13講の内容について総復習を行い、知識の習得を確認する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>期末試験：一般問題50問・想定問題20問(配点：100点)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	救急救命士国家試験対策問題集 ～これだけやれば大丈夫!～(文光堂)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%、筆記試験90%(フルセット模試平均60点以上かつ期末試験で60点以上)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 上久保 敦 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 中村 俊貴(非)日本救急システム株式会社 オフィスアワー : 随時</p>

備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	選択必修
担当教員			
高橋 司、後藤 奏			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（遠隔：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	「健康と社会保障」「人体の構造と機能」「環境障害・急性中毒学」の分野の知識を定着させる。		
授業計画	第1講	オリエンテーション・社会と医療・健康と社会（担当： ） 【到達目標】 「生命倫理と医の倫理」「保健医療制度の仕組みと現状」「社会保障と社会福祉を支える仕組み」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第2講	人体の構造と機能①（担当： ） 【到達目標】 「人体を構成する要素」「体表からみる人体の構造」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第3講	人体の構造と機能②（担当： ） 【到達目標】 「神経系」「感覚系」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第4講	人体の構造と機能③（担当： ） 【到達目標】 「呼吸系」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第5講	人体の構造と機能④（担当： ） 【到達目標】 「循環系」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第6講	人体の構造と機能⑤（担当： ） 【到達目標】 「消化系」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第7講	中間試験・人体の構造と機能⑥（担当： ） 【到達目標】 「内分泌系」に関する知識を習得する。また、第1～6講までの知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第8講	中間試験：一般問題50問・想定問題20問（配点：100点） 人体の構造と機能⑦（担当： ） 【到達目標】 「泌尿系」に関する知識を習得する。	

	<p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第9講 人体の構造と機能⑧(担当:)</p> <p>【到達目標】 「生殖系」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第10講 人体の構造と機能⑨(担当:)</p> <p>【到達目標】 「血液・免疫系」「筋・骨格系」「皮膚系」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第11講 急性中毒学・環境障害①(担当:)</p> <p>【到達目標】 「中毒総論」「中毒各論」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第12講 急性中毒学・環境障害②(担当:)</p> <p>【到達目標】 「異物」「溺水」「熱中症」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第13講 急性中毒学・環境障害③(担当:)</p> <p>【到達目標】 「偶発性低体温症」「放射線障害」「その他環境障害」に関する知識を習得する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>第14講 まとめ・期末試験(担当:)</p> <p>【到達目標】 第7～13講の内容について総復習を行い、知識の習得を確認する。</p> <p>【授業形態】 アクティブラーニング有(質疑応答)</p> <p>【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>期末試験：一般問題50問・想定問題20問(配点：100点)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること。 ・毎授業で行う小テストで、自身が間違えた問題の解説をレポートにまとめること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版) 新版 からだの地図帳(講談社)
参考書	特になし。
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 後藤 奏(非) 日本救急システム株式会社 オフィスアワー : 随時</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択必修
担当教員			
高橋 司、中尾 誠宏			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	「病院前医療概論」「救急病態生理」「救急症候学」の分野の知識を定着させる。		
授業計画	第1講	オリエンテーション・病院前医療概論①（担当：） 【到達目標】 「救急医療体制」「災害医療体制」「病院前医療体制」「消防機関における救急活動の流れ」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第2講	病院前医療概論②（担当：） 【到達目標】 「救急救命士の役割と責任」「救急救命士と傷病者の関係」「救急救命士に関連する法令」「救急救命士の養成と生涯教育」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第3講	病院前医療概論③（担当：） 【到達目標】 「安全管理と事故対応」「感染対策」「ストレスに対するマネジメント」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第4講	救急救命処置概論①（担当：） 【到達目標】 「観察」「現場活動の基本」「全身状態の観察」「局所の観察」「緊急度・重症度判断」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第5講	救急救命処置概論②（担当：） 【到達目標】 「資器材による観察」「救急救命士が行う処置」「救急蘇生法」「在宅療法継続中の傷病者の処置」「傷病者搬送」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第6講	救急病態生理学①（担当：） 【到達目標】 「呼吸不全」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第7講	救急病態生理学②（担当：） 【到達目標】 「心不全」「ショック」「心肺停止」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)	
	第8講	救急病態生理学③・救急症候学①（担当：） 【到達目標】	

	<p>「重症脳障害」「意識障害」「頭痛」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) 救急症候学②(担当:)</p> <p>【到達目標】 「痙攣」「めまい」「運動麻痺」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) 救急症候学③(担当:)</p> <p>【到達目標】 「呼吸困難」「咯血」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) 救急症候学④(担当:)</p> <p>【到達目標】 「胸痛」「動悸」「失神」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) 救急症候学⑤(担当:)</p> <p>【到達目標】 「腹痛」「吐血・下血」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) 救急症候学⑥(担当:)</p> <p>【到達目標】 「腰痛・背部痛」「体温上昇」に関する知識を習得する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(ミニテストフィードバック・質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) まとめ・期末試験(担当:)</p> <p>【到達目標】 第1～13講の内容について総復習を行い、知識の習得を確認する。 【授業形態】 アクティブラーニング有(質疑応答) 【備考】 (予習)改訂第10版 救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること(所要時間50分) (復習)講義で学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p> <p>期末試験：第6～13講までの授業で学習した範囲</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	改訂第10版 救急救命士標準テキストを熟読すること。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	救急救命士国家試験対策問題集 ～これだけやれば大丈夫!～(文光堂)
成績評価	<p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。 <p>平常点(出席状況・授業態度)10%、期末試験90%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 高橋 司 研究室 : 6号館2階研究室 オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員: 中尾 誠宏(非) 日本救急システム株式会社 オフィスアワー: 随時</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_1E413スポーツ・バイオメカニクス_救急.xlsx			

授業目標	<p>【科目の目標】 スポーツ・バイオメカニクスは、力学、生理学、解剖学などの基礎知識を応用して身体運動の仕組みをよりよく理解するための応用科学であります。 本科目では、スポーツコーチ、健康運動指導士・実践指導者、アスレチックトレーナーが対象者の運動・スポーツの評価（運動器の疾患・病態を含む）をする上で必要となるスポーツ動作のスポーツ・バイオメカニクスの観察・分析について理解を深めます。また、スポーツ基本動作のバイオメカニクス、及びその動作に影響を与える機能・体力的要因を理解し、それらを活用できる統合的な応用力を身につけます。さらに、それらを十分に理解し、実践知識として臨床（含教育・スポーツ指導現場）や研究に有効活用できることを目指します。 授業は、問題提起、問題・課題解決のための討論、マトメ、発表（情報共有）の流れで、グループワーク（5・6人構成）を中心に進めます。さらに、学習効果を上げるために、問題提起した内容に関するクイズ問題を作成します。</p>
授業計画	<p>第1講 インTRODクシヨン：授業の進め方、スポーツ・バイオメカニクスとは？ 【到達目標】 1) スポーツ・バイオメカニクスの概要が説明できる。 2) 運動学の概要が説明できる。 3) 運動力学の概要が説明できる。 4) バイオメカニクスにおける3つのアプローチが説明できる。 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバック（双方向型授業、アクティブラーニング）する。 【備考】（予習項目） スポーツ・バイオメカニクス、運動学、運動力学。教科書熟読：1) p.197、2) p.1-6。</p> <p>第2講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎-1：エンジンとしての筋・エネルギー供給・運動の指令・調整機構 【到達目標】 5) 筋肉の種類と構造が説明できる。 6) 骨格筋収縮による力の発生の特徴が説明できる。 7) 骨格筋収縮様式が説明できる。 8) 筋肉の力-速度関係が説明できる。 9) エネルギー供給のメカニズムが説明できる。 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバック（双方向型授業、アクティブラーニング）する。 【備考】（予習項目） 筋肉、筋収縮、筋収縮様式、エネルギー供給、運動の指令と調節機構。 教科書熟読：1) p.159-164、 p.168-176、 2) p.7-17。</p> <p>第3講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎-2：運動と力学の法則 【到達目標】 10) 運動の3法則について説明できる。 11) 力学的エネルギーと仕事について説明できる。 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。 【備考】（予習項目） 運動と力学の法則、力学的エネルギー、並進運動、回転運動。 教科書熟読：1) p.197-200、 2) p.26-32。</p> <p>第4講 スポーツ・バイオメカニクスの実際-1：立つ 【到達目標】 12) 良い姿勢について説明できる。 13) 姿勢の安定性について説明できる。 14) 重心を求めることができる。 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバック（双方向型授業、アクティブラーニング）する。 【備考】（予習項目） 立位姿勢、良い姿勢とは、姿勢の安定性と重心、身体重心を求める。 教科書熟読：1) p.199-201、 2) p.33-38。</p>

	<p>第5講 スポーツ・バイオメカニクスの実際-1：歩く、走る</p> <p>【到達目標】 15) OGIG(Observational Gait Instructor Group、観察による歩行分析)の用語が説明できる。 16) 歩行動作のバイオメカニクスが説明できる。 17) 歩行の基本パラメーター(歩幅・ケイデンス)が説明できる。 18) 歩行の力学的エネルギーについて説明できる。 19) 歩行と走行の違いが説明できる。 20) 走行のピッチ、ストライド、速度の関係が説明できる。 21) 疾走能力の発達について説明できる。 22) 疾走能力と動作の関係が説明できる。 23) 走運動の効率が説明できる。 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバック(双方向型授業、アクティブラーニング)する。</p> <p>【備考】(予習項目) 歩行動作、OGIG、歩行の力学的エネルギー、歩行・走行のパラメータ、疾走能力、走運動の効率。 教科書熟読：1) p.198-200、 2) p.39-49。</p> <p>第6講 スポーツ・バイオメカニクスの実際-1：投げる、滑る</p> <p>【到達目標】 25) ジャンプ動作のバイオメカニクスが説明できる。 26) 反動動作と振り込み動作の効果が説明できる。 27) 投げ(砲丸投げ・ハンマー投げ・ボール投げ)のバイオメカニクスが説明できる。 28) ボールを打つことのバイオメカニクスが説明できる。 29) スキーで滑る(直滑降・ターン)バイオメカニクスが説明できる。 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバック(双方向型授業、アクティブラーニング)する。</p> <p>【備考】(予習項目) 高く跳ぶ、反動動作、振り込み、投げのバイオメカニクス、打つバイオメカニクス、スキーのバイオメカニクス。 教科書熟読：1) p.197、2) p.60-66、85-88。</p> <p>第7講 まとめ：疑問に答えて_これまでの授業内容の総合的な復習</p> <p>【到達目標】 30) 疑問を発見し、解き明かすことができる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、後日フィードバック(双方向型授業、アクティブラーニング)する。</p> <p>【備考】(予習項目) 各講義での疑問点を書き出す。</p>
<p>授業時間外の学習(準備学習等)について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること(予習30分)。理解できない箇所(事柄)があれば、参考書を熟読するか、小テストのコメントに記入すること。次の授業でフィードバックする。 ・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること(予習30分)。理解できない箇所(事柄)があれば、参考書を熟読するか、小テストのコメントに記入すること。次の授業でフィードバックする。 ・講義資料(ハンドアウト)は、講義ノートと共に必ず整理すること。授業の復習は、必ず確実にすること(記憶に焼き付けられようように)(復習30分)。 ・試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合がある。
<p>教科書</p>	<p>1) 「Reference Book」(リファレンスブック) 公益財団法人日本スポーツ協会 2) 「スポーツ・バイオメカニクス入門 第4版-絵で見る講義ノート」金子 公有・藤原 敏行著(杏林書院)</p>
<p>参考書</p>	<p>1) 「バイオメカニクス-身体運動の科学的基礎-」金子 公有・福永 哲夫編(杏林書院) 2) 「運動学で心が折れる前に読む本」松房 利憲著(医学書院) 3) 「科学の眼でみたスポーツ動作の隠し味」石井喜八(ベースボール・マガジン社)</p>
<p>成績評価</p>	<p>①合格点：100点法により評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点の算出・内訳：筆記試験 70%、小テスト 30% ③再試験：筆記試験が60%未満の場合、筆記試験により再評価を行う。 ④アセスメントとフィードバック： アセスメント；試験・小テスト結果 フィードバック試験・小テストの結果発表、小テストのコメントの質疑応答による双方向にて行う。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 研究室 メールアドレス：ma_daito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間(要予約)。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。</p>
<p>備考</p>	<p>1. 実務経験の有無：(公財)日本スポーツ協会(日スポ協)の公認スポーツ指導者資格を有していること、養成講習会免除適応コース申請時に講師として日スポ協から認定を得ていること。 2. ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎-1. 知識・理解 ○-2. 思考・判断</p>

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。さて、生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習 水中運動とは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 応用：プログラム作成 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>

	<p>第14講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。 プールにおける実践指導⑥ [到達目標]（実習のまとめ）。第1講～第13講を総括した実践指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。プールで実施する時は、水着の準備をする。
	② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3、○-4。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
岩内和也、齊藤昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_1E415ジュニアスポーツの指導の実際 I _救急_齊藤・岩内.xlsx			

授業目標	スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。 本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、 (1)概論① [到達目標] 子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解し説明できる。</p> <p>第2講 (1)概論② [到達目標] 前時の理解を基に、ジュニアスポーツ指導員の役割と求められる資質について説明できる。</p> <p>第3講 (2)コーチング① [到達目標] ジュニア期のコーチングの目指すもの、発達に応じたコーチングについて理念を理解し説明できる。</p> <p>第4講 (2)コーチング① [到達目標] ジュニア期のコーチングにおける留意点について説明できる。</p> <p>第5講 (3)体力 [到達目標] ①発育期の体格の変化、体力の変化や特徴を理解し説明できる。 ②体力テストのねらいや種類、その活用について理解する。</p> <p>第6講 (4)動きの発達 [到達目標] 発育期における動きの発達について、その機序と特徴を理解し、発達段階に応じた効果的かつ適切な運動指導ができる知識を習得する。</p> <p>第7講 (5)心理① [到達目標] 幼少年期の運動との出会いが持つ意味、子どもの人格的・認知的・社会的発達と運動遊びの関係を知る。</p> <p>第8講 (5)心理② [到達目標] 運動遊びが子どもの心に及ぼす影響について基礎的知識の理解を通して、運動遊びの指導ができる。</p> <p>第9講 (6)栄養① [到達目標] 生涯の健康づくりの基礎となる栄養・食事摂取の考え方と正しい食習慣を獲得するための栄養教育方法を学ぶ。</p> <p>第10講 (6)栄養② [到達目標] 栄養・食事面の課題に対して具体的な対処ができる指導力を身につける。</p> <p>第11講 (7)スポーツ医学① [到達目標] スポーツに関連する外傷や障害の発生原因や背景を学ぶ。</p> <p>第12講 (7)スポーツ医学② [到達目標] 安全で科学的なトレーニング方法について理解し実践できる。</p> <p>第13講 (8)女性とスポーツ① [到達目標] 女性の身体的・体的特徴、起こり得る諸問題、月経に関する基礎知識を深める。</p> <p>第14講 (8)女性とスポーツ② [到達目標] 女性としての健康に配慮したスポーツ活動への参加について、適切な指導ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義のタイトルを事前学習（予習35分）するとともに、受講後に学習したことをまとめる（復習35分）。
教科書	公益財団法人日本スポーツ協会

	「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
参考書	特定の参考書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
成績評価	4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価方法と評価割合（試験50%、小テスト・レポート30%、受講状況20%）
担当教員の基本情報	担当教員名： 齊藤 昌久 / 岩内和也 研究室： 齊藤（8号館4階 研究室） / 岩内（6号館1階 非常勤講師室） メールアドレス： ma_saito@meiji-u.ac.jp / オフィスアワー： 授業開始前及び授業終了後に受け付ける
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連；◎-1、○-3, 4
	担当の岩内和也先生は、永年にわたり府立高等学校の保健体育の教員をし、教科指導以外にもスポーツ（サッカー）のコーチングも行っていた。この豊かな指導経験をもとに「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ・Ⅱ」について実習指導を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
岩内和也、齊藤昌久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面/オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス1E416_ジュニアスポーツの指導の実際Ⅱ_救急_齊藤・岩内.xlsx			

授業目標	<p>「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ」では、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ」で学んだ内容を基に実際にどのように指導すればよいのかを実技を通して学んでいく。</p> <p>併せて、指導に際しての事前準備、指導計画の立案、指導実践、指導内容について学び、自分自身の指導の評価と改善、応用実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>また、総まとめとして、実際の指導現場（ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等）で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験する（体験実習）。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、授業（実習）の進め方について [到達目標] 授業（実習）のすすめ方を理解する</p> <p>第2講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（1） [到達目標] ジュニア期における運動遊びの価値について理解し説明できる。</p> <p>第3講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（2） [到達目標] 発達段階に応じた運動遊びの選択ができる。</p> <p>第4講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（3） [到達目標] 発達段階に応じたスポーツの選択ができる。</p> <p>第5講 スポーツ指導における運動遊びの活用について [到達目標] スポーツ指導における運動遊びの活用場面、活用方法について理解する。</p> <p>第6講 アイスブレイクの必要性について（1） [到達目標] アイスブレイクの必要性について理解し説明できる。</p> <p>第7講 アイスブレイクの必要性について（2） [到達目標] スポーツの指導現場で使えるアイスブレイク的具体例を作成することができる。</p> <p>第8講 運動遊びをアレンジする必要性について [到達目標] 運動遊びをアレンジする必要性とその方策について理解し説明できる。</p> <p>第9講 指導プログラムの作成について [到達目標] 指導プログラムの作成手順、留意点を理解し指導プログラムを作成できる。</p> <p>第10講 プログラムの指導実践について [到達目標] 指導実践を行う際の留意点（ねらい、観察、働きかけ）を理解し説明できる。</p> <p>第11講 指導内容の評価方法について [到達目標] 指導内容の振り返り手順について理解し説明できる。</p> <p>第12講 ジュニアスポーツ指導体験実習（1） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。</p> <p>第13講 ジュニアスポーツ指導体験実習（2） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。</p> <p>第14講 まとめ [到達目標] 授業のまとめとなる「レポート」を作成する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習として、教科書のタイトルに示した内容について、事前学習をする。（予習35分） 事後学習として、授業内容や実践・作成したプログラムについてまとめる。（復習35分）
教科書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
参考書	特定の参考書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
成績評価	(1) 4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

	(2) 授業取状況及び出席状況：50% プログラム作成・発表：30% 指導体験実習、レポート：20%
担当教員の基本情報	担当教員名： 齊藤昌久 / 岩内和也 研究室： 齊藤（8号館4階 研究室） / 岩内（6号館1階 非常勤講師室） メールアドレス： ma_saito@meiji-u.ac.jp / オフィスアワー： 授業開始前及び授業終了後に受け付ける
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連；◎-1、○-3, 4
	担当の岩内和也先生は、永年にわたり府立高等学校の保健体育の教員をし、教科指導以外にもスポーツ（サッカー）のコーチングも行ってこられた。この豊かな指導経験をもとに「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ・Ⅱ」について実習指導を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
秋濱 裕之、坪倉 寛明、木村 隆彦、諫山 憲司、上久保 敦、高橋 司、原 貴大、柳 聖美、皆藤 竜弥、守岡大吾、金子 優輝			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	救急処置実習 B (病院内実習) で経験した、全症例の中から 1 症例を選び、症例についてプレゼンテーションとディスカッションを行い、卒業論文作成に向けて準備を行う。 ゼミ単位で学生を受け持ち、各担当教員指導の下、症例のまとめ・資料作成を行う。		
授業計画	第 1 講	オリエンテーション 【到達目標】オリエンテーションを行い、各班に分かれ卒業研究を行う上での計画を立てる。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分) 復習：グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること (所要時間50分)	
	第 2 講	プレゼンテーション資料作成① 【到達目標】1 回の授業で、3 名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること (所要時間50分)	
	第 3 講	プレゼンテーション資料作成② 【到達目標】1 回の授業で、3 名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること (所要時間50分)	
	第 4 講	プレゼンテーション資料作成③ 【到達目標】1 回の授業で、3 名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること (所要時間50分)	
	第 5 講	プレゼンテーション① 【到達目標】1 回の授業で、3 名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること (所要時間50分)	
	第 6 講	プレゼンテーション② 【到達目標】1 回の授業で、3 名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること (所要時間50分)	
	第 7 講	プレゼンテーション③ 【到達目標】1 回の授業で、3 名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有 (プレゼンテーションとグループディスカッションを行う) 【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること (所要時間50分)	

第8講	<p>復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) プレゼンテーション④</p> <p>【到達目標】1回の授業で、3名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
第9講	<p>復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) プレゼンテーション⑤</p> <p>【到達目標】1回の授業で、3名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
第10講	<p>復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分) プレゼンテーション⑥</p> <p>【到達目標】1回の授業で、3名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
第11講	<p>発表スライド修正①</p> <p>【到達目標】1回の授業で、3名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
第12講	<p>発表スライド修正②</p> <p>【到達目標】1回の授業で、3名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
第13講	<p>発表スライド修正③</p> <p>【到達目標】1回の授業で、3名程度のプレゼンテーション・ディスカッションを行い、各自の症例について理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
第14講	<p>発表スライド最終修正・提出</p> <p>【到達目標】第1～13講で学習した内容をまとめパワーポイントを完成させる。論文作成に向けて準備を進める。 授業形態アクティブラーニング有(プレゼンテーションとグループディスカッションを行う)</p> <p>【備考】 予習：自分の症例について各自で調べてまとめること(所要時間50分) 復習：プレゼンテーション・グループディスカッションで学んだことについてレポートをまとめること(所要時間50分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> 救急処置実習B(病院内実習)で経験した、全症例の中から1症例を選び、その症例についてプレゼンテーションを作成する。 プレゼンテーションとディスカッションで出た意見やそれらを踏まえての今後の課題・展望についてまとめる。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
参考書	理科系の作文技術(中松新書)
成績評価	<p>スライドの内容(50%)、プレゼンテーションの内容(50%)</p> <p>本科目の出席は以下の通りに取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 秋濱裕之 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_akihamameiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2, ○-3

講義科目名称： 卒業研究Ⅱ

授業コード： 1E418

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	必修
担当教員			
秋濱 裕之、坪倉 寛明、木村 隆彦、諫山 憲司、上久保 敦、高橋 司、原 貴大、柳 聖美、皆藤 竜弥、守岡 大吾、金子 優輝			
配当学科：救急救命学科	時間数：60時間	授業形態：演習/ブレンディット型	
添付ファイル			

授業目標	卒業研究Ⅰで発表した症例についての論文を作成する。 ゼミ単位で学生を受け持ち、各担当教員指導の下、調査・研究・論文作成を行う。
授業計画	ゼミ ゼミ単位での各担当教員指導の下、論文を作成する。 【到達目標】 卒業研究Ⅰで発表した症例についての論文を完成させる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有（ゼミ形式） 【備考】 各担当教員が2単位(14コマ分)に相当する時間数の論文指導を行う。 10月第4週の締切日までに論文提出を行うこと。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	卒業研究Ⅰで発表した症例についての論文を作成する。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
参考書	理科系の作文技術（中松新書）
成績評価	論文内容から評価する（100%） 本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適用される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 秋濱裕之 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_akihamameiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2, ○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	講義形態：対面講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 “人体構造学”は、人体をその構造や機能を基にいくつかの器官系に分けて形態的に理解しようというものである。内容的には肉眼解剖学から顕微解剖学（組織細胞学）さらには発生学の分野が含まれる。本教科では、器官系に分けて逐次解説し、得られた知識を基に分解された人体を、自ら再び一個の人体として再構築する能力を養いその構造を理解してもらうことを目的とする。</p> <p>【授業目標】 本教科では、生体機能を調節するホルモンを分泌する内分泌系、精子や卵子を生産する生殖系、生命活動の源になる神経系、五感を感知する感覚器系、カラダの運動を支える運動器系、その各器官系を構成する器官の構造およびはたらきについて講義し、プリントや問題演習を通して理解し、各器官系の構造を自分の言葉で説明できることを目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 内分泌系（1） 【授業概要】 下垂体、松果体の構造と機能について 【到達目標】 下垂体、松果体について説明できる 【授業形態】アクティブラーニング有り 【予習・復習】 事前に教科書の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し学習し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 【授業目標】 ①『系統看護学講座 人体の構造と機能』p272-283、p298を熟読しておく。 【注意】講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>2回目 内分泌系（2） 【授業概要】 甲状腺、副腎、睪島の構造と機能について 【到達目標】 甲状腺、副腎、睪島について説明できる 【授業形態】アクティブラーニング有り 【予習・復習】内分泌系（2）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p283-306を熟読しておく。 【注意】講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>3回目 生殖器系：男性生殖器（1） 【授業概要】 精巣と精路の構造、前立腺、陰茎、陰嚢の構造と役割について 【到達目標】 精子の産生機構と輸送経路、前立腺、陰茎、陰嚢について説明できる 【授業形態】アクティブラーニング有り 【予習・復習】生殖器系：男性生殖器（1）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p494-500を熟読しておく。 【注意】講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>4回目 生殖器系：女性生殖器（1） 【授業概要】 卵巣および卵管の構造、子宮、胎盤、膣の構造、人体の発生について 【到達目標】 卵子の産生機構と輸送経路、子宮、胎盤、膣、人体の発生について説明できる 【授業形態】アクティブラーニング有り 【予習・復習】生殖器系：女性生殖器（1）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p500-510、p510-526を熟読しておく。</p>

5回目	<p>注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>神経系：中枢神経系（1）</p> <p>[授業概要] 脳の構造と機能について [到達目標] 脳について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]神経系：中枢神経系（1）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p384-394、p397-p409を熟読しておく。</p>
6回目	<p>注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>神経系：中枢神経系（2）</p> <p>[授業概要] 脊髄の構造と伝導路について [到達目標] 脊髄について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]神経系：中枢神経系（2）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p395-397、p429-434を熟読しておく。</p>
7回目	<p>注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>神経系：末梢神経系（1）</p> <p>[授業概要] 脳神経、脊髄神経の構成と働きについて [到達目標] 脳神経、脊髄神経について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]神経系：末梢神経系（1）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p409-418を熟読しておく。</p>
8回目	<p>注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>神経系：末梢神経系（2）</p> <p>[授業概要] 交感神経および副交感神経の特徴と働きについて [到達目標] 自律神経について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]神経系：末梢神経系（2）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p262-272を熟読しておく。</p>
9回目	<p>注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>感覚器系（1）</p> <p>[授業概要] 皮膚、毛、爪、皮膚腺の構造と機能について [到達目標] 皮膚の構造と感覚受容器について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]感覚器系（1）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p462-468、疼痛：p455-460 その他：嗅覚・味覚器p453-455を熟読しておく。</p>

	<p>10回目 感覚器系（2） [授業概要] 眼球、眼筋、眼瞼の構造と機能について [到達目標] 視覚器について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]感覚器系（2）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p434-447を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>11回目 感覚器系（3） [授業概要] 外耳、中耳、内耳の構造と機能について [到達目標] 平衡・聴覚器について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]感覚器系（3）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p447-453を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>12回目 運動器系（1） [授業概要] 骨の構造と関節、骨格筋の構造と作用について [到達目標] 骨の構造と関節、骨格筋の構造と作用を説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]運動器系（1）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p308-318を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をしてもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>13回目 運動器系（2） [授業概要] 体幹の骨格と筋について、四肢の骨格と筋について [到達目標] 体幹、上肢、下肢の骨格と筋について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]運動器系（2）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p319-324、p324-361を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>14回目 運動器系（3） [授業概要] 頭部および頸部の骨格と筋について [到達目標] 頭頸部の骨格と筋について説明できる [授業形態]アクティブラーニング有り [予習・復習]運動器系（3）の該当範囲を精読し、予習復習プリントの穴埋めを完成し、確認のためGoogle formで問題を解いておくこと。 ①p361-369、筋の収縮機構p369-382を熟読しておく。 注意点：講義の前にGoogle formを用いて予習問題を解いて理解を深め、講義の約15分で教員が簡単に説明し、30分で予習復習プリントのどこが重要かを学生へ問う反転講義を行う。その重要項目について各グループ個人個人が自分の言葉で説明できるように練習をもらう（アクティブラーニング）。従って、講義前には必ずGoogle formを用いて予習問題を解き、予習復習プリントをやっておくこと。講義終わりに小テストを行う。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p> <p>15回目 定期試験（時間外） 成績評価欄参照。 第1回-14回の講義内容の基本的な解剖学の構造名称（用語）やその機能について説明できるようになったものを合格とする</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	人体構造の知識は、医学領域に於いては最も基礎となり、これから医療人を目指す君たちにとって欠かすことのできないものである。しかし、その修得には努力が必要である。

	<p>事前に授業範囲を教科書あるいは配布プリントによって予習を行い（予習：1時間程度）、Google form で各項目の確認問題を解いておく。授業後には配布した復習用プリントやノートを見直し、不備な所を教科書、参考書あるいはテキスト等を参考に訂正あるいは補充して復習しておくように努める（復習：1時間程度）。また、配布した解剖学復習用プリントを利用し、重要項目を繰り返して学習することで記憶し、人体を立体的にイメージ出来るように学習することを望む。（2年次後期の解剖見学実習で知識が問われる）</p>
教科書	『系統看護学講座 専門基礎 1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他（医学書院）2019年、4,180円（税込）
参考書	『改訂第10版 救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会編（へるす出版）2020年、19,800円（税込） 『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井建雄 他（成美堂出版）2010年、2,090円（税込） 『のほん解剖生理学』玉先生 他（永岡書店）2016年、1,628円（税込） さらに深く学びたい方へ 『人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 改訂第4版』 坂井建雄/総編集（日本医事新報社）2021年、19,800円（税込）
成績評価	<p>講義時間内にGoogle formで小テストを行い、学習内容をチェックする（20点）。 講義時間外に各項目の重要事項を問う定期試験（80点満点）を行い、小テスト+定期試験で総合評価（合計100点満点）する。 合格基準は総合点数（合計100点満点）の60%以上とする。 なお、本試験の総合点数で20点未満は再試験を受ける権利がありませんので、しっかり学修計画を立て、勉強するようにしてください。また、本試験を正当な理由無く欠席した場合は、追試験を行いません。事前にわかる場合は教員に相談し、正当な理由のある場合は欠席届を提出してください。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 鳴瀬 善久 研究室 : 1号館2階 教授室または3号館学修支援センター室へ メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00</p>
備考	<p>①実務経験の有無：実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに人体の構造と機能について講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係：1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2</p>

講義科目名称： 病理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要]</p> <p>病理学は、解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があります。病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するのかについて学びます。</p> <p>講義の前に予習として「事前課題」を出しますので、作成して提出してください。</p> <p>講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために、講義の最後に今日の講義範囲内の確認問題を使ったテストを行いますので、それを利用し授業時間外学習として課題ノートを作成します。また、講義内容についてのフィードバックペーパーや講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標]</p> <p>臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは・疾病について</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>病理学で学ぶこと・疾病についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（病因①）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第2回 病因①（内因）</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>病因①（内因）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（先天性異常）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第3回 先天性異常</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>先天性異常についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（病因②）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第4回 病因②（外因）</p> <p>[到達目標・学習目標]</p> <p>病因②（外因）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態]</p> <p>アクティブラーニング（対話）</p> <p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考]</p> <p>①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。</p> <p>②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。</p> <p>④講義前には、次の講義（生物学的外因と感染症）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第5回 生物学的外因と感染症</p>

	<p>[到達目標・学習目標] 生物学的外因と感染症についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（炎症）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p>
第6回	<p>炎症</p> <p>[到達目標・学習目標] 炎症についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（免疫異常とアレルギー）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p>
第7回	<p>免疫異常・アレルギー</p> <p>[到達目標・学習目標] 免疫異常・アレルギーについての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④次回の中間試験に向け、「病理学とは」から「免疫異常・アレルギー」までの事前課題や課題ノートを使い復習しておく。</p>
第8回	<p>中間試験と試験解説</p> <p>[到達目標・学習目標] 「病理学とは」から「免疫異常・アレルギー」までの範囲の試験で合格点を取る。 わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 中間試験とともにフィードバックペーパーを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはメリーで返信するか次回の講義でクラス内に共有する。</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。 ②次の講義（循環障害①）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p>
第9回	<p>循環障害①</p> <p>[到達目標・学習目標] 循環障害①についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（循環障害②）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p>
第10回	<p>循環障害②</p> <p>[到達目標・学習目標] 循環障害②についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（細胞傷害）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p>
第11回	<p>細胞傷害（退行性病変・代謝障害）</p> <p>[到達目標・学習目標] 細胞傷害（退行性病変・代謝障害）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング（対話）</p>

	<p>フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（進行性病変）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第12回 進行性病変 [到達目標・学習目標] 進行性病変についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（腫瘍①）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第13回 腫瘍① [到達目標・学習目標] 腫瘍①についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（腫瘍②）範囲の教科書を読み「事前課題」を作成し予習しておく。</p> <p>第14回 腫瘍② [到達目標・学習目標] 腫瘍②についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のまとめ」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③次回の期末試験に向け、「循環障害①」から「腫瘍②」までの事前課題や課題ノートを使い復習しておく。</p> <p>第15回 期末試験と試験解説 [到達目標・学習目標] 「循環障害①」から「腫瘍②」までの範囲の試験で合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） 期末試験とともにフィードバックペーパーを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはメリーで返信する。 [備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習（30分） ①次の講義範囲の教科書を読み事前課題を作成し予習しておく。 ②前回の講義で出された「宿題」をやっておく。 復習（30分） ①配布プリントや教科書を参考にノートに「今日のまとめ」をまとめる。 ②講義時間の最後に行う「確認問題」をノートに貼って解説をつける（課題ノート）。 わからないことは、「フィードバックペーパーやアンケート用紙に記入する」、「メリーやメールで聞く」、「教員に直に聞きに行く」などとして、必ず解消しておいてください。
教科書	「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版）
参考書	「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 第6版」大橋 健一他著（医学書院） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹緒（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版） 「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）
成績評価	定期試験（中間・期末）80%、事前課題と小テストと課題ノート10%、平常点（フィードバックペーパー含む）10%より総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00
備考	①「各学科の資格に関する実務経験の有無」 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験をもとに「病気の原因や成り立ちについて」授業をすすめる。

	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
救急救命学科	15時間	講義（遠隔授業：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	感染症の要因となる病原微生物の特徴、感染症の成立・発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、主な感染症の原因微生物・特徴・感染経路、感染症患者への対応や感染防止対策を学ぶ。さらに、生体に侵入する病原微生物や異物に対する生体防御システムを学び、免疫応答としての炎症反応やアレルギー反応を理解する。		
授業計画	第1回	病原微生物と感染症、病原微生物の種類と特徴 [到達目標] ・感染症成立の要因について理解する。 ・病原微生物の種類とそれぞれの特徴について理解する。 ・発症に関わる病原体側因子について理解する。 ・感染経路および感染症の分類について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第2回	生体防御システム [到達目標] ・生体防御系の全体像、自然免疫と獲得免疫の仕組みについて理解する。 ・感染症における免疫応答、急性炎症反応について理解する。 ・アレルギーと自己免疫疾患について理解する。 ・免疫不全について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第3回	感染の予防と対策 1 [到達目標] ・感受性体対策、感染源対策、感染経路対策について理解する。 ・標準予防策、感染経路別予防策について理解する。 ・消毒法・滅菌法の種類と特徴および問題点について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第4回	感染の予防と対策 2 [到達目標] ・感染症法、予防接種法および関連する他の法律について理解する。 ・感染症治療における化学療法剤の分類・特徴・作用機序および副作用について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第5回	感染症 1 [到達目標] ・主な呼吸器感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な消化器感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第6回	感染症 2 [到達目標] ・主な全身感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な神経系感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な眼感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な尿路・性感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第7回	感染症 3 [到達目標] ・主な皮膚・軟部組織感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・ウイルス性肝炎・レトロウイルス感染症の起病病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	試験	第1回目～7回目講義内容 対面で行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（130分程度） 2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を見直して理解を深めること。（2. 3併せて130分程度） 4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。		
教科書	「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」藤本秀士編著、目野郁子、小島夫美子著（南山堂） 救急救命士標準テキスト（改訂第10版）救急救命士標準テキスト編集委員会（へるす出版）		

参考書	「シンプル微生物学」東 匡伸、小熊恵二 編 (南江堂) 「Simple Step 感染症」平山 謙二監修 (海馬書房) 「戸田細菌学」吉田・柳 編 (南江堂) 『シンプル免疫学』 中島泉ほか (南江堂) 『もっとよくわかる！免疫学』 河本宏 (羊土社) 『メディカル免疫学』 A. ロアット (西村書店) 『免疫生物学』 笹月健彦 訳 (南江堂) 『マンガでわかる免疫学』 河本宏 (ビーコムプラス)
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は期末試験の得点 (90点) と確認問題 (10点 ※全て提出で10点) で行い、60点以上を合格とする。 但し、出席が6割 (5回) に満たない者は期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日13:00-13:50
備考	この科目とディプロマポリシーとの関連 : ◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
池本 敬博			
		対面実技+ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	・ 自己の健康管理と体力向上を目的として、陸上競技の歩く・走る・跳ぶ・投げるを通して運動の知識と健康づくりを学ぶことができるようになる。		
授業計画	1回目	ガイダンス ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、自己の体力向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践を体験理解できる。	
	2回目	ウォーキング1 健康ウォーキング理論 屋外ウォーキング1（グラウンド周回） ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを体験理解できる。	
	3回目	陸上競技(速歩)1 屋内で100mウォーキングタイム測定1 ウォーキングタイム測定により自己の歩行スピードを体験理解できる	
	4回目	陸上競技(跳躍) 屋内で立5段跳び測定 立5段跳び測定により自己の脚筋力・瞬発力を体験理解できる。	
	5回目	陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ(メディシンボール)測定 メディシンボールによる砲丸投げで自己の投擲力・筋力を体験理解できる。	
	6回目	オンデマンド授業1 スクワットについて 安全かつ効果的に足腰を鍛える方法を理解できる。	
	7回目	体力測定1 体力測定の方法1 体力測定(握力・上体おこし)を通して、新スポーツテストの実施方法を体験理解できる。	
	8回目	体力測定2 体力測定の方法2 体力測定(反復横跳び・立幅跳び)を通して、新スポーツテストの実施方法を体験理解できる。	
	9回目	オンデマンド授業2 レジスタンス運動について 身体活動・運動の進め方について理解できる。	
	10回目	陸上競技(ハードル) ミニハードル走から巧緻性向上と自己の歩行・ランニングスピード向上を体験理解できる。	
	11回目	オンデマンド授業3 運動療法について 身体活動・健康運動実践について理解できる。	
	12回目	陸上競技(速歩)2 グラウンドで100m速歩のタイム測定 速歩測定により自己の歩行スピードを体験理解できる。	
	13回目	コミュニケーション 対人及び集団でのコミュニケーションスキルを体験理解できる	
	14回目	総括 陸上競技の走る・跳ぶ・投げるを通して、ウォーミングアップ方法を体験理解できる。	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。		
教科書	指定しない		
参考書	指定しない		
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時		

備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部運動指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎-3 ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
添付ファイル			

授業目標	陸上競技は「走る・跳ぶ・投げる」が基礎となっている運動である。 ウォーミングアップ・ストレッチ・ミニハードル・ラダートレーニング・新体力測定・基本動作・ドリル・自重トレーニング等を実践し、知識や技術を習得させ計測につなげさせる。 またスポーツと身体の動きづくりに対する認識を深める事を目標とする。		
授業計画	1	ガイダンス 健康スポーツ実習Ⅲの狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	2	ウォーミングアップ 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温をを上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。 予習：ウォーミングアップについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	3	動的ストレッチ 動的ストレッチ(ダイナミック)の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点(関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運動などetc)がある事を理解させ実践させる。 予習：動的ストレッチについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	4	ミニハードル・ラダートレーニング ミニハードル・ラダートレーニングを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。 予習：ミニハードル・ラダートレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	5	新体力テスト1 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」(握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび)を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	6	新体力テスト2 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」(50m走・ボール投げ)を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	7	自重トレーニング(体幹) 自分の体重(自重)を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても(意識・回数・インターバル)効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：体幹の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	8	自重トレーニング(全身) 自分の体重(自重)を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても(意識・回数・インターバル)効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：全身の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	9	短距離(基本・ドリル) 短距離走で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：短距離の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	10	100m走(計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習：100m走について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	
	11	跳躍(基本・ドリル) 跳躍競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：跳躍の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)	

	12	走り幅跳 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:走り幅跳について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	13	投擲 (基本・ドリル) 投擲競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習:投擲の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	14	ボール投 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:ボール投について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	15	リレー種目 短距離で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させ、リレー種目についてルール・注意点を説明し実践させる。予習:動的リレーについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	授業態度50% 実技評価30% 授業の貢献度20%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考	DP「◎-3」「○-4」	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
小川 豊清			
救急救命学科	30時間	実習(対面授業)	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。 4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。 5. 審判規定が理解できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・柔道衣採寸 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣がないので、スポーツウェアを持参してください。 1) 柔道の概要(歴史や理念)が理解できる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 柔道衣の採寸。</p> <p>第2回 柔道衣の着方・柔道の概要・礼法・受け身・立技・固技 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 後受け身ができる。 4) 立技(大外刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 5) 固技(袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第3回 礼法・受け身・立技・固技 1) 横受け身ができる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 立技(背負投)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 4) 固技(縦四方固)の理解ができる。</p> <p>第4回 礼法・受け身・立技・固技 1) 前回り受け身ができる。 2) 立技(一本背負投)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(上四方固)の理解ができる。</p> <p>第5回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(大腰)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(逆袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第6回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(体落)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(肩袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第7回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(払腰)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第8回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(膝車)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第9回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(支釣込足)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第10回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(大内刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第11回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(小内刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技・関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第12回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p> <p>第13回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p>

	<p>第14回 まとめ、理解度チェック</p> <p>1) 礼法（立礼、座礼）ができる。</p> <p>2) 受け身ができる。</p> <p>3) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。</p> <p>4) 固技の掛け方ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し（予習35分）、実技で学修した内容をまとめてください（復習35分）。</p>
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著（史資料出版協会）
成績評価	<p>授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。</p> <p>実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
村川 増代			
担当学科：救急救命学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、体育・スポーツの基礎的概念について解説し、体育科学・スポーツ科学の基礎的知識を学びながら、体育・スポーツについて、その基礎的概念や科学的な知識をより深く体系的に理解するための能力を育成する。また、それに従い体育・スポーツの目標論を検討しながら、スポーツ原理について体系的に学習し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 「原理」の概念 本授業内容の方向付け [到達目標] 「原理」の基礎概念について理解できる。 予習：身近にあふれている「原理」と名の付く言葉を集めてくる（60分） 復習：「原理」について学んだことを復習しておく（60分）</p> <p>第2講 体育とスポーツ（1） [到達目標] 体育とスポーツの違いについて理解できる。 予習：体育とは何か。またスポーツとは何か考えておく（60分） 復習：体育とスポーツの違いについて学習内容を復習しておく（60分）</p> <p>第3講 体育とスポーツ（2） [到達目標] 体育・スポーツにおける哲学的解釈を理解できる。 予習：体育・スポーツにおける「哲学」とは何かを考えてくる（60分） 復習：原理の哲学的解釈について復習しておく（60分）</p> <p>第4講 身体教育の歴史を「原理」的に解析 [到達目標] 体育原理とスポーツ原理を対比できる。 予習：「体育原理」と「スポーツ原理」の違いを明確にしてくる（60分） 復習：本時で学んだ両者の違いを対比表でまとめてくる（60分）</p> <p>第5講 スポーツ科学 [到達目標] スポーツ科学を原理的に分析できる。 予習：スポーツ科学の現状を調べてくる（60分） 復習：スポーツ科学発展の歴史について、古代から近代までの年表を作成する（60分）</p> <p>第6講 スポーツの概念とその歴史 [到達目標] 遊びから競技への発展過程を原理的に解釈できる。 予習：現在の各種スポーツが、競技種目として完成されるまでの経緯を調べてくる（60分） 復習：各種スポーツ競技が完成されていった過程を時系列に並べ、一覧表を作成する（60分）</p> <p>第7講 文化としてのスポーツ [到達目標] 「伝統的な競技」から「競技スポーツ」への発展について考えることができる。 予習：古代から近代までの伝統的競技が、競技スポーツに発展した事例を調べる（60分） 復習：古代からの伝統競技と近代スポーツ競技の完成経緯がわかる年表を作成する（60分）</p> <p>第8講 オリンピック（1）オリンピックの歴史 [到達目標] 古代オリンピックと近代オリンピックを対比できる。 予習：古代オリンピックと近代オリンピックの歴史を調べてくる（60分） 復習：オリンピックの歴史年表を作成する（60分）</p> <p>第9講 オリンピック（2） [到達目標] オリンピックと経済の関係について「原理」の側面から分析できる。 予習：オリンピックにおける経済効果が注目され始めた時代背景を調べてくる（60分） 復習：古代と現代で、オリンピック大会の在り方がどのように変わっていったか時系列にまとめる（60分）</p> <p>第10講 ドーピングの哲学 [到達目標] ドーピングの哲学について「原理」の立場から分析できる。 予習：なぜドーピングに走るのか、その背景を事例ごとに時系列にまとめてくる（60分） 復習：ドーピングすることに追い込まれた選手の心理的背景を一覧表にして整理する（60分）</p> <p>第11講 スポーツマンシップとフェアプレイ [到達目標] スポーツマンシップとフェアプレイを「原理的」に分析できる。 予習：スポーツマンシップとフェアプレイについて、話題になった事例を集めてくる（60分） 復習：スポーツマンシップが無くなると、競技はどうなるのかまとめる（60分）</p> <p>第12講 コーチング、スポーツ指導者におけるスポーツ原理とは [到達目標] スポーツにおける指導者の在り方について考えることができる。 予習：「いいコーチ」と「わるいコーチ」の、実際にあった事例を集めてくる（60分） 復習：コーチングの原理的解釈について理解したことをまとめる（60分）</p> <p>第13講 「女性とスポーツ」の原理 [到達目標] 近代科学と女性のスポーツ活動について解析できる。 予習：女性が参加しやすくなったスポーツ社会背景を科学的な視点から調べてくる（60分） 復習：科学の発展と女性のスポーツ活動の活性化を対比してまとめておく（60分）</p> <p>第14講 総括 [到達目標] 講義のまとめ（定期試験） 予習：第1講～第13講をまとめておく（60分）</p>

	復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（60分）
授業時間外の学習 （準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3、○-4。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：救急救命学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の視点・論点から講義し、スポーツの社会的意義について学習する。また、スポーツと社会との関わりについて具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、健康等の観点から考察していく。さらに、現代の子ども社会における、子どものからだところの諸問題を理解し、子どものライフスタイルに適したあそび・運動・スポーツの必要性を理解し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション、スポーツの歴史と概念 [到達目標] 概念、歴史、スポーツについて理解できる。 予習：身近にあふれているスポーツとつく言葉を集めてみる。またスポーツの歴史について考える（45分） 復習：スポーツの歴史・概念について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第2講	<p>現代社会の特徴から見たスポーツの必要性 [到達目標] スポーツの必要性について理解できる。 予習：なぜ現代社会ではスポーツの必要性が問われているのか考える（45分） 復習：スポーツの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第3講	<p>地域におけるスポーツ振興 [到達目標] 我が国のスポーツ行政について考えることができる。 予習：スポーツ行政とは何か考えてくる（45分） 復習：スポーツ行政について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第4講	<p>総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義 [到達目標] 地域スポーツクラブの必要性について解析できる。 予習：なぜ現代社会では地域スポーツクラブの必要性が問われているのか考える（45分） 復習：地域スポーツクラブの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第5講	<p>地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」 [到達目標] 地域におけるスポーツクラブの組織と活動内容について考えることができる。 予習：地域におけるスポーツクラブの活動内容とは何か考えてくる（45分） 復習：地域におけるスポーツクラブの組織と活動内容について学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第6講	<p>社会の中のスポーツ [到達目標] スポーツの産業化、地域生活とスポーツのあり方について解析できる。 予習：地域生活とスポーツの関係について考える（45分） 復習：スポーツの産業化、地域生活とスポーツの関係について学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第7講	<p>我が国のスポーツプロモーション [到達目標] 我が国のスポーツプロモーションの課題とその展望について考えることができる。 予習：なぜ社会ではスポーツプロモーションの必要性が問われているのか考える（45分） 復習：我が国のスポーツプロモーションの課題と展望について学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第8講	<p>スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 [到達目標] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理と責任について理解できる。 予習：スポーツ事故における危機管理体制の大切さを考える（45分） 復習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理体制について学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第9講	<p>発育発達期の子ども達の身体的特徴と多い怪我や病気 [到達目標] 発育発達期の子ども達の怪我や病気、安全管理について解析できる。 予習：発育発達期の怪我や病気、安全管理の大切さについて考える（45分） 復習：発育発達期の身体的特徴と多い怪我や病気、安全管理について学習内容を理解しておく（45分）</p>	
	第10講	<p>総合型地域スポーツクラブの育成と運営 [到達目標] 総合型地域スポーツクラブの背景と創設について考えることができる。 予習：地域密着型スポーツクラブの運営について考える（45分） 復習：地域密着型スポーツクラブの育成と運営について学習内容を理解しておく（45分）</p>	
	第11講	<p>「スポーツ組織のマネジメント」と「事業のマーケティング」 [到達目標] スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて理解できる。 予習：スポーツ組織のマネジメントとは何か考えておく（45分） 復習：スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて学習内容を見直す（45分）</p>	
	第12講	<p>オリンピックと経済 [到達目標] オリンピックと経済の関係について解析できる。 予習：オリンピックと経済の関係について考えておく（45分） 復習：オリンピックと経済の関係について学んだ内容を理解しておく（45分）</p>	
	第13講	<p>スポーツがもたらす経済効果 [到達目標] スポーツと経済の関係について理解できる。 予習：スポーツがもたらす経済効果について考えておく（45分）</p>	

	<p>第14講</p> <p>復習：スポーツがもたらす経済効果について学習内容を理解しておく（45分） 総括 [到達目標] 講義のまとめ（定期試験） 予習：第1講～第13講をまとめておく（45分） 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（45分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：村川増代 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-3。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学部：保健医療学部 救急救命学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_1E226スポーツ心理学_救急.xlsx			

授業目標	<p>【授業概要】 スポーツ心理学では、コーチングの基本である「より良い人間関係の構築」するのに必要な知識やスキル、自分自身を知り客観的に見つめることのできる知識やスキル、またスポーツが個人の人格形成に及ぼす効果、個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響すること、を学ぶ。さらに、スポーツへの動機づけやコーチングの評価などの原理・原則から具体的な方法論を学ぶ。</p> <p>【授業目標】 授業内容を十分に理解し、実践知識として臨床・教育・スポーツ指導現場に有効活用できることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、スポーツ、コーチング、心理学、スポーツ心理学とは</p> <p>【到達目標】 1) スポーツ心理学について概説できる。 2) スポーツの心理的効果について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） スポーツ、心理。教科書第1章1を熟読。</p> <p>第2講 対他者力を磨こう！-1：コミュニケーション・リーダーシップ・プレゼンテーションスキル</p> <p>【到達目標】 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル。教科書第1章4. 1～3を熟読。</p> <p>第3講 対他者力を磨こう！-2：ファシリテーションスキル、チームビルディング</p> <p>【到達目標】 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 18) チームビルディングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） ファシリテーションスキル、チームビルディング。教科書第1章4. 4～5を熟読。</p> <p>第4講 対自己力を磨こう！：コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法</p> <p>【到達目標】 13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 22) 自己分析、イメージトレーニング、心理的コンディションについて説明できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法。教科書第1章5. を熟読。</p> <p>第5講 心のトレーニング-1：行動としてのスポーツ、動機づけ</p> <p>【到達目標】 6) 内発的動機づけと外発的動機づけの違いが説明できる。 7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをうけてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 19) バーンアウトについて説明できる。 20) 運動の参加継続について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメ</p>

第6講	<p>ントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動としてのスポーツ、動機づけ。教科書第2章4. 1～2 を熟読。</p> <p>心のトレーニング-2：メンタルマネジメント、他者観察</p> <p>【到達目標】</p> <p>13) スポーツが個人の間人形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 26) スポーツメンタルトレーニングについて説明できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） メンタルマネジメント、他者観察。教科書第2章4. 3～4. を熟読。</p>
第7講	<p>心のトレーニング-3：個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談</p> <p>【到達目標】</p> <p>12) コーチの指導条件が人間形成効果の促進・妨害するコーチの指導条件が説明できる。 13) スポーツが個人の間人形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談。教科書第1章4. 5～6を熟読。</p>
第8講	<p>心のトレーニング-4：運動感覚、運動学習</p> <p>【到達目標】</p> <p>9) 運動学習理論について説明できる。 10) モデリング（観察学習）や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方が説明できる。 11) 運動学習の制御について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習。教科書第1章4. 7～8 を熟読。</p>
第9講	<p>心のトレーニング-5：フィードバック、心理サポート・集中力</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 10) モデリング（観察学習）や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方が説明できる。 28) スポーツカウンセリングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） フィードバック、自己決定理論。教科書第1章4. 9～10. を熟読。</p>
第10講	<p>心のトレーニング-6：イメージトレーニング、あがり・プレッシャー・スランプ</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴、情動（緊張・不安）の状態が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク。教科書第1章4. 11～12. を熟読。</p>
第11講	<p>心のトレーニング-7：性格/自己概念、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 性格・自己概念、心理的コンディショニング。教科書第1章4. 13～14. を熟読。</p>
第12講	<p>心のトレーニング-8：その他、目標達成ツール等</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目）</p>

	<p>マンダラート、マインドマップ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第13講 スポーツ・運動における行動変容 【到達目標】 20) 運動の参加継続について説明できる。 21) 行動変容ステージが説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） セルフエフィカシー、行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第14講 レビュー：これまでの授業内容の総合的な復習（質問に答えて）と練習問題 【到達目標】 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） 授業内容で理解のできなかつた項目、疑問点を抜き出しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習35分）。理解できない箇所（事柄）があれば、参考書を熟読するか、小テストのコメントに記入すること。次の授業でフィードバックする。 ・ 講義資料（ハンドアウト）は、講義ノートと共に必ず整理すること。授業の復習は、必ず確実にすること（記憶に焼き付けられようように）（復習35分）。 ・ 試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。
教科書	「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「勝負脳の鍛え方」林 成之著（講談社現代新書） 2) 「スラムダンク勝利学」辻 秀一著（集英社） 3) 「勝ちつづけるチームをつくる勝負強さの脳科学ーピットフォールの壁を破れ！ー」林 成之著（朝日新聞出版）
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> ①合格点：100点法により評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点の算出・内訳：筆記試験 70%、小テスト 30% ③再試験：筆記試験が60%未満の場合、筆記試験により再評価を行う。 ④アセスメントとフィードバック： アセスメント；試験・テスト結果、 フィードバック；試験・小テストの結果発表、小テストのコメントの質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学生諸君の都合の良い時間（要予約）。事前にメールで予約を取ってください。</p>
備考	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断、5. 技能・表現</p>

講義科目名称： スポーツ生理学

授業コード： 1E227

英文科目名称： Sports Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ・運動時の循環，呼吸，神経，筋，およびエネルギー代謝などの生体諸機能の変化および反応について，運動生理学的な視点から学習する。トレーニングによる身体機能の変化について，運動生理学的観点から考察できるようにする。
授業計画	<p>第1回 運動と骨格筋・神経系（1） 到達目標：筋のATP産生系，運動強度・時間とエネルギー源，筋線維の種類について説明できる。 備考：教科書（第1章，第2章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 運動と骨格筋・神経系（2） 到達目標：運動の調節のしくみ，運動単位の動員，筋の収縮様式，トレーニングと筋力の変化，筋肥大のメカニズムについて説明できる。 備考：教科書（第3章，第4章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 運動と循環 到達目標：運動時の心拍出量変化，運動時の血圧変化，トレーニングによる循環機能の変化，スポーツ心臓について説明できる。 備考：教科書（第5章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第4回 運動と呼吸 到達目標：ガス交換，血液によるガスの運搬，呼吸商，最大酸素摂取量，酸素借，EPOC，換気性作業閾値，トレーニングによる呼吸機能の変化について説明できる。 備考：教科書（第6章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第5回 運動とホルモン 到達目標：ホルモンの種類，分泌の調節，身体活動に関与するホルモンの作用，運動時の代謝調節について説明できる。 備考：教科書（第7章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第6回 運動と体温調節 到達目標：産熱と放熱のしくみ，体温調節のしくみ，運動時の体温調節，運動と熱中症について説明できる。 備考：教科書（第9章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第7回 まとめ 到達目標：第1～6回までの学習範囲について理解した上で，運動時の生理学的変化を説明できる。 備考：事前に提示された課題に対して，説明ができるようにすること。 アクティブラーニングの有無：有 事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して，事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習130分） 各講義後，配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし，それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習130分）
教科書	『入門運動生理学 第4版』勝田 茂 編著，和田正信，松永 智 著（杏林書院）
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学，スポーツ生理学関連の本
成績評価	期末試験の結果（100%）と小テストの結果（20%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：林 知也 研究室：8号館4階 林（知）教授室 オフィスアワー：月曜日17:30-18:30
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
山谷 真			
配当学科：救急	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士になるために不可欠な知識のうちその就職活動に必要な知識技能や社会的職業的に自立するために必要な資質能力である基礎的汎用的能力の修得を目指す。特に社会に関わる資質・能力を育成する。		
授業計画	第1講	ガイダンス・経済的リテラシー習得1（市場） [到達目標] 商品の価格がどのように決定されるかを完全競争市場とそうでない市場とに分けて説明できる。	
		[備考]	
	第2講	経済的リテラシー習得2（需給曲線） [到達目標] 需給曲線がどのような場合にどのようにシフトするかを説明できる。	
		[備考]	
	第3講	経済的リテラシー習得3（財政、インフレとデフレ） [到達目標] さまざまな税金を分類できる。インフレとデフレがどのような現象で、どのような問題点があるかにつき説明できる。	
		[備考]	
	第4講	経済的リテラシー習得4（景気調整政策） [到達目標] 不景気時と好景気時それぞれにつき、財政政策と金融政策としてどのようなことを実施するのかを説明できる。	
		[備考]	
	第5講	経済的リテラシー習得5（国民所得・国際経済Ⅰ） [到達目標] 国民所得の意義や国民所得に関するさまざまな概念（国内総生産や国内純生産など）を説明できる。円高と円安それぞれにつき、どのような人たちに利益が発生するかを説明できる。	
		[備考]	
	第6講	経済的リテラシー習得6（国際経済Ⅱ） [到達目標] 自由貿易と保護貿易の利点と問題点を説明できる。	
		[備考]	
	第7講	経済的リテラシー習得7（経済史）・地理的リテラシー1（自然地理） [到達目標] 日本が終戦直後の混乱からどのような経過を経て経済大国になったかを説明できる。 各地形の成り立ちやその土地利用などを説明できる。	
		[備考]	
	第8講	地理的リテラシー習得2（地形・世界の気候） [到達目標] 各地域の気候を区別できる。ケッペンの気候区分を説明できる。	
		[備考]	
	第9講	地理的リテラシー習得3（世界の諸産業） [到達目標] 世界の各地域における気候の特色から、各地域でどのような農業がなされているかを説明できる。	
		[備考]	
	第10講	地理的リテラシー習得4（ヨーロッパ・アメリカ地誌） [到達目標] ヨーロッパ・アメリカ諸国の産業の特徴などを説明できる。	
		[備考]	
	第11講	地理的リテラシー習得5（アジア地誌） [到達目標] アジア諸国の産業の特徴などを説明できる。	
		[備考]	
	第12講	地理的リテラシー習得6（日本地理） [到達目標] 日本の各地域の気候の特色などをふまえた上で、その産業の特徴などを説明できる。	
		[備考]	
	第13講	地理的リテラシー習得7（時差・図法）	

	<p>[到達目標] 各図法の特徴をふまえた上で、その利用方法や欠点などを説明できる。 日本時間を各国の現地時間に換算することができる。</p> <p>[備考] 第14講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。 [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各回1時間程度の復習（授業冒頭に前回の復習小テストあり）
教科書	プリントを使用する
参考書	授業中指示するもの、及び高校のときに使用していた「政治経済」や「地理」の教科書
成績評価	まとめテスト50%・小テストとレポート30%・平常点20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
小峯 力			
配当学科：救急救命学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	救急救命士を含めた生命に携わる人に必要な生命倫理について理解する。 現代社会の中で、どのような倫理的課題のまえに立たされているかを認識し、特に人間（生命）に対する倫理観を深めていく。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 【到達目標】生命倫理を学ぶ意義について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第2講 生命倫理に関する原則 【到達目標】生命倫理に関する原則（自律の尊重、善行の原則、無危害の原則、公正・正義の原則）について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第3講 医の倫理 【到達目標】医の倫理（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言）について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第4講 生命倫理の考え方と医療の実際 【到達目標】生命倫理の考え方と医療の実際について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第5講 傷病者の権利を守る立場から 【到達目標】傷病者の権利（インフォームドコンセント、QOL、リビングウィル、脳死と臓器移植）について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第6講 救急救命士の職業倫理 【到達目標】救急救命士の職業倫理（日常業務における救急救命士の責務、救急救命士が個人として研鑽すべき責務）について理解する。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p> <p>第7講 まとめ・ディスカッション 【到達目標】第1講～第6講の講義で学んだことについて復習を行い、更に学んだ内容についてディスカッションを行い、理解を深める。 【授業形態】アクティブラーニング有（講義内容についてグループディスカッションを行う） 【備考】予習：改訂第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分） 復習：講義で学んだことについてレポートをまとめること（所要時間50分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習：第10版救急救命士標準テキストの該当ページを熟読すること（所要時間50分）。 復習：講義で学んだ内容についてレポートにまとめること（所要時間50分）。
教科書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト
参考書	改訂第10版 救急救命士標準テキスト
成績評価	平常点(授業態度)：20%、レポート課題：80% 本科目の出席は以下の通りに取り扱う。 1. 授業開始時刻から20分以内の入室は、遅刻とする。それ以後は入室を認めるが、欠席として取り扱う。 2. 授業開始時刻から80分以降の退室は、早退とする。それ以前の退室は、欠席として取り扱う。 3. 1つの授業時間で遅刻及び早退が同時に生じた場合は、欠席として取り扱う。 4. 遅刻・早退は、合わせて3回で1回の欠席として取り扱う。 5. 授業が2限以上連続で実施される場合、上記1～4は各時限ごと、個別に適応される。 6. 試験では、別途「学生便覧」の記載に準ずる。
担当教員の基本情報	担当教員名：小峯 力 研究室：6号館1階講師室 オフィスアワー：授業終了後1時間